

第249図 不明遺構出土遺物 (2)

## 第2節 遺物

出土した遺物には土師器・須恵器・須恵質陶器・瓦質土器・土師質土器・土製品・滑石製石鍋・青磁・白磁・青花・陶器・天目・宋錢がある。

### 土師器（第250図）

器種には壺と皿がある。

壺（1441～1454）はいずれも糸切り底のものである。内湾するものと、外へまっすぐ開きながら伸びるものとがある。1441は口縁直径が14cm、高さが3.7cm、底部直径が9.2cmの内湾する大型の壺で、口縁端は丸みをもっておわる。底に数条の棒状押圧痕がみられる。1446と1448は底からまっすぐ外へ開きながら伸びる器形をしている。

1446は口縁端が丸みをおびて厚く、作りも雑で、1448は細くて口縁端が尖がっている。口縁直径は1446が11cm、1448が12cmで、底部直径は共に9.5cmほどであるが、高さは1446が3.1cmと高いのに対し、1448は2.1cmと低い。1450・1453・1454は外へ強く広がってまっすぐ伸びる器形をし、口縁直径が11cm～12.8cm、底部直径が7cm～8cmで、高さは2.2cm～3.2cmある。底部は、1442のように丸みをもって立ち上がるものの、1444や1445のように段をもって外へ開くものの、1447のように底から外開きで立ち上がるものとがある。概して軟質だが、1452は硬質に焼けている。

皿（1455～1461）は、いずれも口縁直径が7.5cm～9cmの小皿であるが、1455や1456のように高さが1cm足らずの低いものと、1458のように2cmを越す高いものとがある。器形は、1455のように丸みをもって外へまっすぐ開くもの、1456・1457・1460・1461のように丸みをもってやや内湾ぎみに立ち上がるものの、1459のようにやや外反ぎみだが、底からまっすぐ外へ開いて伸びるものとがある。

1458はやや内湾ぎみだが、胴部途中でやや内側へ屈曲して立ち上がっている。底部から体部への変わり部分に段をもっているために、削り出し高台状となっている。底は丸みをもって立ち上がるものの、段をもって立ち上がるものの、まっすぐ立ち上がるものとがある。

糸切り離しはほとんどが一方に片寄るものだが、1442・1443などはそのあとナデを施し、1446はやや粗く切っている。1452はヘラ引き様に引いており、1461は糸切り離しが外面体部にまで及んでいる。

1443・1444・1448・1457は内側に油痕跡がみられ、灯明皿用に使われたものと思われる。1448は外面にも一部に油の痕跡がみられる。

### 須恵器（第251図）

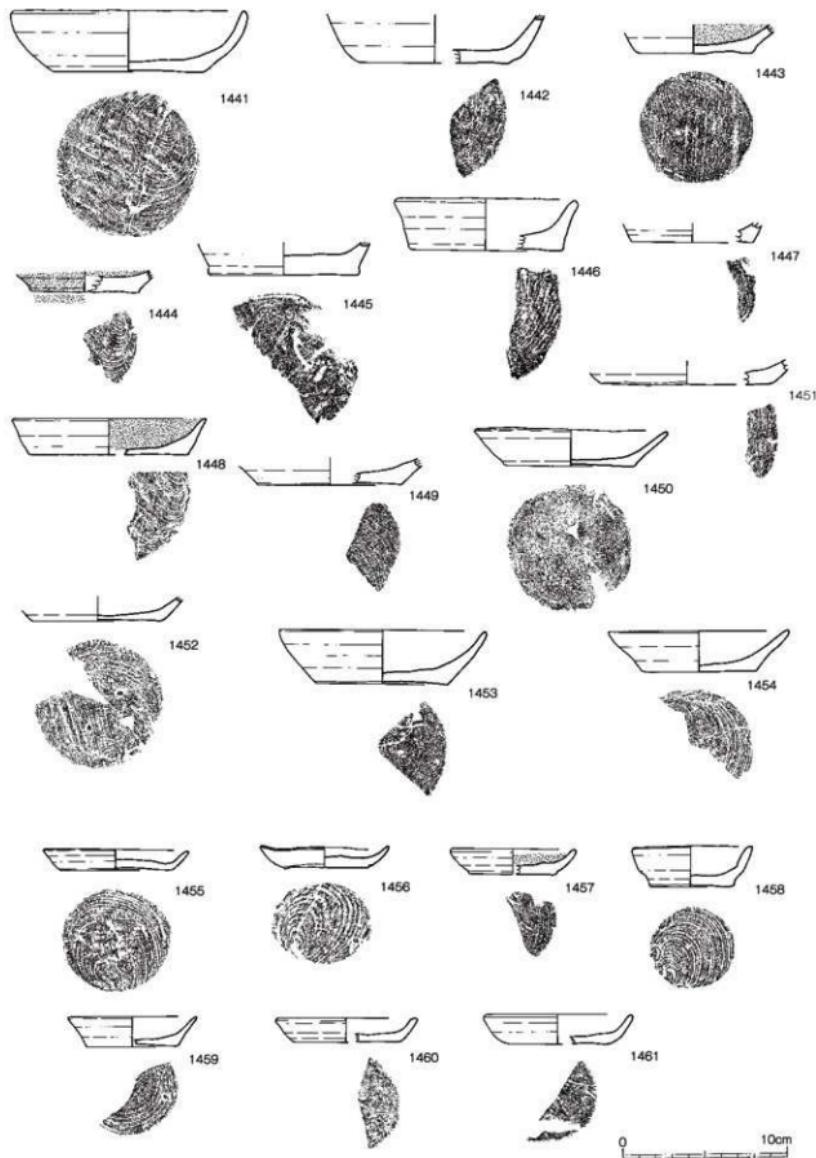
同一個体と思われる甕の破片が2点ある。口縁部は外へ強く反るもので、端部は矩形を呈している。断面の内側は赤褐色を呈している。1463は肩部で、外面が正格子タタキで、内面には同心円当て具痕がみられる。8mm近くの疊もある粗い土を用い、粒子が外へ出ている。

### 須恵質陶器（第251図・第252図・第254図）

器種には甕と擂鉢、壺がある。

1464は甕の胴部で、外面はこまかい正格子タタキ痕がみられ、内面はヘラナデで仕上げている。

擂鉢は平底で、まっすぐ開きながら伸びる器形をし、かき目はいずれも幅が広く、下から上へかき上げている。口縁部は矩形を呈するが、1474のようにややくぼむもの、1466や1468・1471の



第250図 出土遺物（土師器）

ように丸みをおびたものもある。

1465・1472は注ぎ口である。底から上へまっすぐ伸びているが、1476はやや丸みをおびている。1466は口縁直径が33cm、高さが10cm、底部直径が14.5cmある。外面はハケナデのあとヘラナデ仕上げであるが、内面は横あるいは斜方向のハケナデ仕上げである。

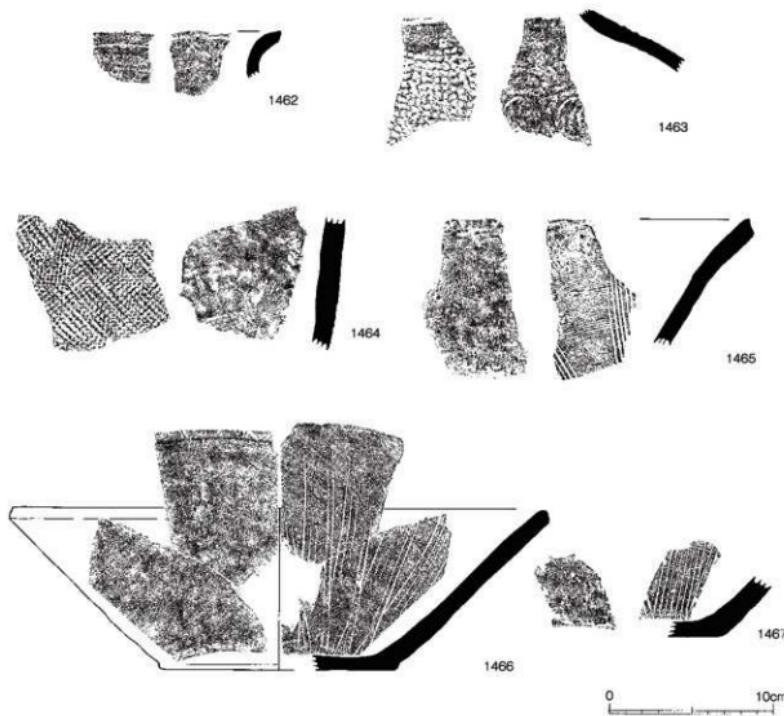
1493は口縁部が直径14cmある直口壺で、肩が張るが、そこから底へ向かってまっすぐおりている。口縁端は丸みをおびている。内外とも横方向のヘラナデで仕上げており、いくらか軟質に焼けている。白灰色を呈しているが、外面は茶色がかり、部分的に黒みがある。

#### 瓦質土器（第253図・第254図）

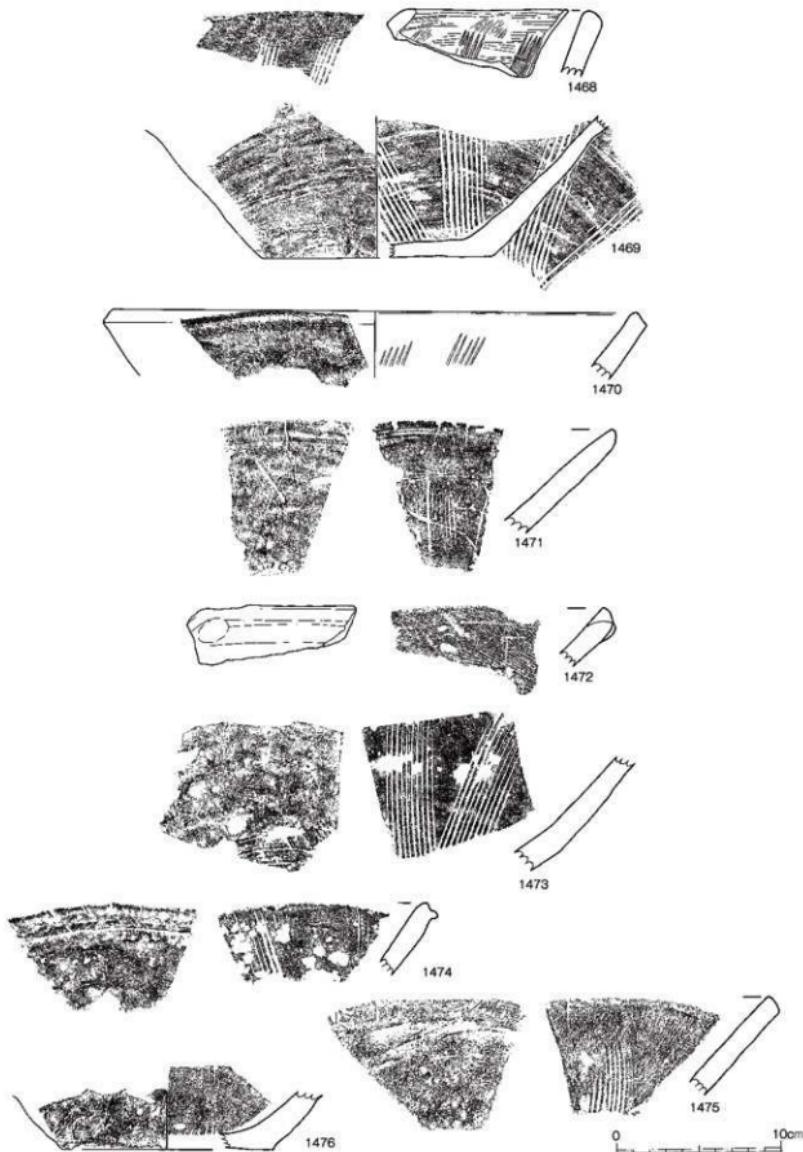
器種には茶釜・花舎・直口壺などがある。

茶釜（1477～1480）は、胴部をつばが巡るものである。胴部は丸みをもっており、1477の最大直径は28.5cmある。つばは断面形が長方形状のものと、台形状のものとがあり、水平になるものと、上を向くものとがある。つばの下にはスヌが付着している。

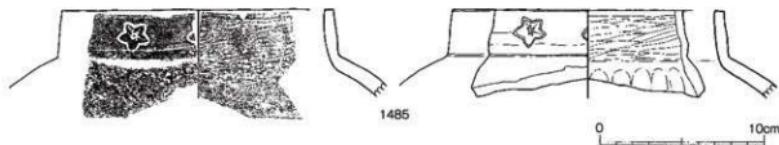
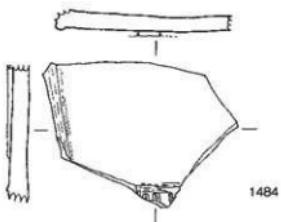
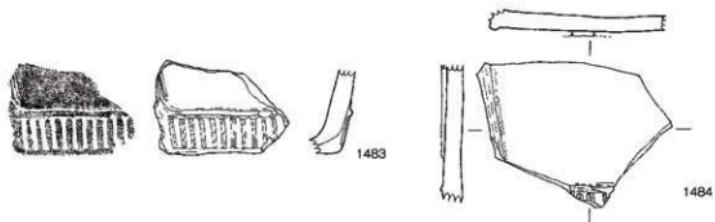
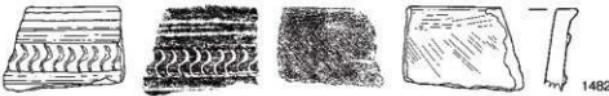
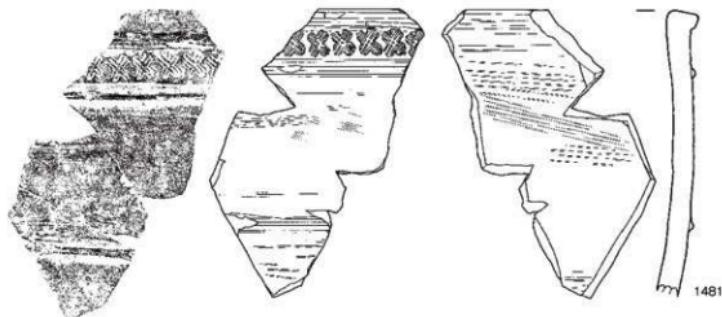
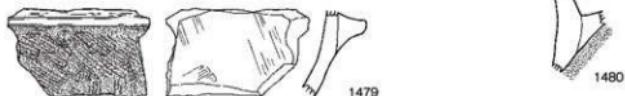
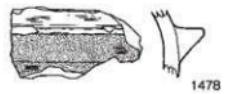
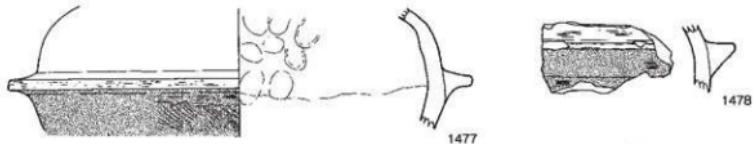
火舎（1481～1484）は口縁部が逆L字状に肥厚し、胴部に突帯がある。1481は口縁部外面に断



第251図 出土遺物（須恵器・擂鉢等）

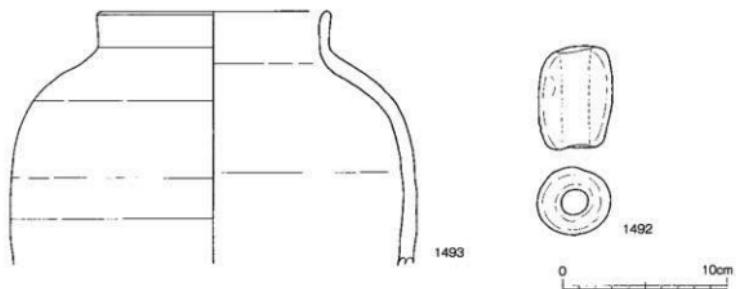
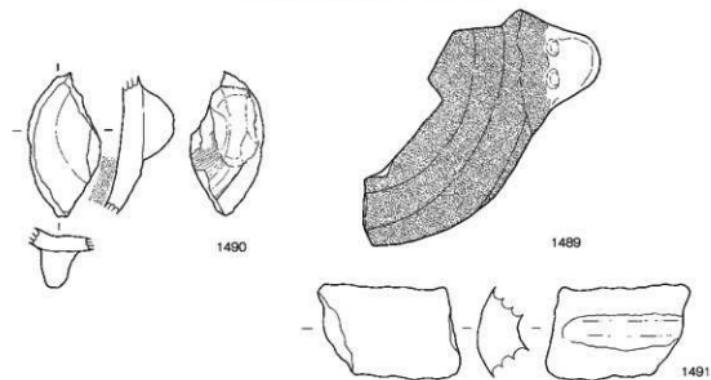
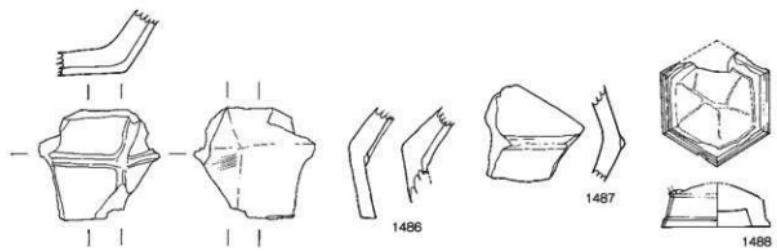


第252図 出土遺物（擂鉢）

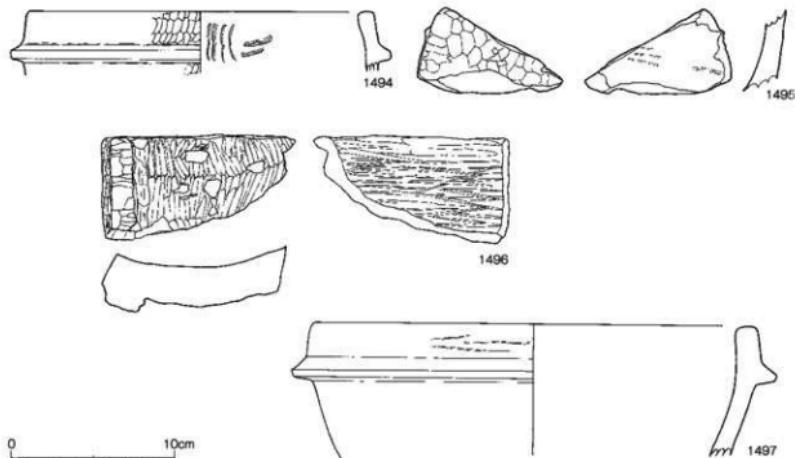


0 10cm

第253図 出土遺物（瓦質土器）



第254図 出土遺物（瓦質・土師質土器等）



第255図 出土遺物（石鍋）

面矩形の突帯が貼り付けられ、胴部に二条の小さい三角突帯が貼り付けられる。口縁下に×印のスタンプが連続して横方向に押される。内外ともていねいなヘラナデで仕上げている。1482は口縁端が外に三角状に突出し、その下に幅をおいて二条の小さい突帯が巡っている。この突帯の間に逆S字状のスタンプが連続して横方向に押されている。1483は平底で、底近くに小さい三角突帯が横方向に貼り付けられ、突帯と底の間に縱方向のI字状スタンプが押されている。またこの三角突帯と交叉して、縱方向の突帯もみられる。1484も1483と同一個体の破片と思われる。

直口壺（1485）は直径が16.8cmのやや内傾する口縁をもつ壺で、頭部から外へ強く開いて肩部へ至る。口縁外面に花文のスタンプがある。

1486・1487は同一個体で、口縁部が多角形となる。口縁はやや内傾して立ち上がる。角と頭部に丸みのある突帯が貼り付けられている。1487はやや丸みをおびており、横方向の貼付突帯がある。外面は光沢をおびている。

1488は水簸したこまかい白色粘土を用い、焼きのいい六角形を呈する脚台である。内底部はドーム状となり、豊付部の立ち上がりは、矩形を呈しやや外へ広がる。脚台の内部、底部、豊付部ともていねいにナデしている。底からはやや外へ広がって立ち上がり、脚台との境には小さい突帯が巡っている。外面や底には黒色釉がかかっているが、見込みにも部分的に釉がかかっている。

脚台外面や内底部には赤茶褐色を呈するものが付着しており、脚台外面は文様のようにも見えるが、はっきりしない。立ち上がり部分は厚さが3mmほどしかない。内底部にはヒビがはいつてある。香炉の可能性があるが、はっきりしない。

#### 土師質土器（第254図）

1489は両方に把手のある浅い鍋である。把手はあとで貼り付けてあり、把手外面には2か所に



第256図 出土遺物（青磁1）

強く押した痕跡がある。底にはススが付着し、内底中央部にはこげの跡が付いている。1490は低いこぶが台に貼り付けられた鉢である。底は糸切り離しにより平らとなり、三か所にこぶが貼り付けられているものと思われる。

#### 土製品（第254図）

1491は粗い土を用いたふいごの羽口である。茶褐色を呈しているが、外面の一部は火を受けて、やや黒色化しているものである。

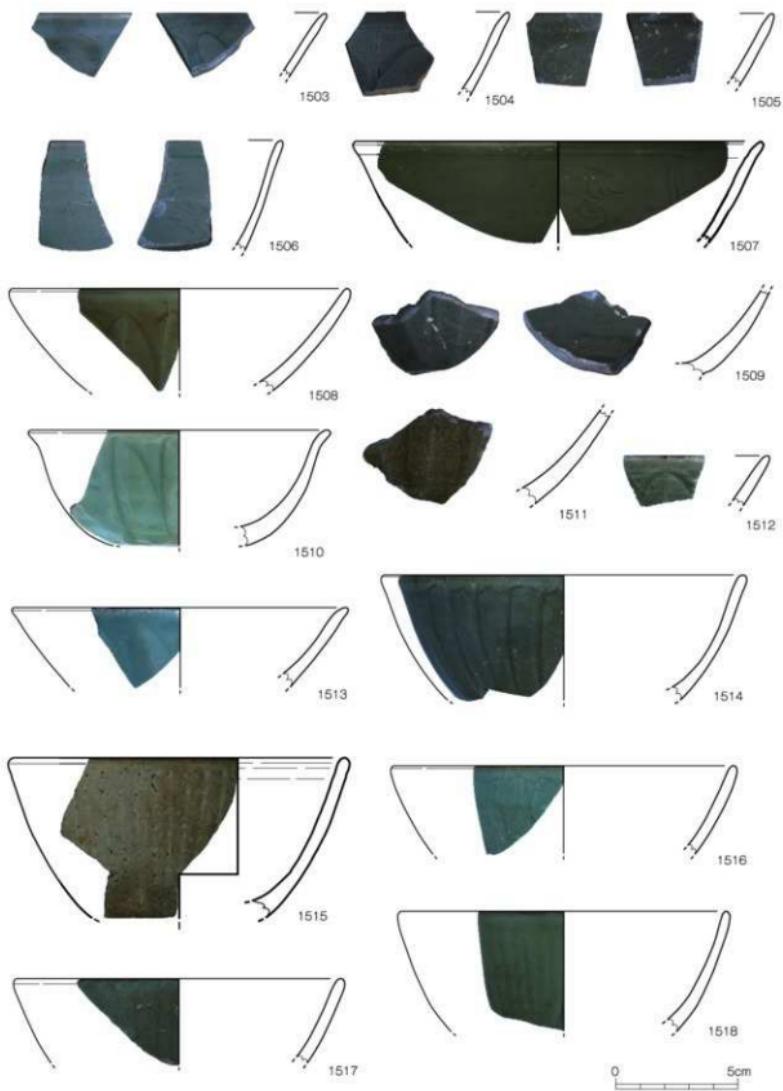
1492は円筒形の土錐で、長さ6.5cm、直径4.5cm、孔径1.5cmある。時期については、疑問が残るものである。

#### 滑石製石鍋（第255図）

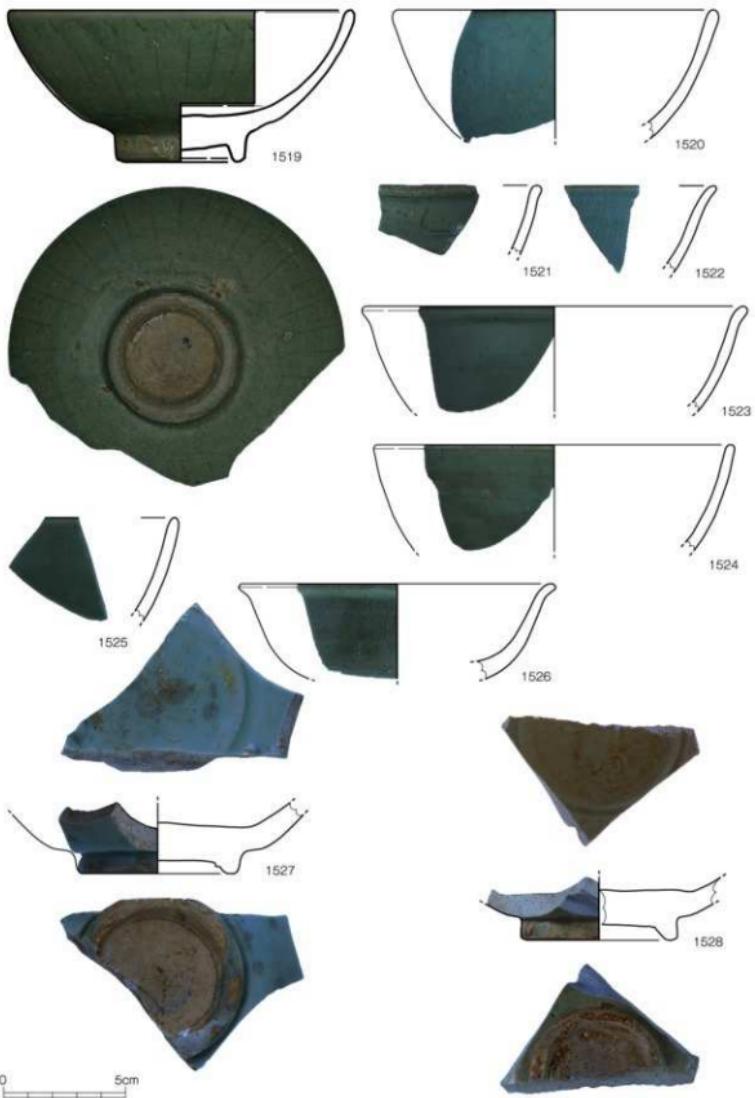
つば付きのものと、縦耳付きのものとがある。どの滑石製石鍋も製作時の加工のための工具痕を残している。

1494と1497はつば付きのものだが、1494は口縁直径が21cmと小さく、強く内傾するのに対して、1497は口縁直径が27cmで、ゆるく内傾している。

1496は口縁部に長さ6cmの縦耳が付くもので、外面は縦方向、内面は横方向に削っている。つ



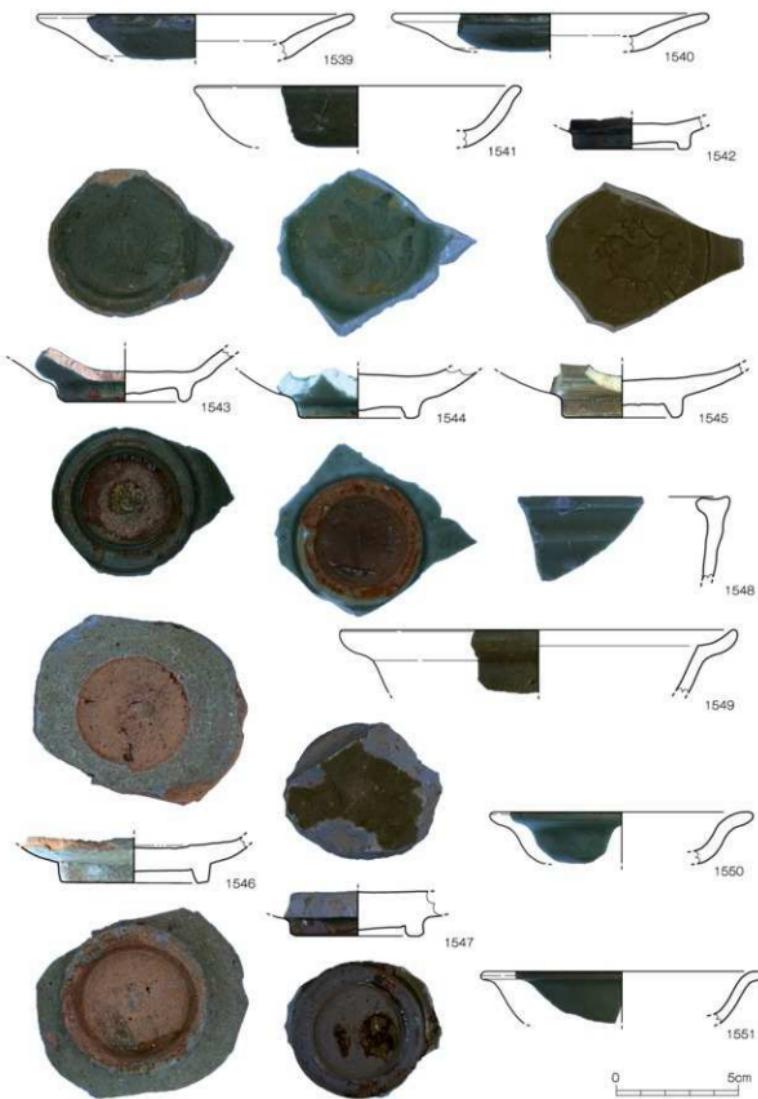
第257図 出土遺物（青磁2）



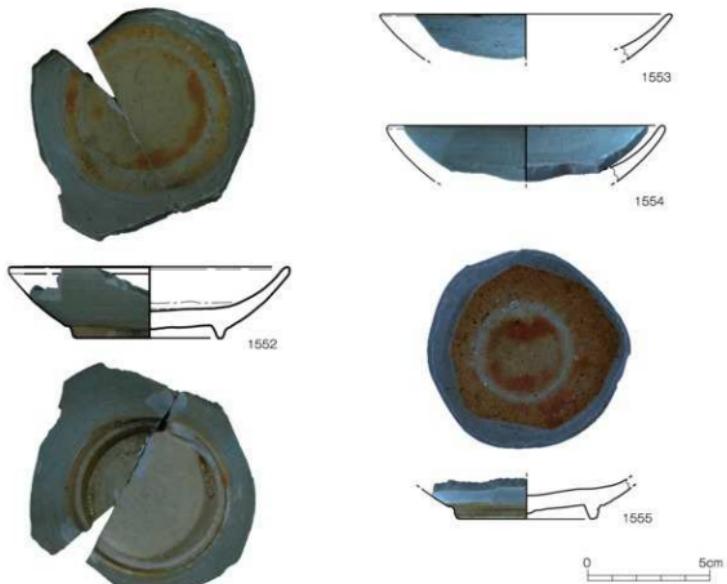
第258図 出土遺物（青磁3）



第259図 出土遺物（青磁4）



第260図 出土遺物（青磁5）



第261図 出土遺物（青磁6）

ば付きのものに比べて分厚い作りで、図の左側は縦に切ったあと横に粗くすっており、破損後、二次的に加工して再利用しようとした痕跡がみられる。

つば付きのものと、耳付きのものとは石材が異なるようであり、使用によるススの付着は全てに観察される。

#### 青磁（第256図～第261図）

高麗青磁・同安窯系青磁・龍泉窯系青磁がある。

1498は緑灰色の釉がかかった高麗系青磁碗である。口縁直径18.5cm、高さ6cm、高台直径5.3cmのもので、断面形が矩形の低い高台が付く。外面の中央付近に二条の凹線がみられる。内面は口縁付近に三条の凹線があり、底部近くには二条の凹線があって、その上に羯磨文が巡っている。見込みには、如意頭文など、それぞれに白色粘土を埋めて象嵌を施している。高台内には砂目がみられる。

1499～1502は同安窯系青磁皿で、底部はややあげ底となり、外面の釉がかき取られている。内底部に櫛書きによる鋸歯状文がみられる。

1503～1555は龍泉窯系青磁で、器種に碗・皿・盤などがあるが、それぞれの製作時間が長期にわたるため、形態・文様とも多様である。

1503～1507は外面が無文で、内面に雲文・蓮花文などの片彫り文のある碗である。口縁に向かつ

て広がりながらまっすぐ伸びる器形をし、1507は口縁直径が16.5cmある。比較的に、龍泉窯系初期のものであろう。

1508～1519は外面が蓮弁文の碗である。1508・1509・1511・1513は鎧蓮弁文、1510・1512は幅の狭い鎧蓮弁文である。

1508・1513が外へまっすぐ伸びるのに対して、1510は口縁端近くで外反する。1514～1519は線描き蓮弁文である。口縁部はやや内弯する器形をし、口縁直径が13cm～15cmである。綫線とその上に波状文を描く組み合わせだが、綫線のあとに雜に鋸齒状・波状文を描き、刺頭が蓮弁の単位を意識していない。1515は、焼成温度が低かったためであろうか、本来の青磁の深緑色ではなく、乳白色に近く、胎土も明茶褐色である。1519は口縁直径が14cm、高さが6.2cm、高台直径が5.2cmある。置付部は茶褐色を呈し、露胎である。貫入が目立つ。

1520～1526は無文の碗である。1520・1524・1525は内弯する器形で、口縁直径は1520が13cm、1524が14cmである。1521～1523、1526は口縁が外反する器形で、口縁直径は1523が15cm、1526が12cmある。

1527～1532は碗の高台近くの破片である。底部は概して厚く、外へ丸みをもって立ち上がっていいる。1527は、高台から腰部へ至る部分に平坦面があり、見込みの特徴等から1503～1507などに付く底部と思われる。1530と1532の体部はやや薄い。高台も概してどっしりしているが、1527のように丸みをもったもの、1528・1530のように台形様のもの、1529のように矩形で低いもの、1531・1532のように矩形で高いものがある。高台直径は5cm～6cmで、高台貼り付け部はていねいに段をもつように切り、底部はヘラで切っている。1532の見込みは円形の櫛歯文が巡り、中央に浅いスタンプがみられる。

1533は小碗の高台部で、直径は2.6cmある。高台端は先端が尖がった三角形状を呈し、内底部には花文がある。

1534～1543は皿である。平らな底から長く外反して口縁へ至り、高台の付く器形をしているが、1541は丸みをもった器形で、口縁が短く外反している。1534は口縁直径が11.8cm、高さが3.4cm、高台直径が5cmある。胴部内面に唐草文がある。見込みには蓮花文が描かれ、内外とも厚く釉がかかっている。底だけが露台だが、ここには重ねに用いた窯道具の痕跡がみられる。1535～1540は後花皿で、口縁直径は12cm前後である。1536は口縁直径が12.4cm、高さが2.8cm、高台直径が6cmあり、内面には唐草文がある。

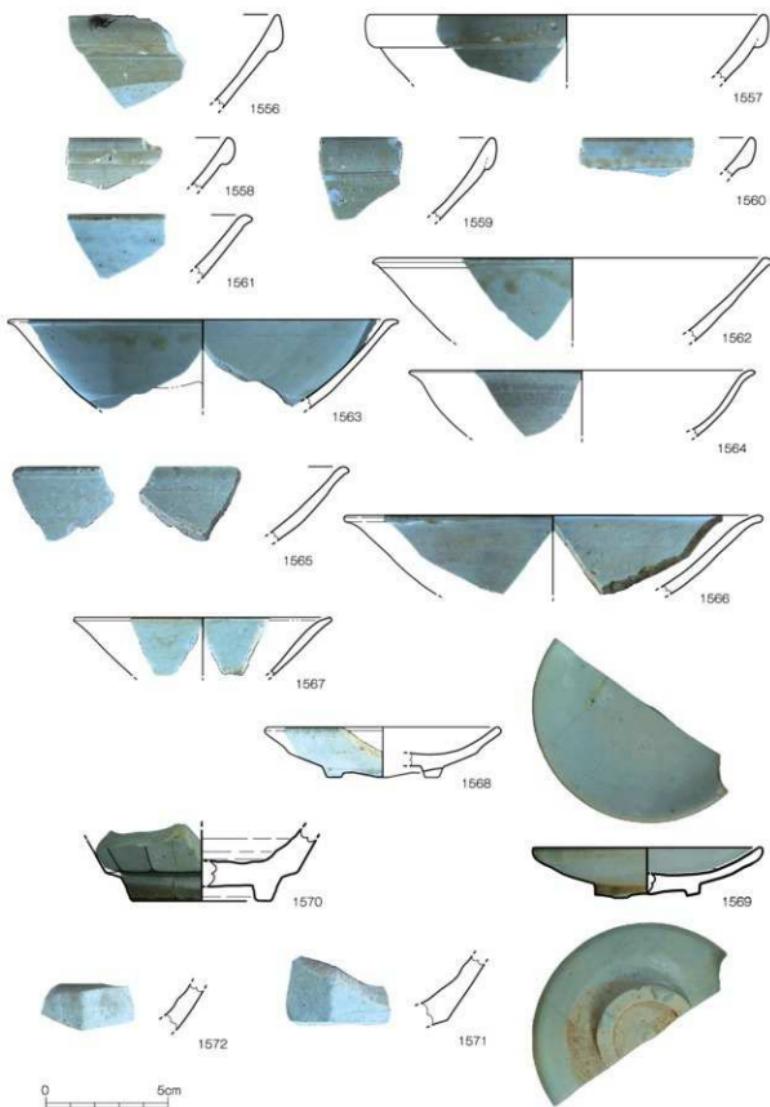
1544～1547は見込みに花文のある碗の高台部分である。

1548は口縁端が内外に張り出すT字状を呈するが、特に内側へ強く張り出す香炉である。

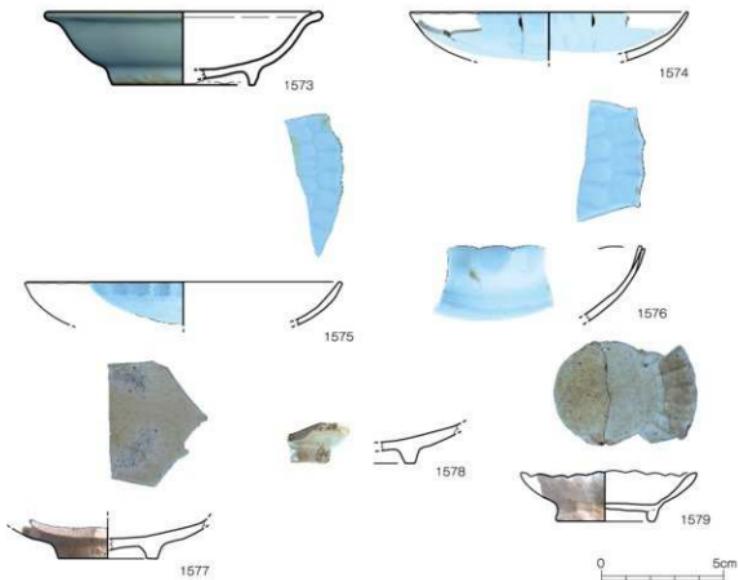
1549は口縁部を「く」の字状に折り曲げ、さらに端を上へゆるやかに引きあげた盤である。

1550・1551は口縁部が強く外反する皿で、内外とも無文である。口縁直径は10cm余りである。

1552～1555は口縁部がゆるやかに内弯する皿であり、断面が矩形の小さな高台が付く。口縁直径は11cmほどで、高台外面は筋状に切っている。1552は口縁直径11.6cm、高さ3cm、高台直径6cmである。灰色がかった釉がかかり、高台内面・見込み部分は露胎となっている。ただし、1552・1555は、明灰色であり、胎土も他の青磁とやや異なることなど、白磁の可能性もある。



第262図 出土遺物（白磁1）



第263図 出土遺物（白磁2）

#### 白磁（第262図・第263図）

碗と皿の器種があり、それぞれに器形の違いがある。

1556～1560は幅の広い玉縁口縁となる碗である。内面あるいは、外面に釉垂れのあるものが多い傾向にある。

1556の外面の釉は上部のみで、体部下半は無釉となっている。1557は口縁直径が15.6cmある。

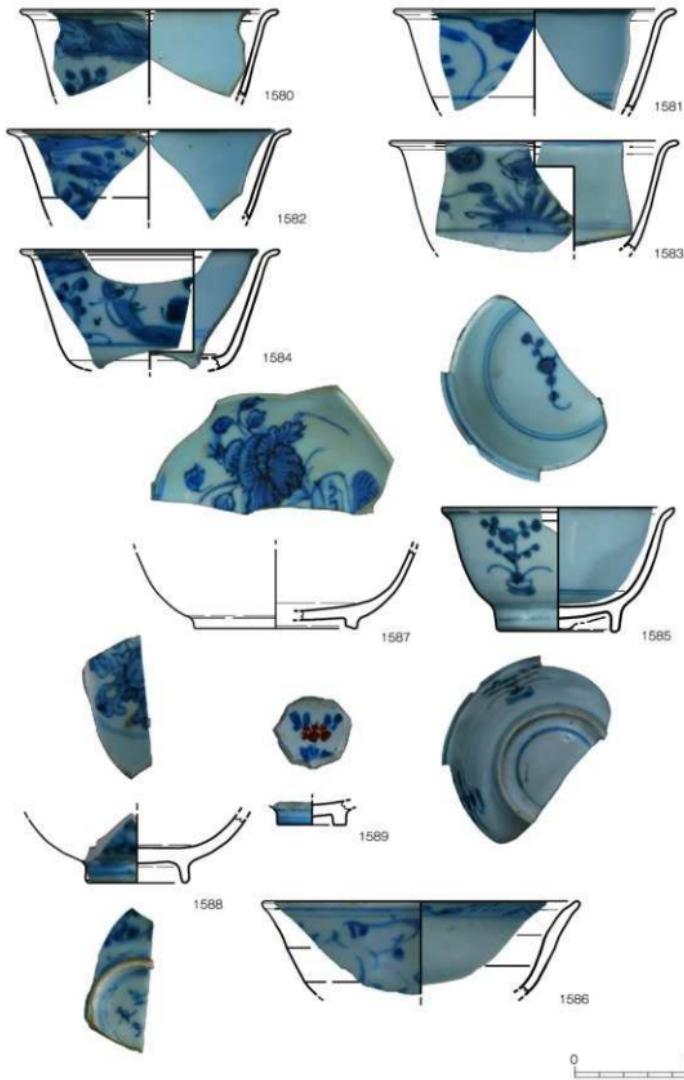
1561～1563は端反り口縁の碗で、口縁直径はともに16cm足らずである。1563の外面下部は無釉となっている。釉は内外ともきれいにかかっているが、外面の一部に貫入がみられる。

1564～1566は口縁が外反する碗で、1564が丸みをおびた体部から口縁へ外反して立ち上がるのに対して、1565と1566は割とまっすぐ口縁へ向かい外反している。1566の内面には細い唐草文がみられる。

1567は口縁端が断面矩形となる口はげの坏である。

1568～1578は釉が灰白色あるいは青色味をおびる小碗・皿である。1568～1572は多角となる皿・小碗である。1568・1569は高台が多角となる皿である。1568は口縁直径が9.2cm、高さが2.2cmの皿で、内外とも釉がかかっている。見込みの4か所には重ね焼き痕が残る。1569は口縁直径9.4cm、高さ2cmの皿で、外面の体部下半から高台部分は無釉である。1570～1572はこの種の小碗では分厚い作りのもので、同一個体である。高台より内側は露胎である。

1573は口縁部が外反する坏で、口縁直径が11cm、高さが3cm、高台直径が6cmある。



第264図 出土遺物（青花1）



第265図 出土遺物（青花2）

1574～1576は口縁が内湾する菊花杯である。口縁直径は12.6cmあり、内面は二段以上に、外面は一段にヘラ押圧がみられる。1574・1575は同一個体の可能性がある。

1577・1578は断面が矩形を呈する高台である。内面に4か所の目痕がある。

1579は口縁直径が7cm、高さが2cm、高台直径が4cmの菊花皿である。断面が矩形の高台が付く。高台の作りは粘土紐の貼り付けで、高台の内外は露胎である。

#### 青花（第264図～第267図）

碗・小碗・盤・皿があり、器形・文様など多様である。

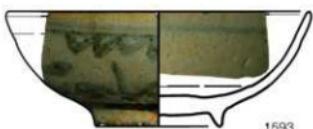
碗には端反り状に外反するもの、内湾するものとがある。

1580～1584は端反り状に外反する深い碗で、口縁直径は11cm前後である。外面胴部には牡丹唐草・唐草・風景など、口縁部や腰部には界線が描かれている。内面は口縁部に二条、腰部に二条の沈線がみられる。

1585～1588は丸みをおびた胴部から口縁部へ外反しながら伸びる碗で、外面の口縁部には界線。胴部には唐草・草花など、腰部には界線が、見込みには界線が巡り、草花・牡丹などが描か



1594



1593



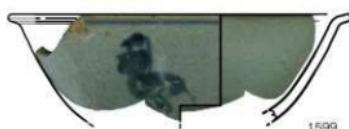
1597



1595



1596



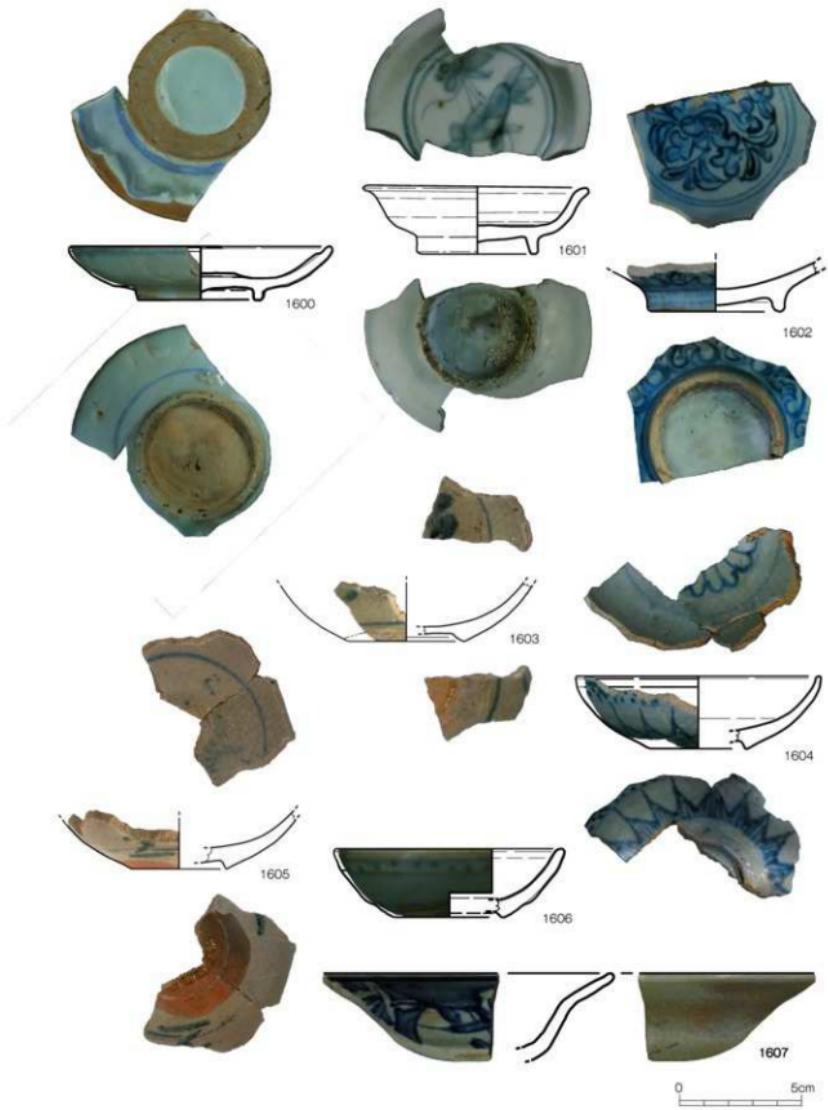
1599



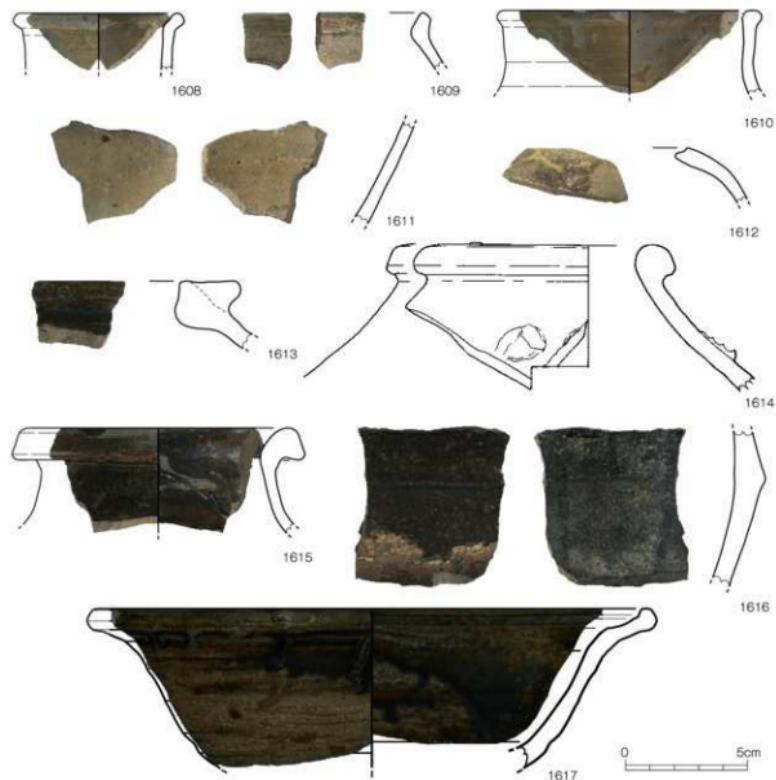
1598



第266図 出土遺物（青花3）



第267図 出土遺物（青花4）



第268図 出土遺物（陶器 1）

れる。1586の内面口縁部には火拂文が巡っている。1587の高台から底部にかけては無釉である。1588の高台内には永久長春の字款が書かれている。

1589は矩形のどっしりした高台の付く小碗で、外面には界線、見込みに赤色を呈した花弁と青色の葉が描かれている。

1590は直径が22cmある盤である。丸みをおびた胴部から口縁部が「く」の字状に屈曲して外へ広がる。外面は口縁に界線が、胴部に唐草が描かれ、内面は口縁に界線が、胴部に牡丹唐草が、腰部に界線が描かれている。1607も同様の形状をしており、内面の口縁から胴部にかけて太い界線と風景画・花文らしきものが描かれている。

1590は白っぽいが、1607はやや黄みがかっている。1591・1603～1606は口縁がかるく内弯し、葵筋底となる皿である。1591は口縁直径が9.5cm、高さが3cm、底部直径が3cmあり、外面は口縁に波濤文帯、胴部に芭蕉葉文、腰部に界線が、内面は口縁部に界線が、胴部や見込みにも文様・界線が描かれている。1604の外面は胴部の芭蕉葉文と腰部の界線は1591と同じだが、口縁部は界

線に挟まれた連続した丸文である。見込みには界線と蓮弁文がみられる。これも口縁直径10cm、高さ3cm、底部直径4cmと、1591に近い。1606の外面は口縁部に界線に挟まれた連續丸文がある。この類は他の破片も同じような文様が描かれる。1591が青白色を呈するのに対して、そのほかは黄色っぽく、底部は1604が総釉で、他は無釉である。

1592は口縁直径が14cm、高さが2.8cm、高台直径が7.5cmの皿である。外面は口縁部と腰部に界線が巡り、胴部は縦線で4つに区切り、その中に丸を3つ結合した文様がある。内面に唐草文が、見込みには八角形の画線に囲まれた牡丹唐草文がみられる。

1593～1598は内弯する口縁の碗である。1593は口縁直径が12.5cm、高さが4.7cm、高台直径が5cmあり、外面は口縁部と腰部に太線の界線があり、その間に太い草花文がある。内面は口縁に界線があり、身込みは重ね焼きにより釉がとれ、界線と縦筋が描かれ、高台端はとがっている。1594は碗の小片で見込み部は、無釉である。1595は、外面口縁に唐草文状の曲線が描かれているものである。1596の外面は口縁部に雷文帯が巡り、胴部に牡丹唐草が描かれている。内面は口縁に界線がみられる。

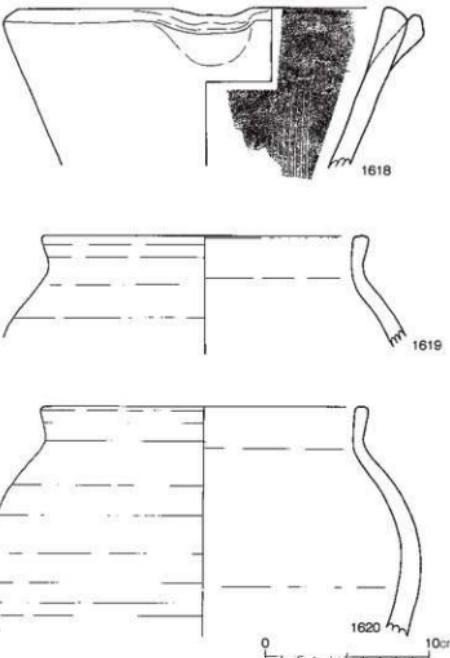
1600は口縁が内弯する皿で、外面・内面とも口縁と腰部に界線があるが、内面は釉が垂れている。1601は外反する小皿で、見込みに花文と界線が描かれている。1602は、内外面に草花文が描かれる皿であるが、碗の可能性もある。1603～1606は基筒底の皿である。1603～1605は草花文・芭蕉文などの文様が描かれている。1593～1607までは、漳州窯系である。

### 三彩（第268図）

緑・黄・茶の三色からなる無頸壺である。口縁部に外向きの二重蓮弁文が描かれ、内面は無釉の水差しで、熊本県の浜の館などからの出土例があるものである。

### 陶器（第268図・第269図）

1608・1609は口縁端近くで強く外反する口縁直径6.5cmの小型壺である。1610は口縁直径10cmの直口壺で、口縁端はやや肥厚する。1611は胴部である。灰色がかった釉がかかっている。13世紀代の四耳壺・壺・水注などの破片であると思われる。



第269図 出土遺物（陶器2）



第270図 出土遺物（天目茶碗）

1613は口縁端が上下、特に下に肥厚する肩の張る黒釉壺である。玉縁状口縁の外側に帯を貼り付けている。

1614は口縁直径が10.5cmあり、肩部に横耳痕跡がある呂宋壺である。口縁端は玉縁状にふくらみ、肩部が外に張る。口縁から外面にかけて黒釉がかかっているが、口唇部から内面は無釉である。1615も似ているが、頸部がやや長く、内面の頸部まで釉がかかっている。

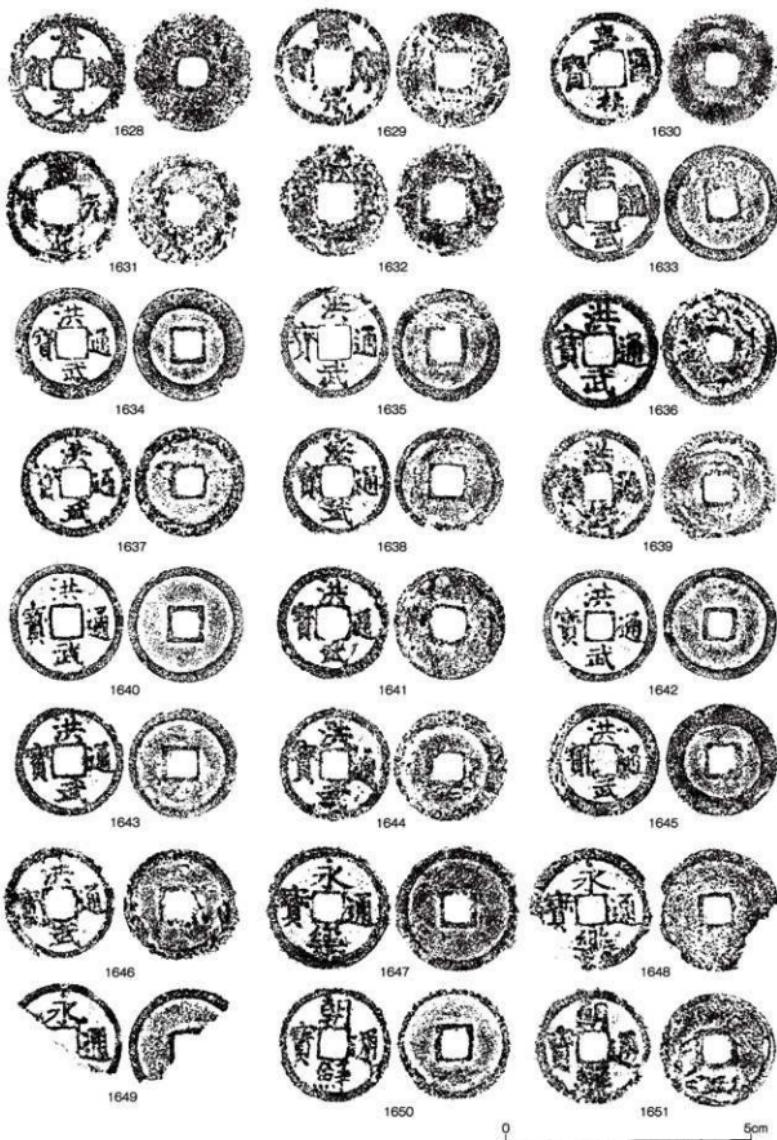
1616は肩が張り、ここで稜をもつ壺の破片だが、肩部（第268図では下）に重ね焼き痕跡がみられる。外面には黒釉がかかっているが、内面は無釉である。

1617は丸みをもって立ち上がり、口縁部でゆるやかに外反し、端部近くで直に立ち上がる口縁直径23cmの黄色っぽい鉛釉鉢である。口縁内部は直に立ち上がり、頸部内面も稜をもって屈曲している。内外とも総釉で、外面は釉が垂れている。

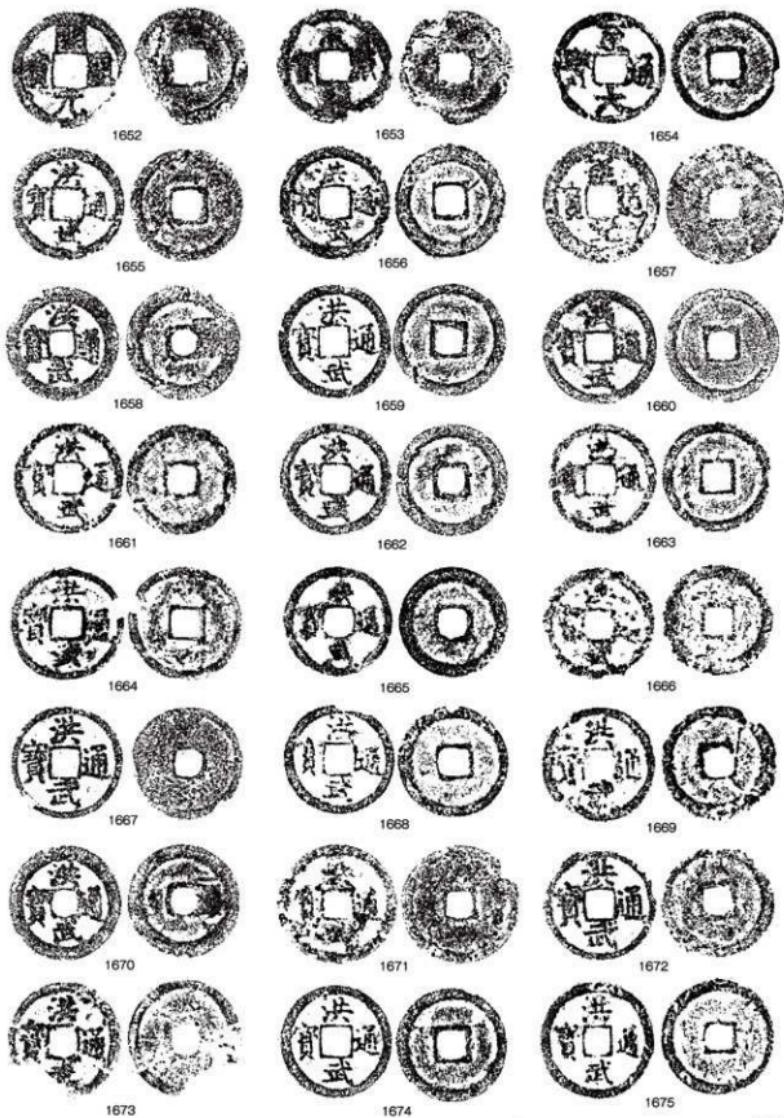
1618は口縁部へまっすぐ伸び、端が外へ下がる擂鉢である。内面かき目は幅が広い。注ぎ口を有している。1619・1620は広口の直口壺である。口縁直径はいずれも19.8cmある。1620は、灰色であり、軟質あるいは須恵質に近いものである。

#### 天目（第270図）

いずれも茶碗だが、底部から外へ広がり、口縁近くで屈曲し直に立ち上がるもの（1621・1624）と内弯するもの（1622・1623）とがある。底は幅が広く低い高台が付くもの（1621・1625）と、あげ底状となるもの（1626・1627）とがある。腰部と高台の境はしっかりした曲点をもっており、腰部から底にかけては露胎となっている。1621は、釉掛けも厚く釉の断面にガラス質の光沢もあり、中国産の可能性がある。他は美濃を中心とする国内産である。

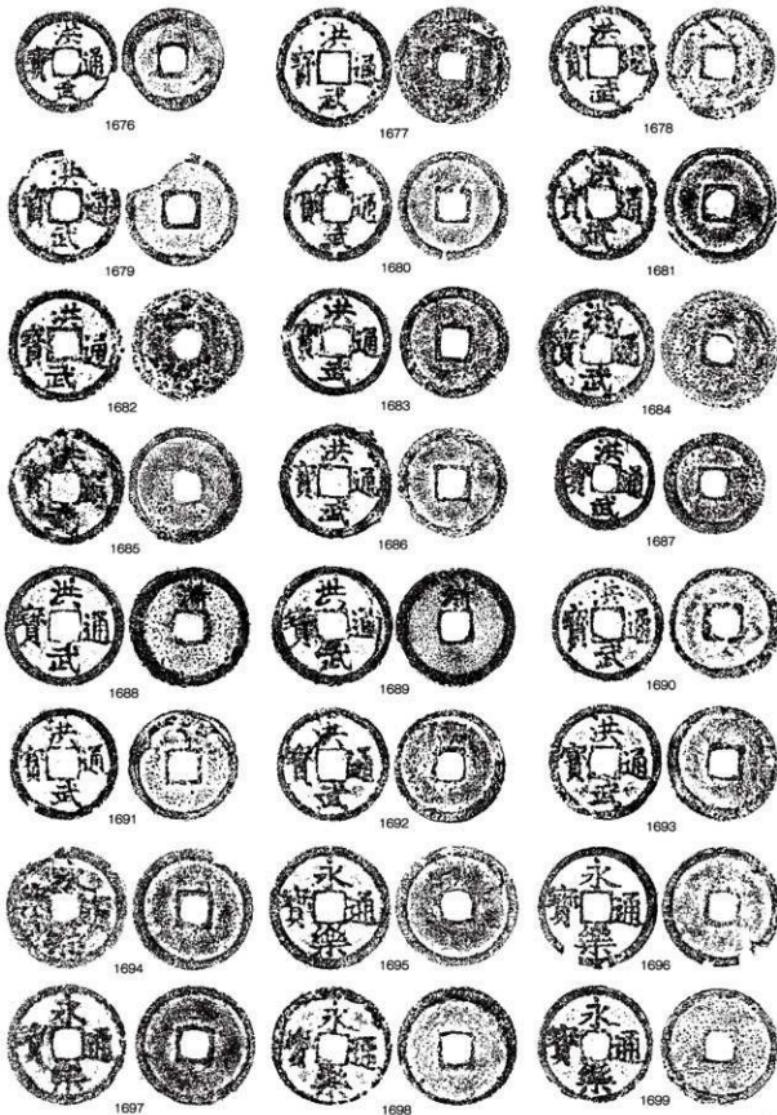


第271図 出土遺物（錢貨1）

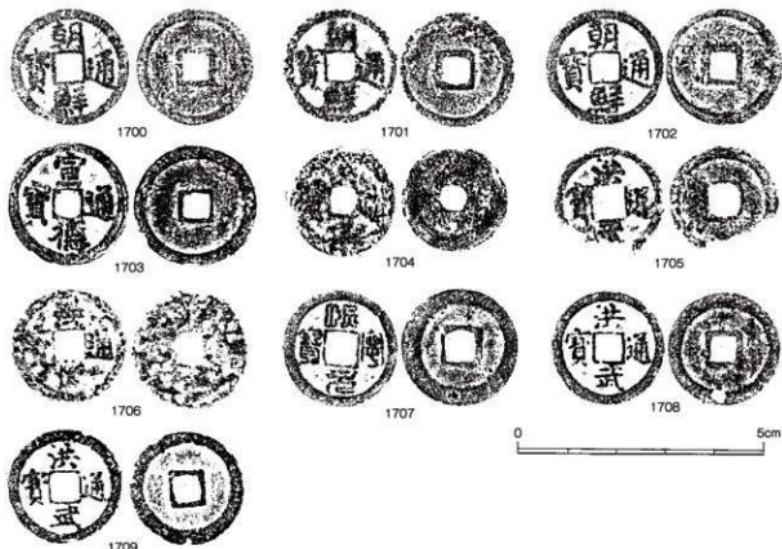


第272図 出土遺物（錢貨2）

0 5cm



第273図 出土遺物（錢貨3）



第274図 出土遺物（錢貨 4）

**錢貨**（第271図～第274図）

古代のものも含まれているが、古代土坑4及び中世墓等の一括遺構の錢貨を除く、82枚の拓影を掲載した。

出土区は、H-27が2枚、J-17が3枚、G-14が19枚、G-13が53枚と、圧倒的に多い。錢貨の種類別では、開元通寶が1枚、景佑元寶が1枚、嘉寧元寶1枚、熙寧元寶1枚、元符通寶1枚、慶元通寶1枚、至大通寶1枚、洪武通寶57枚、永樂通寶9枚、朝鮮通寶5枚、宣德通寶1枚、不明3枚である。

初鑄年代を見ると、古代以前が5枚であり、残りは全て中世である。中でも、洪武通寶が圧倒的に多く、G-13区に出土も集中している。ただし、ほとんどがI層の出土であるために、詳細は不明である。出土区の周辺で、錢貨に関する何らかの営みがあったことであろうとしか言えない。

## 第IX章 近世の調査

近世の遺構は、第275図のように、H-18区いわゆる曲輪2の南端部から掘立柱建物跡とD-13区を中心とする曲輪3より一段低い部分から、薩摩焼を中心とする陶磁器類と建物跡には復元できなかったが、数軒程度の柱穴群が検出された。

### 第1節 遺構

#### ・掘立柱建物跡（第276図・第277図）

掘立柱建物跡は、桁行方向がほぼ東西で1間×4間の規模のものである。桁行間は平均で8.8m、梁間柱間は平均で3.74m、桁行間は平均で2.02mである。柱穴は平均で長径が75cm、短径が67.3cm、深さは75.9cmである。柱穴の平面プランはほぼ円形である。

この建物の特徴は、根石を持つことと、柱の高さ調整のために、根石の下に粘土質の土を敷いてあることである。柱穴9以外の柱穴では、柱穴に根石が置かれており、その石質のはほとんどが安山岩であった。

根石の下には、柱の調整のために敷かれた埋土は柱穴1、3、5、6、10では、根石の下と上で埋土の土色に違いが確認できた。土色・土質は、茶褐色の粘土質もしくは砂礫であった。他の柱穴でも柱痕や根石の状況から考えると根石の下には2cm～45cmの埋土があった。

また、柱穴5、6、10を除き柱痕が確認できた。長径は18cm～35cmで、平均で23.86cmある。柱穴5、8は切り合いが確認できる。柱を複数回建て直したものと思われる。

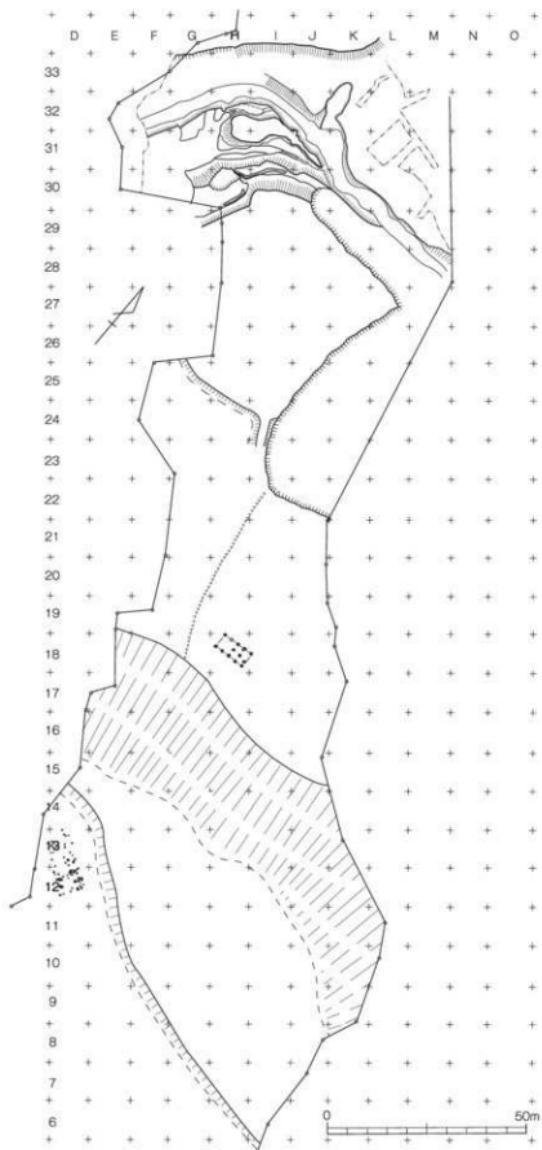
この建物の検出面は標高51.3m～51.0mであり、その高さが一定なことから、人為的に水平に造成された地面に建てられたものと考えられる。

建物の規模としては、約8m×4mとかなり大規模なものであったと考えられる。

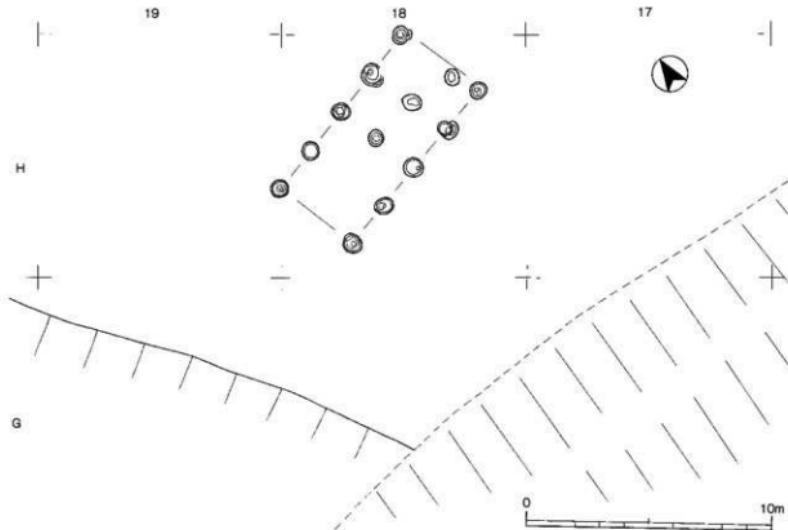
なお周辺には、柱穴が多数確認できたが、第276図の10基の柱穴以外で建造物を特定できないが、同等に径が大きく、深い柱穴が柱穴4と9、柱穴5と8、柱穴6と7の間に、柱穴7～2に向かつて桁間を斜方向に柱穴が、梁間上に3基確認できた。おそらく、掘立柱建物跡が建っていた期間や前後に、この周辺に方位、大きさ、場所が異なった建造物が存在したものと考えられる。

江戸1号掘立柱建物跡柱穴計測表・柱穴芯間計測表

柱穴番号	柱穴（単位：cm）			柱穴番号	梁間 柱間 (m)	柱穴番号	桁間柱間	桁行間
	長径	短径	深さ（鈍深）					
1	75	68	70	P 1～2	3.75	P 2～3	2.00	8.00
2	73	69	70	P 3～10	3.60	P 3～4	2.00	
3	76	65	74	P 4～9	3.75	P 4～5	2.00	
4	76	68	80	P 5～8	3.75	P 5～6	2.00	
5	98	85	90	P 6～7	3.85	P 7～8	2.05	
6	66	62	60			P 8～9	2.10	8.15
7	68	64	80			P 9～10	2.00	
8	65	58	88	平均	3.74	P 1～10	2.00	
9	78	71	85					2.02
10	75	63	62					
平均	75.0	67.3	75.9					



第275図 近世遺構配置図



第276図 据立柱建物跡位置図

柱穴内からの遺物の出土は若干で、中世末から近世にかけてと思われる青花の小片が数点出土したのみであった。また、この建物の周辺からは、近世の遺物の出土はみられなかった。

#### ・柱穴群（第278図・第279図）

本城の繩張の南端と思われる緩やかな傾斜面を水平に削って造成したと思われる部分で、江戸期の柱穴群と多量の薩摩焼や肥前系の陶磁器が出土した。

遺構の検出面は造成面、つまりシラス面である。包含層は曲輪から流れ込んだⅡ層～Ⅶ層とシラスの混土（純粹の包含層と言えるかどうかは問題であるが、便宜上、包含層と呼ぶこととする。）であり、遺構の埋土もほぼ同じような状況であった。また、上方の曲輪から流れ込んだと思われる古代や中世の遺物も表土や包含層に混じっていた。これら、古い時代のものについては、各時代の遺物の項で扱っている。

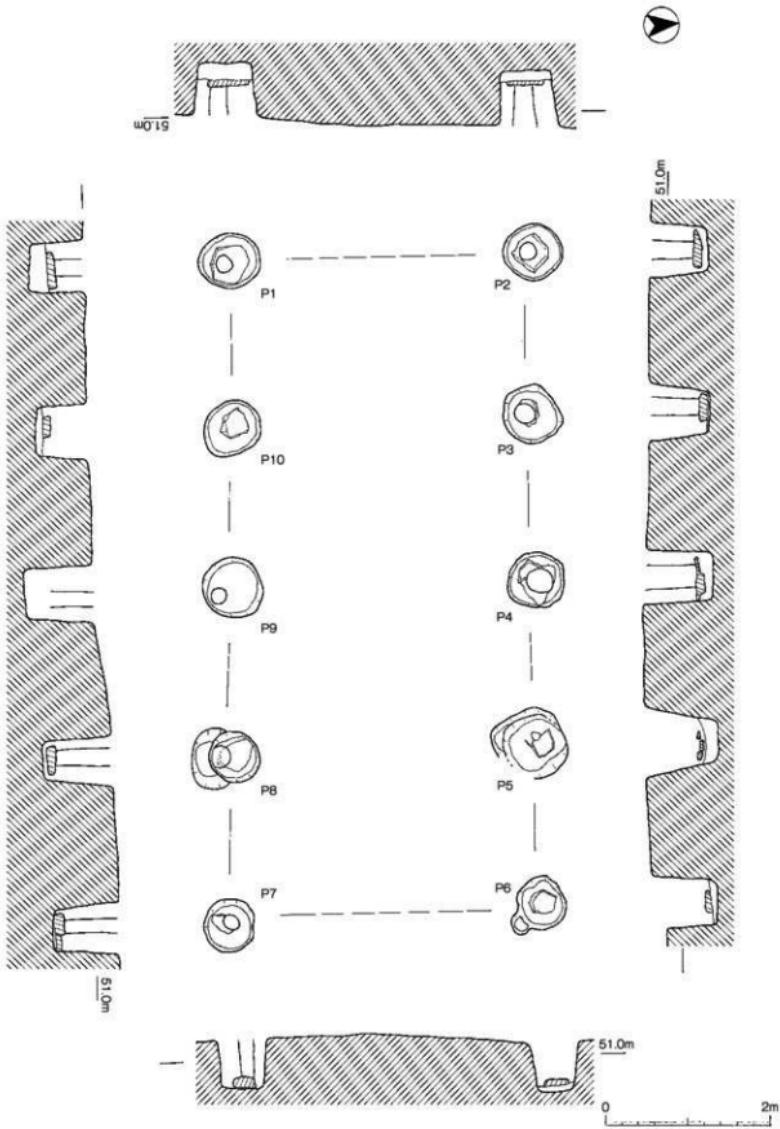
柱穴は、大小合わせて約60個程度である。その分布及び形状には、例外はあるもののいくつかの傾向がみられるようである。

①基本的に直径約30cm～60cmの柱穴の平面プランの基本パターンは円形であり、掘方も垂直である。

②約60cm以上の規模の柱穴は、平面プランが楕円形のものが多い。また、その断面については、ハイヒール型、つまり、二段構造のものが多い。

③小さな柱穴には、根石はない。掘方は垂直である。

④ハイヒール型のものは、根石がないものが多い。



第277図 据立柱建物跡

- ⑤ ハイヒール型でP5, P8には根石があるが、P5のみがヒール部に根石が位置している。
- ⑥ 根石に用いられている石は、安山岩が多く、円形の柱穴の場合は、板石が多いようである。
- ⑦ 調査区の北側の柱穴は、ほとんどが円形で直径が約30cm～60cm程度のものが多く、根石は全くない。
- ⑧ それに反し、調査区南側には、平面プランが楕円形で根石を持つものやハイヒール型のものが多い。
- ⑨ 掘りなおしたり、建て替えたような柱穴はほとんどない。
- ⑩ 遺物の出土は、D-13を中心とする。などの特徴があるようである。

柱穴の形状その他については、以上のような傾向が見られるが、建物として復元はできなかつたが、東西に長く柱穴が分布している。つまり、南側に向いた建物があつたことが想像できる。

具体的な建物の構造や資料不足ではあるために断言はできないが、①～⑩を総合すると、東側の楕円形や根石のある柱穴部分が母屋であり、西側の円形の柱穴群の部分は、母屋に付属する建物であった。

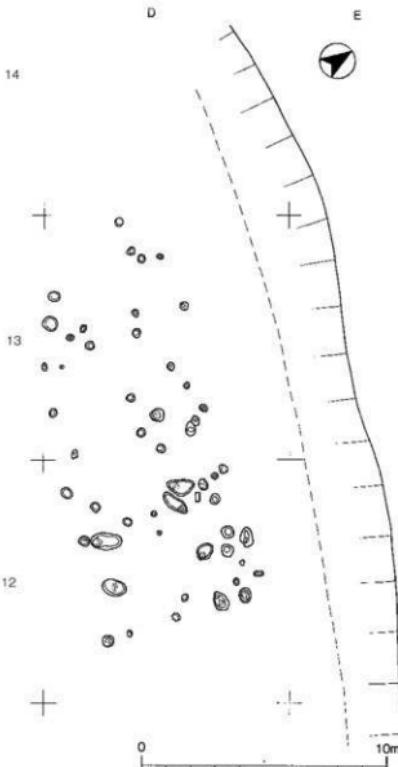
のではなかろうか。生活用の雑器がこの部分に多いことからすると、最も考えられるのが、普段における生活場、すなわち、台所と農作業におけるその内業にかかる場であったとの想定ができる。

## 第2節 遺物（第280図～第289図）

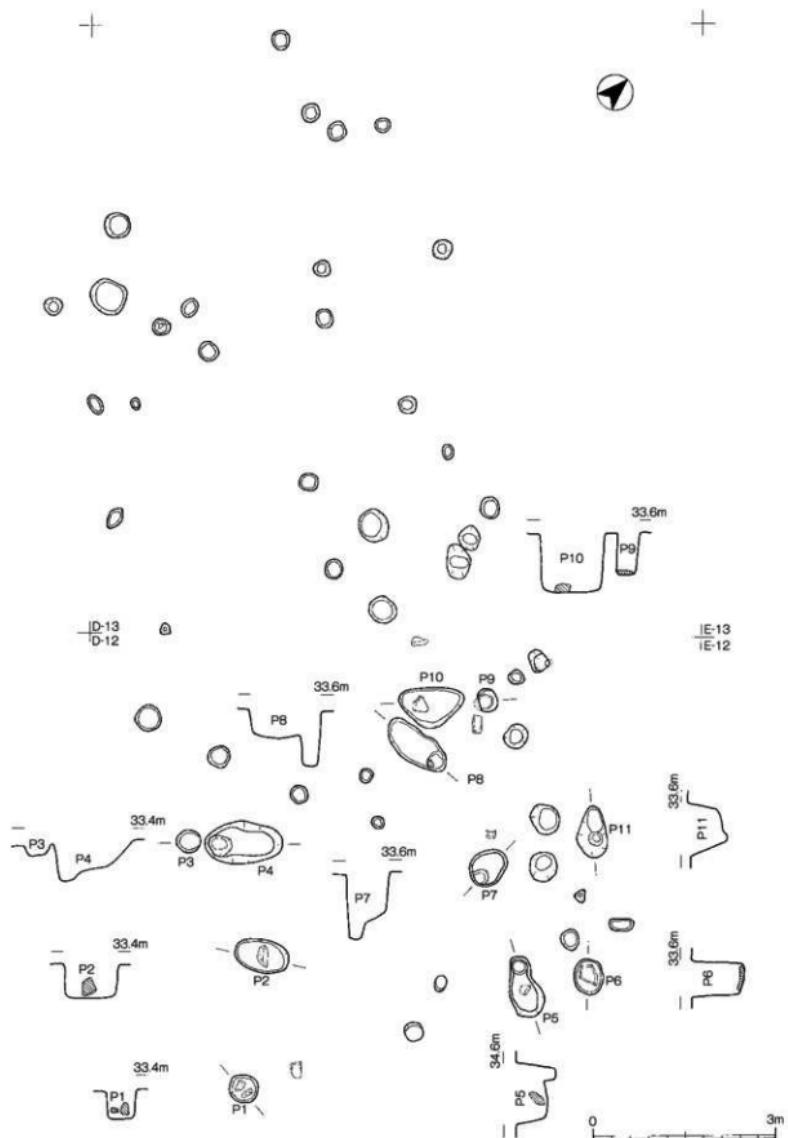
### ・磁器（第280図・第281図 1710～1720）

1710～1714は肥前系の染付碗である。

1710は外面に幅の狭い一重網目文が描かれた丸碗で、高台が高く削り出される。釉はぎされた疊付には、白色砂粒が付着する。1711は薄手の丸碗で、花文と思われる文様が描かれる。1712はやや深みのある碗で、器壁・高台ともに薄手である。見込みには二重圓線が廻り、外面は扁文が描かれる。1713は外面に丸文が描かれた丸碗で、波佐見焼である。胎土は灰色を帯びた色調で、



第278図 柱穴群位置図



第279図 柱穴群

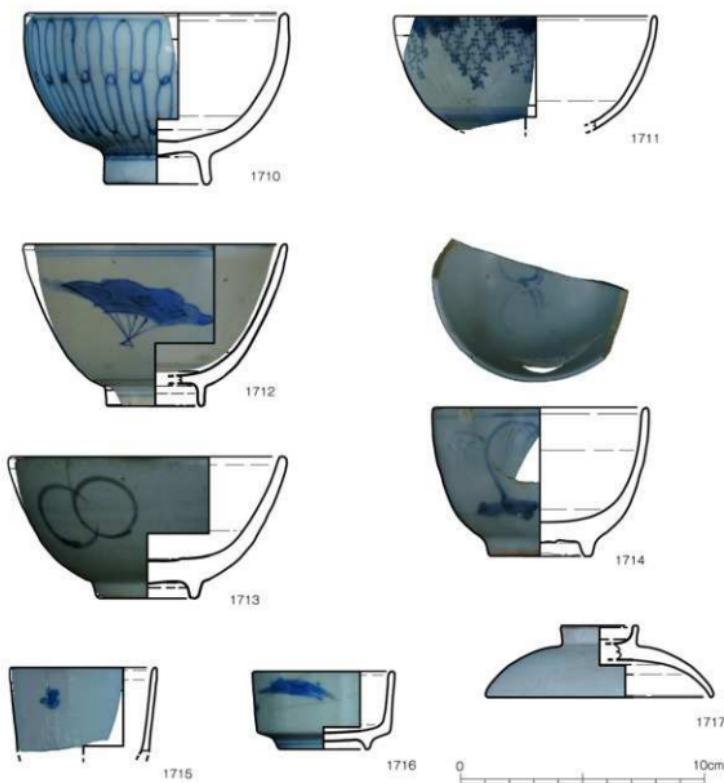
見込みは幅広の蛇ノ目釉剥ぎが施される。1714は外面に草来文が描かれた深小丸碗で、波佐見焼である。見込みにも文様が描かれるが、詳細は不明である。胎土は灰色を帯び、釉はやや青みがある。高台内および疊付には白色砂粒が付着する。

1715・1716は小坏である。1715は口唇部に鉄錆を塗った口紅装飾が施され、外面には鳥文が描かれる。1716は低い筒形を呈するもので、山水文が描かれる。

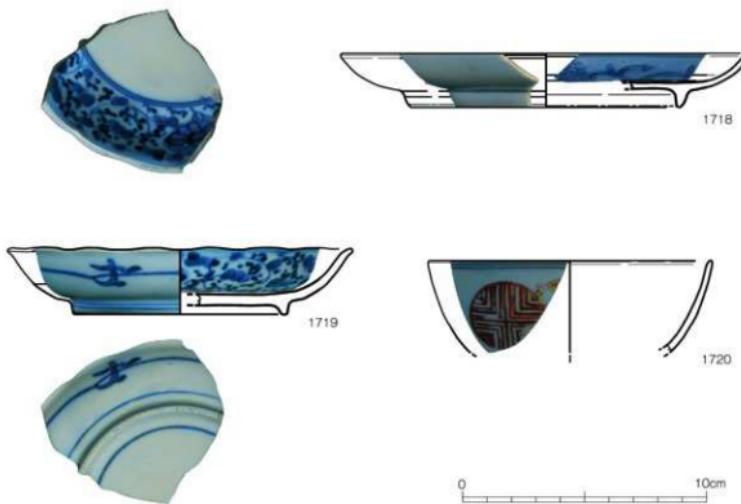
1717は白磁の蓋である。口唇部および、つまみ外と頂部の境には口紅装飾が施される。

1718・1719は染付皿である。1718は内面に唐草文が、1719は内面に牡丹唐草文、裏文様に唐草文が描かれた皿で、1719の口縁部は輪花となる。

1720は色絵の丸碗である。器壁が薄く、外面に丸文が描かれる。



第280図 磁器 (1)



第281図 磁器 (2)

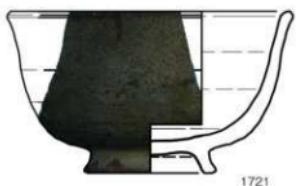
・陶器 (第282図～第289図)

1721～1757は薩摩焼である。

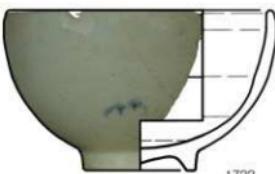
1721は腰部が張り、口縁部がわずかに外反する形状の碗である。高台は付け高台でバチ状を呈する。釉は、灰緑色の灰釉が口唇部を除き施釉される。1722は一般に「白薩摩」と呼ばれる白色陶胎の碗である。黄色味を帯びた灰白色の胎土に透明釉が畠付を除きかけられる。外面には呉須で筆文がえがかれるが、欠損部が多いため全体の図柄の詳細は不明である。高台の形状は兜巾高台である。1723は黄白色の胎土に褐色の飴釉が、畠付を除きかかる碗である。見込みには胎土目の痕跡が4か所残る。1724は黒褐色の褐釉が、腰部から高台内面を除いてかかる碗である。1725は皿である。灰色の胎土に、わずかに黄緑色がかった透明釉がかかるもので、畠付は無釉である。

1726は「白薩摩」と呼ばれる白色陶胎の皿としたが、器種、産地ともに異なる可能性も考えられる。外面には呉須により花文が描かれる。底部はゆるやかな上げ底で、中心は兜巾状につくられる。強く屈曲した腰部の下面には、幅1cm程度の釉はぎが環状に施される。1727は白色陶胎の白薩摩の皿である。体部の形状は腰部で強く屈曲し、口縁部で折れ縁となる。上面からの形状は、円形につくられた口縁部の4か所を直線的に切り取り、隅丸方形に仕上げる。図上復元のため詳細は不明であるが、折れ縁の口縁部には数か所鉄絵が描かれるものと思われる。

1728・1729は上面からの形状が円形をした無釉の蓋である。水注等の蓋として使用されたものと思われる。ロクロ上で工具を使用して粘土を平らにし、先端が鋭利な工具で円形に切り取るため、端部はシャープなつくりとなっている。1728は上面に、工具で粘土を平らにした際のタタキ



1721



1722



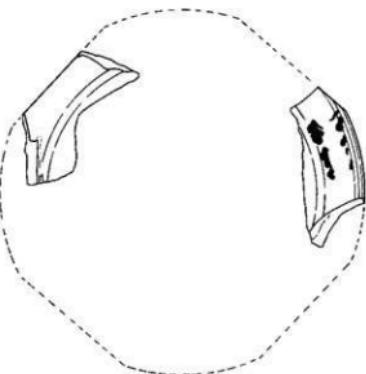
1723



1724



1725



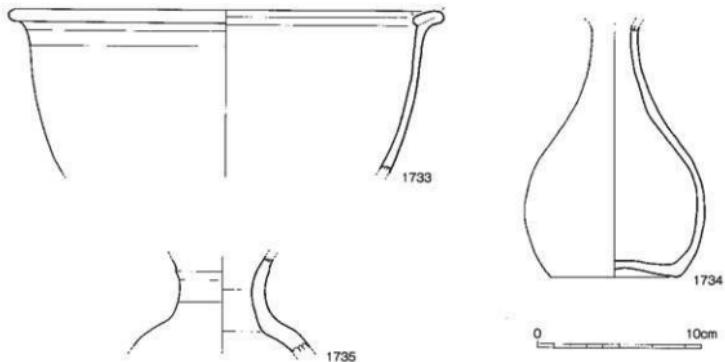
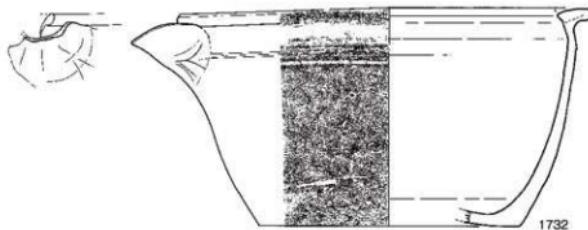
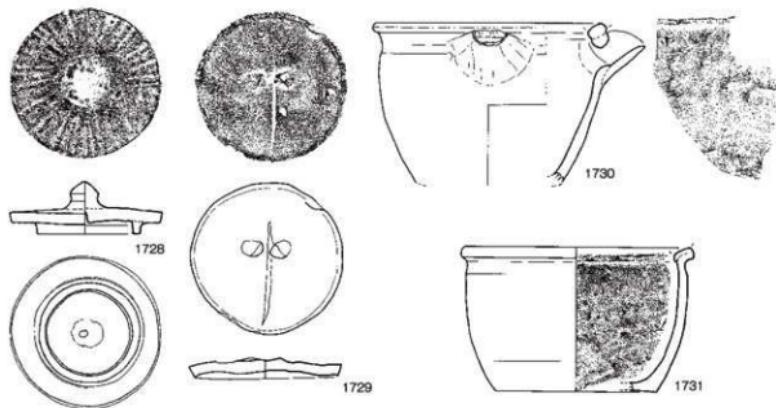
1726



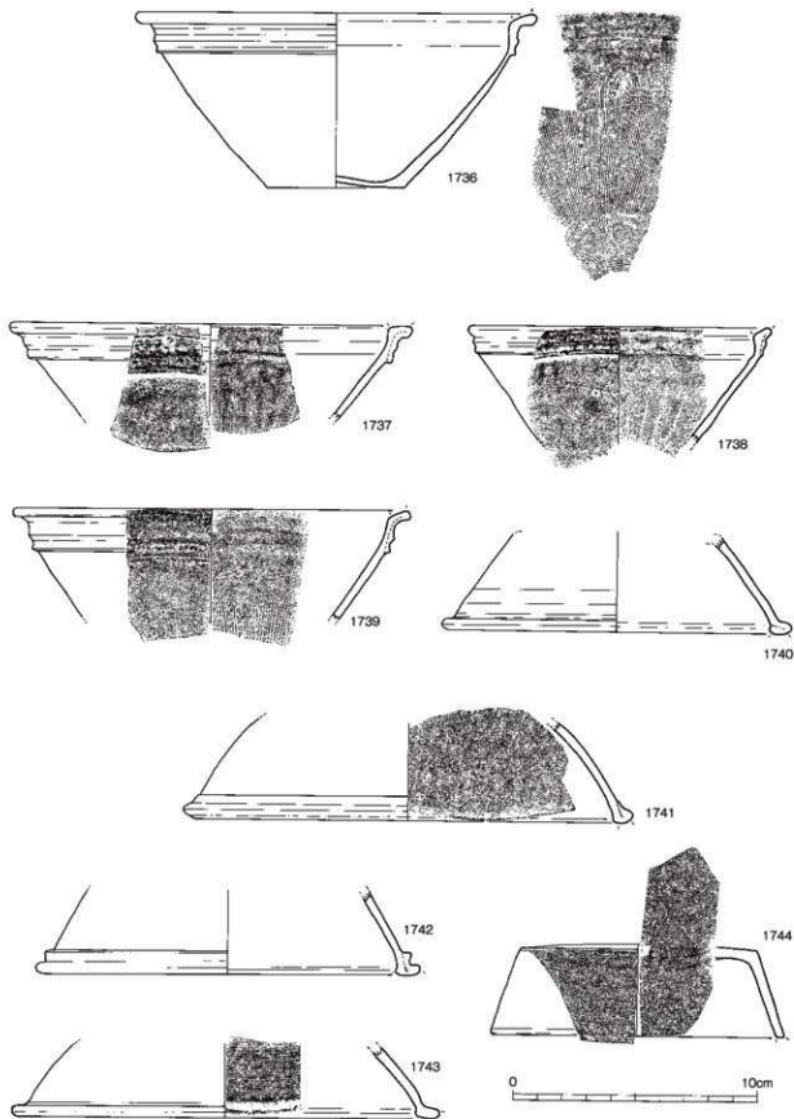
1727



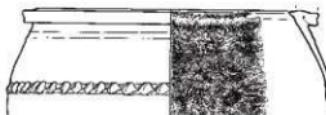
第282図 陶器 (1)



第283図 陶器 (2)



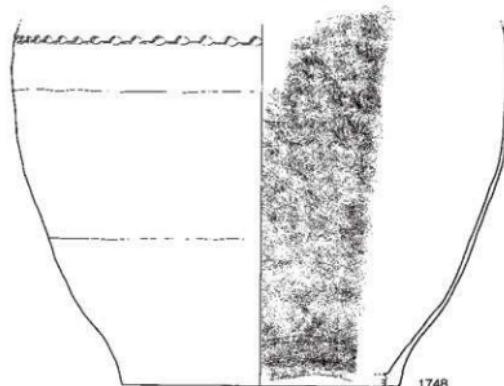
第284図 陶器 (3)



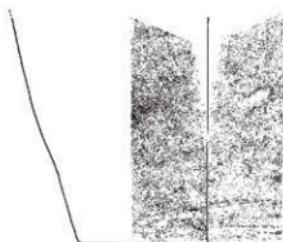
1745

1746  
10cm

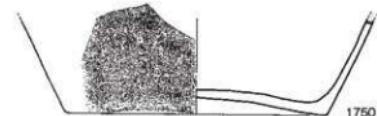
1747



1748

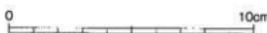
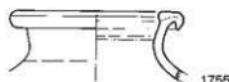
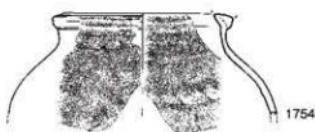
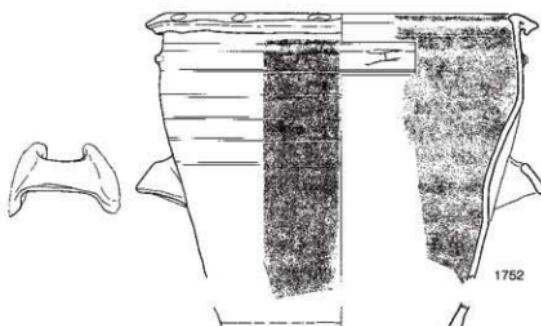
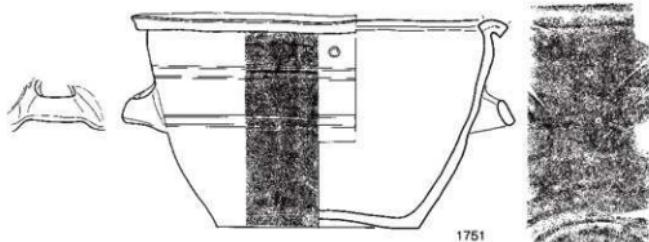


1749

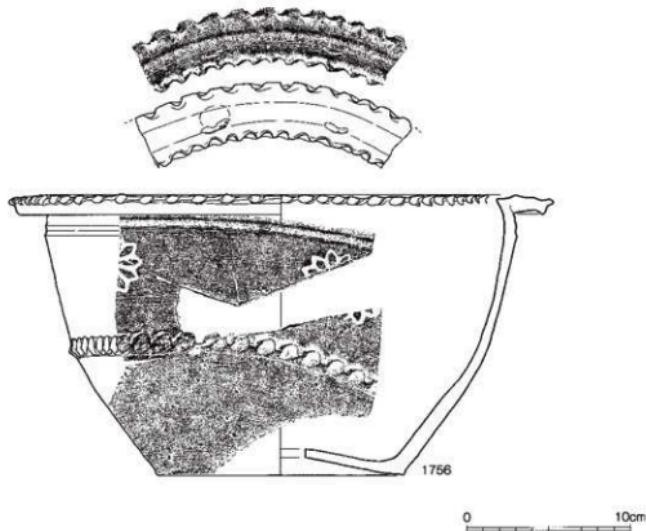


0 10cm

第285図 陶器 (4)



第286図 陶器 (5)



第287図 陶器 (6)

目が放射状に残り、中央には宝珠状のつまみが付く。また下面には粘土紐を輪状に貼り付ける。1729はつまみ部が欠損しているが、アーチ状のつまみが付くものと思われる。

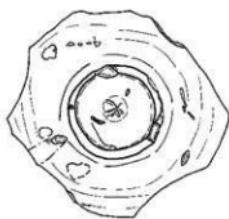
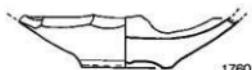
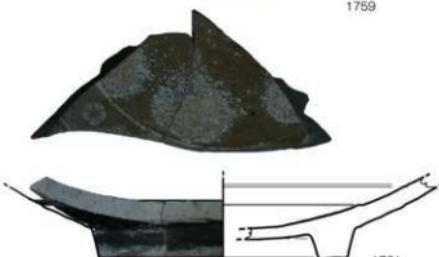
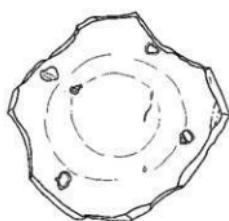
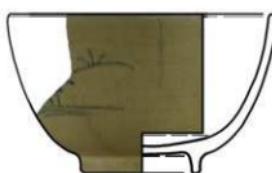
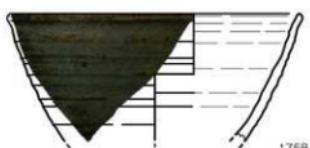
1730～1733は片口である。口縁部は内側に折り返して丸くつくられる。1731・1733は片口部が欠損しており、1730・1732の片口部は注ぎ口を口縁部下位に貼り付け、ヘラ等の工具でなでつけた胸部に密着させる。さらに内側から切り込みを入れ、上部は外側に折り返し、下部は注ぎ口になでつける。1730・1741は内面にタタキ成形時のあて具の痕跡が同心円状に残る。

1734・1735は徳利である。1734は同一個体である頸部と胸部から底部の陶片を図上復元したものである。小形の徳利で、頸部は細長く鶴首状につくられる。1735は徳利の頸部である。器壁は厚く、軸も無軸である。

1736～1739は擂鉢である。体部は、底部から口縁部にかけて「逆ハ」の字形に聞く形状を呈し、口縁部は外側に折り返して肥厚させ、2条の突帯をつくる。擂り目は細くシャープで、口縁部下位に紆余白を残す。1739を除き口唇部には貝目が残る。

1740～1744は浅鉢形の形状を呈する蓋である。甕等の蓋として使用されたものと思われる。口唇部の軸は拭い取られており、1744を除き貝目が残る。1740・1743は、口縁部を内側に折り返してつくり、1741・1742は外側に折り返して肥厚させてつくる。1744は洗面器状の形状を呈する蓋である。口唇部は折り返さず、平坦におさめる。軸は口唇部を除き施釉される。

1745～1748は甕である。1745は肩部が膨らみ、縄状の突帯を有するものである。口縁部は外側に折り返し、さらに内側に折り返して、先端は胸部に接するようにしておさめる。口唇部は外側



第288図 陶器 (7)

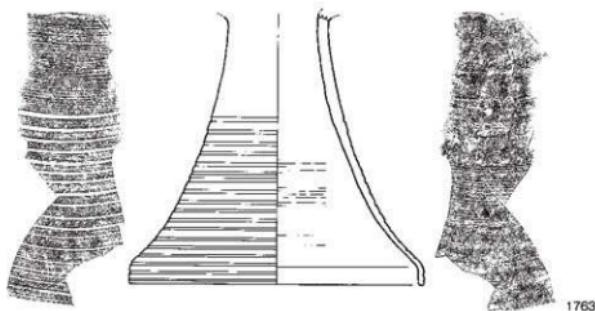
が溝縁状につくられる。1746・1747は肩部に、円形でボタン状の突起が2か所付くものである。金属器等の留め具等を模造したと思われる。1748は肩部に繩状の突帯が廻る。

1749・1750は甕または壺の底部である。外底面には貝目が残る。

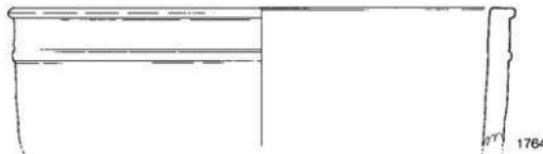
1751は把手付甕である。鉢形の形状で、胴部中位に下側が広いアーチ状の把手が2か所付く。口縁部は外側に「コ」の字状に折り返しておさめる。また外面口縁部下位には丸いボタン状の突起が付き、胴部には4条の沈線が廻る。内面にはタタキ成形時のあて具痕が同心円状に残り、内底面には放射状に残る。

1752・1753は瓶である。接合はできなかったが同一個体になるものと思われたため、図上復元をおこなった。バケツ形の形状で、口縁部下位に山状の突起が付き、胴部には沈線が5条廻る。底部は數か所切り抜いて、穴をあけるものと思われる。内面にはタタキ成形時のあて具痕が同心円状に残る。口唇部には貝目が残る。

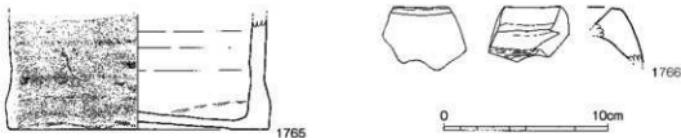
1754・1755は壺である。どちらも口唇部には貝目が残る。1754は口縁部を外側に折り断面三角形につくる。外面肩部から頸部には、ヘラ状工具による横方向の筋状の調整が施される。1755は



1763



1764



第289図 陶器 (8)

口縁部を外側に折り、さらに内側に折り返しておさめ、端部を下方に垂れる形状につくる。

1756は植木鉢である。釉はかけられず、焼き締めである。底部中央には直径3cmの円形の穴が穿たれる。口唇部の両端には波状の装飾を施し、外面は胴部全体にヘラ状工具によるナデ調整を施した後、口縁部下位に花文をスタンプし、胴部中位に縄状の突帯を廻らす。また、内面は同心円状のタタキ成形の痕跡が残る箇所も見られるが、ナデ調整によりナデ消されている。

1757は動物形土製品である。犬を形取ったものと思われ、全面に褐色の鉄釉が欠けられる。

1758～1761は肥前系陶器である。1758は碗である。口縁部の先端がわずかに外反し、胴部にはロクロ成形による筋状の痕跡が残る。1759は黄白色の胎土に透明釉が疊付を除きかけられた碗である。外面には呉須で文様が描かれる。1760は皿である。腰部から高台内面は無釉で、高台内面の中央は兜巾となる。また、見込みと腰部には胎土目が観察される。1761は白土象嵌で文様を施した三島手の大皿もしくは盤である。疊付と高台内面は無釉である。見込みには砂目が観察される。

1762～1766は産地不明の陶器である。1762は備前焼の小形擂鉢である。小鳥の頭擂鉢と思われる。

1763は高坏の脚部と思われるものである。緻密な胎土で、外面には17条の沈線が廻る。内面にはヘラ状工具による丁寧な調整痕が見られる。産地は不明である。1764は瓦質の火鉢である。1765はサヤ鉢であるが、内面に煤が付着していることから、他の用途に転用していたものと思われる。1766は壺もしくは壺と思われるものである。口縁部は内寄し、蓋受け部を有する。釉は黒色の鉄釉が、蓋受け部を除きかかる。産地不明である。

# 第X章 科学分析

## <放射性炭素年代測定結果 その1>

### 放射性炭素年代測定結果報告書

(AMS測定)

向椿城跡

株式会社 加速器分析研究所

#### (1) 遺跡の位置

向椿城跡は、鹿児島県日置市東市来町伊作田に所在する。

#### (2) 測定の意義

土器が使用された年代と炭化材の年代を明らかにする。

#### (3) 測定対象試料

測定対象試料は、IV層から出土した土器付着炭化物No.1 (1 : IAAA-62917) とNo.2 (2 : IAAA-62918), 炭化材No.9 (3 : IAAA-62919), 合計3点である。

#### (4) 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- 2) AAA (Acid Alkali Acid) 処理。酸処理、アルカリ処理、酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸(80°C)を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001~1Nの水酸化ナトリウム水溶液(80°C)を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸(80°C)を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90°Cで乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- 3) 試料を酸化銅1gと共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500°Cで30分、850°Cで2時間加熱する。
- 4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出(水素で還元)し、グラファイトを作製する。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着し測定する。

## (5) 測定方法

測定機器は、3MVタンデム加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。134個の試料が装填できる。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシユウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>Cの測定も同時に行う。

## (6) 算出方法

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用した。
- 2) BP年代値は、過去において大気中の炭素<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定された、1950年を基準年として過る放射性炭素年代である。
- 3) 付記した誤差は、次のように算出した。  
複数回の測定値について、 $\chi^2$ 検定を行い測定値が1つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値を用い、みなせない場合には標準誤差を用いる。
- 4)  $\delta^{13}\text{C}$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定するが、AMS測定の場合に同時に測定される $\delta^{13}\text{C}$ の値を用いることもある。  
 $\delta^{13}\text{C}$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差(‰:パーミル)で表した。

$$\delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{A}_S - {}^{14}\text{A}_R) / {}^{14}\text{A}_R] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = [({}^{13}\text{A}_S - {}^{13}\text{A}_{\text{PDB}}) / {}^{13}\text{A}_{\text{PDB}}] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、 ${}^{14}\text{A}_S$ : 試料炭素の<sup>14</sup>C濃度:  $({}^{14}\text{C}/{}^{12}\text{C})_S$ または  $({}^{14}\text{C}/{}^{13}\text{C})_S$

${}^{14}\text{A}_R$ : 標準現代炭素の<sup>14</sup>C濃度:  $({}^{14}\text{C}/{}^{12}\text{C})_R$ または  $({}^{14}\text{C}/{}^{13}\text{C})_R$

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の<sup>13</sup>C濃度( ${}^{13}\text{A}_S = {}^{13}\text{C}/{}^{12}\text{C}$ )を測定し、PDB(白亜紀のペレムナイト(矢石)類の化石)の値を基準として、それからのずれを計算した。但し、加速器により測定中に同時に<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>Cを測定し、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもある。この場合には表中に「加速器」と注記する。

また、 $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$ (‰)であるとしたときの<sup>14</sup>C濃度( ${}^{14}\text{A}_N$ )に換算した上で計算した値である。(1)式の<sup>14</sup>C濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値とともに次式のように換算する。

$${}^{14}\text{A}_N = {}^{14}\text{A}_S \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C}/1000))^2 \quad ({}^{14}\text{A}_S \text{として } {}^{14}\text{C}/{}^{12}\text{C} \text{ を使用するとき})$$

または

$$= {}^{14}\text{A}_S \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C}/1000)) \quad ({}^{14}\text{A}_S \text{として } {}^{14}\text{C}/{}^{13}\text{C} \text{ を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{A}_N - {}^{14}\text{A}_R) / {}^{14}\text{A}_R] \times 1000 \quad (\%)$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気の炭

酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行った年代値は実際の年代との差が大きくなる。多くの場合、同位体補正をしない  $\delta^{14}\text{C}$  に相当する BP 年代値が比較的よくその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致する。

$^{14}\text{C}$  濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC (percent Modern Carbon) がよく使われており、 $\Delta^{14}\text{C}$  との関係は次のようにになる。

$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{pMC}/100 - 1) \times 1000 \text{ (‰)}$$

$$\text{pMC} = \Delta^{14}\text{C} / 10 + 100 \text{ (%)}$$

国際的な取り決めにより、この  $\Delta^{14}\text{C}$  あるいは pMC により、放射性炭素年代 (Conventional Radiocarbon Age : yrBP) が次のように計算される。

$$T = -8033 \times \ln [(\Delta^{14}\text{C}/1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln (\text{pMC}/100)$$

5)  $^{14}\text{C}$  年代値と誤差は、1行目を四捨五入して10年単位で表示される。

6) 較正暦年代の計算では、IntCal04データベース (Reimer et al 2004) を用い、OxCalv3.10較正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

## (7) 測定結果

IV 層から出土した土器付着炭化物 No.1 と No.2 の  $^{14}\text{C}$  年代は、それぞれ  $9480 \pm 50$  yrBP (1 : IAAA-62917),  $4490 \pm 40$  yrBP (2 : IAAA-62918), 炭化材 No.9 の  $^{14}\text{C}$  年代は  $450 \pm 30$  yrBP (3 : IAAA-62919) である。暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、土器付着炭化物 No.1 が  $9120 \sim 9080$  BC (7.4%) ·  $9050 \sim 9020$  BC (5.3%) ·  $8840 \sim 8700$  BC (52.6%) ·  $8670 \sim 8650$  BC (3.0%) であり、縄文時代早期初頭に相当する。土器付着炭化物 No.2 は  $3340 \sim 3210$  BC (42.8%) ·  $3190 \sim 3150$  BC (12.6%) ·  $3140 \sim 3090$  BC (12.9%) であり、縄文時代中期前葉に相当する。炭化材 No.9 は  $1425 \sim 1465$  AD (68.2%) であり、室町時代前半に相当する。化学処理および測定内容に問題は無く、妥当な年代と考えられる。

## 参考文献

- Stuiver M. and Polash H. A. (1977) Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data. *Radiocarbon*, 19 : 355-363  
Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy : the OxCal Program. *Radiocarbon*, 37 (2) 425-430  
Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. *Radiocarbon*, 43 (2A) 355-363  
Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. (2001) 'Wiggle Matching' radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 43 (2A) 381-389  
Reimer, P.J. et al. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP. *Radiocarbon* 46, 1029-1058

IAA Code No.	試 料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-62917 #1686-1	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町伊作田 向格城跡 試 料 形 態：炭化物 試料名（番号）：1	Libby Age (yrBP) : 9,480 ± 50 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -25.74 ± 0.81 $\Delta^{13}\text{C}$ (‰) = -692.9 ± 1.9 pMC (%) = 30.71 ± 0.19
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -693.3 ± 1.9 pMC (%) = 30.67 ± 0.19 Age (yrBP) : 9,500 ± 50
	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町伊作田 向格城跡 試 料 形 態：炭化物 試料名（番号）：2	Libby Age (yrBP) : 4,490 ± 40 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -28.97 ± 0.69 $\Delta^{13}\text{C}$ (‰) = -427.9 ± 2.9 pMC (%) = 57.21 ± 0.29
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -432.6 ± 2.7 pMC (%) = 56.74 ± 0.27 Age (yrBP) : 4,550 ± 40
	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町伊作田 向格城跡 試 料 形 態：木炭 試料名（番号）：3	Libby Age (yrBP) : 450 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -26.73 ± 0.69 $\Delta^{13}\text{C}$ (‰) = -54.0 ± 3.9 pMC (%) = 94.60 ± 0.39
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -57.3 ± 3.6 pMC (%) = 94.27 ± 0.36 Age (yrBP) : 470 ± 30

#### 参考資料：歴年較正用年代

IAA Code No.	試料番号	Libby Age (yrBP)
IAAA-62917	1	9483 ± 50
IAAA-62918	2	4486 ± 40
IAAA-62919	3	445 ± 33

ここに記載するLibby Age（年代値）と誤差は下1桁を丸めない値です。

## <放射性炭素年代測定結果 その2>

### 放射性炭素年代測定結果報告書

(AMS測定)

向椿城跡

株加速器分析研究所

#### (1) 遺跡の位置

向椿城跡は、鹿児島県日置市東市来町字伊作田（北緯 $31^{\circ} 39'$ 、東経 $130^{\circ} 20'$ ）に所在する。

#### (2) 測定の目的

遺構と土器の年代を明らかにする。

#### (3) 測定対象試料

I-18区の竪穴遺構の床に近い埋土から出土した木炭（10：IAAA-70711）、I-25区のⅢ層から出土した土器に付着した炭化物（11：IAAA-70712）、合計2点である。

#### (4) 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- 2) AAA (Acid Alkali Acid) 処理。酸処理、アルカリ処理、酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001～1Nの水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- 3) 試料を酸化銅1gと共に石英管に詰め、真空中で封じ切り、500℃で30分、850℃で2時間加熱する。
- 4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着し測定する。

#### (5) 測定方法

測定機器は、3MVタンデム加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。134個の試料が装填できる。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシユ

ウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定も同時に行う。

#### (6) 算出方法

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用した。
- 2) BP年代値は、過去において大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度が一定であったと仮定して測定された、1950年を基準年として過る $^{14}\text{C}$ 年代である。
- 3) 付記した誤差は、次のように算出した。  
複数回の測定値について、 $\chi^2$ 検定を行い測定値が1つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値を用い、みなせない場合には標準誤差を用いる。
- 4)  $\delta^{13}\text{C}$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定するが、AMS測定の場合に同時に測定される $\delta^{13}\text{C}$ の値を用いることもある。  
 $\delta^{13}\text{C}$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差 (‰ : パーミル) で表した。

$$\delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{A}_S - {}^{14}\text{A}_R) / {}^{14}\text{A}_R] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = [({}^{13}\text{A}_S - {}^{13}\text{A}_{\text{PDB}}) / {}^{13}\text{A}_{\text{PDB}}] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、  
 ${}^{14}\text{A}_S$ ：試料炭素の $^{14}\text{C}$ 濃度： $(^{14}\text{C}/^{12}\text{C})_S$ または  $(^{14}\text{C}/^{13}\text{C})_S$   
 ${}^{14}\text{A}_R$ ：標準現代炭素の $^{14}\text{C}$ 濃度： $(^{14}\text{C}/^{12}\text{C})_R$ または  $(^{14}\text{C}/^{13}\text{C})_R$

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の $^{13}\text{C}$ 濃度 ( ${}^{13}\text{A}_S = {}^{13}\text{C}/{}^{12}\text{C}$ ) を測定し、PDB (白亜紀のペレムナイト (矢石) 類の化石) の値を基準として、それからのずれを計算した。但し、加速器により測定中に同時に $^{13}\text{C}/{}^{12}\text{C}$ を測定し、標準試料の測定値との比較から算出した  $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもある。この場合には表中に〔加速器〕と注記する。

また、 $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が  $\delta^{13}\text{C} = -25.0$  (‰) であるとしたときの $^{14}\text{C}$ 濃度 ( ${}^{14}\text{A}_N$ ) に換算した上で計算した値である。(1) 式の $^{14}\text{C}$ 濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算する。

$${}^{14}\text{A}_N = {}^{14}\text{A}_S \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000))^2 \quad ({}^{14}\text{A}_S として {}^{14}\text{C}/{}^{12}\text{C} を使用するとき)$$

または

$$= {}^{14}\text{A}_S \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000)) \quad ({}^{14}\text{A}_S として {}^{14}\text{C}/{}^{13}\text{C} を使用するとき)$$

$$\Delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{A}_N - {}^{14}\text{A}_R) / {}^{14}\text{A}_R] \times 1000 \quad (\text{‰})$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行った年代値は実際の年代との差が大きくなる。多くの場合、同位体補正をしない  $\delta^{14}\text{C}$ に相当するBP年代値が比較的よくその貝と同一時代のも

のと考えられる木片や木炭などの年代値と一致する。

$^{14}\text{C}$ 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC (percent Modern Carbon) がよく使われており、 $\Delta^{14}\text{C}$ との関係は次のようになる。

$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{pMC}/100 - 1) \times 1000 \text{ (‰)}$$

$$\text{pMC} = \Delta^{14}\text{C} / 10 + 100 \text{ (%)}$$

国際的な取り決めにより、この $\Delta^{14}\text{C}$ あるいはpMCにより、放射性炭素年代 (Conventional Radiocarbon Age : yrBP) が次のように計算される。

$$T = -8033 \times \ln [(\Delta^{14}\text{C}/1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln (\text{pMC}/100)$$

5)  $^{14}\text{C}$ 年代値と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。

6) 較正暦年代の計算では、IntCal04データベース (Reimer et al 2004) を用い、OxCalv3.10較正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

## (7) 測定結果

I-18区の竪穴遺構から出土した木炭 (10 : IAAA-70711) の $^{14}\text{C}$ 年代が $640 \pm 30$ yrBP。I-25区のⅢ層から出土した土器に付着した炭化物 (11 : IAAA-70712) の $^{14}\text{C}$ 年代が $4570 \pm 40$ yrBPである。暦年較正年代 ( $1\sigma = 68.2\%$ ) は、10が1290~1315AD (27.9%)・1350~1390AD (40.3%) であり鎌倉時代後半、11が3490~3470BC (3.5%)・3370~3330BC (33.3%)・3220~3180BC (16.5%)・3160~3120BC (14.9%) であり縄文時代中期初頭に相当する。化学処理および測定内容に問題は無く、妥当な年代と考えられる。

## 参考文献

- Stuiver M. and Polash H. A. 1977 Discussion : Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19, 355-363  
Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy : the OxCal Program, *Radiocarbon* 37 (2), 425-430  
Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon* 43 (2A), 355-363  
Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43 (2A), 381-389  
Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, 1029-1058

IAA Code No.	試 料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-70711 #1827-1	試料採取場所: 鹿児島県日置市東市来町字伊作田 向椿城跡	Libby Age (yrBP) : 640 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -27.78 ± 0.95
	試 料 形 態: 木炭	$\Delta^{13}\text{C}$ (‰) = -76.8 ± 3.7
	試料名 (番号): 10	pMC (%) = 92.32 ± 0.37
	(参考)	$\delta^{13}\text{C}$ の補正無し
		$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -82.0 ± 3.2
		pMC (%) = 91.80 ± 0.32
		Age (yrBP) : 690 ± 30
IAAA-70712 #1827-2	試料採取場所: 鹿児島県日置市東市来町字伊作田 向椿城跡	Libby Age (yrBP) : 4,570 ± 40 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -24.24 ± 0.97
	試 料 形 態: 炭化物	$\Delta^{13}\text{C}$ (‰) = -433.8 ± 2.6
	試料名 (番号): 11	pMC (%) = 56.62 ± 0.26
	(参考)	$\delta^{13}\text{C}$ の補正無し
		$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -433.0 ± 2.3
		pMC (%) = 56.70 ± 0.23
		Age (yrBP) : 4,560 ± 30

#### 参考資料：歴年較正用年代

IAA Code No.	試料番号	Libby Age (yrBP)
IAAA-70711	10	641 ± 32
IAAA-70712	11	4569 ± 36

ここに記載するLibby Age (年代値)と誤差は下1桁を丸めない値です。

## <放射性炭素年代測定結果 その3>

### 放射性炭素年代測定結果報告書 (AMS測定) 向椿城跡

株加速器分析研究所

#### (1) 遺跡の位置

向椿城跡は、鹿児島県日置市東市来町伊作田に所在する。

#### (2) 測定の意義

土器が使用された年代と炭化材の年代を明らかにする。

#### (3) 測定対象試料

測定対象試料は、Ⅶ層から出土した土器付着炭化物（1：IAAA-62920）、H-18区から出土した土器No.48付近の炭化物（2：IAAA-62921）、6号炉出土の炭化物（3：IAAA-62922）、7号炉出土の炭化物（4：IAAA-62923）、7号炉床面出土の炭化物（5：IAAA-62924）、8号炉出土の炭化物（6：IAAA-62925）、11号炉出土の炭化物（7：IAAA-62926）、合計7点である。

#### (4) 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- 2) AAA (Acid Alkali Acid) 処理。酸処理、アルカリ処理、酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸(80°C)を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001~1Nの水酸化ナトリウム水溶液(80°C)を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸(80°C)を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90°Cで乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- 3) 試料を酸化銅1gと共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500°Cで30分、850°Cで2時間加熱する。
- 4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出(水素で還元)し、グラファイトを作製する。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着し測定する。

#### (5) 測定方法

測定機器は、3MVタンデム加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。134個の試料が装填できる。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>Cの測定も同時に行う。

## (6) 算出方法

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用した。
- 2) BP年代値は、過去において大気中の炭素14濃度が一定であったと仮定して測定された、1950年を基準年として過る放射性炭素年代である。
- 3) 付記した誤差は、次のように算出した。  
複数回の測定値について、 $\chi^2$ 検定を行い測定値が1つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値を用い、みなせない場合には標準誤差を用いる。
- 4)  $\delta^{13}\text{C}$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定するが、AMS測定の場合に同時に測定される $\delta^{13}\text{C}$ の値を用いることもある。  
 $\delta^{13}\text{C}$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差 (‰ : パーミル) で表した。

$$\delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{A}_S - {}^{14}\text{A}_R) / {}^{14}\text{A}_R] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = [({}^{13}\text{A}_S - {}^{13}\text{A}_{\text{PDB}}) / {}^{13}\text{A}_{\text{PDB}}] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、 ${}^{14}\text{A}_S$ : 試料炭素の ${}^{14}\text{C}$ 濃度:  $({}^{14}\text{C} / {}^{12}\text{C})_S$ または  $({}^{14}\text{C} / {}^{13}\text{C})_S$

${}^{14}\text{A}_R$ : 標準現代炭素の ${}^{14}\text{C}$ 濃度:  $({}^{14}\text{C} / {}^{12}\text{C})_R$ または  $({}^{14}\text{C} / {}^{13}\text{C})_R$

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の ${}^{13}\text{C}$ 濃度 ( ${}^{13}\text{A}_S = {}^{13}\text{C} / {}^{12}\text{C}$ ) を測定し、PDB (白亜紀のペレムナイト (矢石) 類の化石) の値を基準として、それからのずれを計算した。但し、加速器により測定中に同時に ${}^{13}\text{C} / {}^{12}\text{C}$ を測定し、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもある。この場合には表中に〔加速器〕と注記する。

また、 $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が  $\delta^{13}\text{C} = -25.0$  (‰) であるとしたときの ${}^{14}\text{C}$ 濃度 ( ${}^{14}\text{A}_N$ ) に換算した上で計算した値である。(1) 式の ${}^{14}\text{C}$ 濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算する。

$${}^{14}\text{A}_N = {}^{14}\text{A}_S \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000))^2 \quad ({}^{14}\text{A}_S \text{として } {}^{14}\text{C} / {}^{12}\text{C} \text{ を使用するとき})$$

または

$$= {}^{14}\text{AS} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000)) \quad ({}^{14}\text{A}_S \text{として } {}^{14}\text{C} / {}^{13}\text{C} \text{ を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{A}_N - {}^{14}\text{A}_R) / {}^{14}\text{A}_R] \times 1000 \quad (\%)$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行った年代値は実際の年代との差が大きくなる。多くの場合、同位体補正をしない $\delta^{14}\text{C}$ に相当するBP年代値が比較的よくその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致する。

${}^{14}\text{C}$ 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC (percent Modern Carbon)

がよく使われており、 $\Delta^{14}\text{C}$ との関係は次のようになる。

$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{pMC}/100 - 1) \times 1000 \text{ (‰)}$$

$$\text{pMC} = \Delta^{14}\text{C}/10 + 100 \text{ (%)}$$

国際的な取り決めにより、この $\Delta^{14}\text{C}$ あるいはpMCにより、放射性炭素年代 (Conventional Radiocarbon Age : yrBP) が次のように計算される。

$$T = -8033 \times \ln [(\Delta^{14}\text{C}/1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln (\text{pMC}/100)$$

5)  $^{14}\text{C}$ 年代値と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。

6) 較正暦年代の計算では、IntCal04データベース (Reimer et al 2004) を用い、OxCalv3.10較正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

## (7) 測定結果

測定された $^{14}\text{C}$ 年代は、Ⅷ層から出土した土器付着炭化物 (1 : IAAA-62920) が $1950 \pm 30$ yrBP, H-18区から出土した土器No.48付近の炭化物 (2 : IAAA-62921) が $650 \pm 30$ yrBP, 6号炉出土炭化物 (3 : IAAA-62922) が $400 \pm 30$ yrBP, 7号炉出土炭化物 (4 : IAAA-62923) が $430 \pm 30$ yrBP, 7号炉床面出土の炭化物 (5 : IAAA-62924) が $330 \pm 30$ yrBP, 8号炉出土の炭化物 (6 : IAAA-62925) が $580 \pm 30$ yrBP, 11号炉出土の炭化物 (7 : IAAA-62926) が $380 \pm 30$ yrBPである。

暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、1が5AD~85AD (68.2%) であり弥生時代後期, 2が1285AD~1310AD (30.1%)・1355AD~1390AD (38.1%) であり鎌倉時代後半, 3が1440AD~1500AD (60.6%)・1600AD~1620AD (7.6%) であり室町時代後半から江戸時代初頭, 4が1430AD~1470AD (68.2%) であり室町時代中頃, 5が1510AD~1600AD (55.8%)・1610AD~1640AD (12.4%) であり室町時代後半から江戸時代初頭, 6が1315AD~1355AD (45.9%)・1385AD~1410AD (22.3%) であり鎌倉時代後半から室町時代初頭・7が1440AD~1520AD (55.3%)・1600AD~1620AD (12.9%) であり室町時代後半から江戸時代初頭に相当する。

化学処理および測定内容に問題は無く、妥当な年代と考えられる。

## 参考文献

- Stuiver M. and Polash H. A. (1977) Discussion : Reporting of  $^{14}\text{C}$  data. *Radiocarbon*, 19 : 355~363  
Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy : the OxCal Program, *Radiocarbon*, 37 (2) 425~430  
Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon*, 43 (2A) 355~363  
Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. (2001) 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon*, 43 (2A) 381~389  
Reimer, P. J. et al. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0~26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, 1029~1058

IAAA Code No.	試 料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-62920 #1686-1	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町伊作田 向裕城跡 試 料 形 態：炭化物 試料名（番号）：1	Libby Age (yrBP) : 1,950 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -30.42 ± 0.57 $\Delta^{13}\text{C}$ (‰) = -215.4 ± 3.2 pMC (%) = 78.46 ± 0.32
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -224.1 ± 3.0 pMC (%) = 77.59 ± 0.30 Age (yrBP) : 2,040 ± 30
IAAA-62921 #1687-2	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町伊作田 向裕城跡 試 料 形 態：炭化物 試料名（番号）：2	Libby Age (yrBP) : 650 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -26.32 ± 0.64 $\Delta^{13}\text{C}$ (‰) = -77.9 ± 3.6 pMC (%) = 92.21 ± 0.36
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -80.4 ± 3.4 pMC (%) = 91.96 ± 0.34 Age (yrBP) : 670 ± 30
IAAA-62922 #1687-3	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町伊作田 向裕城跡 試 料 形 態：木炭 試料名（番号）：3	Libby Age (yrBP) : 400 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -26.39 ± 0.68 $\Delta^{13}\text{C}$ (‰) = -48.9 ± 3.7 pMC (%) = 95.11 ± 0.37
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -51.6 ± 3.5 pMC (%) = 94.84 ± 0.35 Age (yrBP) : 430 ± 30
IAAA-62923 #1687-4	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町伊作田 向裕城跡 試 料 形 態：炭化物 試料名（番号）：4	Libby Age (yrBP) : 430 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -25.78 ± 0.60 $\Delta^{13}\text{C}$ (‰) = -52.4 ± 3.6 pMC (%) = 94.76 ± 0.36
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -53.9 ± 3.3 pMC (%) = 94.61 ± 0.33 Age (yrBP) : 450 ± 30
IAAA-62924 #1687-5	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町伊作田 向裕城跡 試 料 形 態：木炭 試料名（番号）：5	Libby Age (yrBP) : 330 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -24.30 ± 0.58 $\Delta^{13}\text{C}$ (‰) = -39.7 ± 3.6 pMC (%) = 96.03 ± 0.36
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -38.3 ± 3.4 pMC (%) = 96.17 ± 0.34 Age (yrBP) : 310 ± 30

IAA Code No.	試 料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-62925 #1687-6	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町伊作田 向裕城跡 試 料 形 態：炭化物 試料名（番号）：6	Libby Age (yrBP) : 580 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -29.06 ± 0.71 $\Delta^{13}\text{C}$ (‰) = -69.7 ± 3.7 pMC (%) = 93.03 ± 0.37
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -77.4 ± 3.4 pMC (%) = 92.26 ± 0.34 Age (yrBP) : 650 ± 30
IAAA-62926 #1687-7	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町伊作田 向裕城跡 試 料 形 態：木炭 試料名（番号）：7	Libby Age (yrBP) : 380 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -26.19 ± 0.77 $\Delta^{13}\text{C}$ (‰) = -46.7 ± 3.7 pMC (%) = 95.33 ± 0.37
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -49.0 ± 3.4 pMC (%) = 95.10 ± 0.34 Age (yrBP) : 400 ± 30

#### 参考資料：歴年較正用年代

IAA Code No.	試料番号	Libby Age (yrBP)
IAAA-62920	1	1948 ± 32
IAAA-62921	2	651 ± 31
IAAA-62922	3	402 ± 31
IAAA-62923	4	432 ± 30
IAAA-62924	5	325 ± 29
IAAA-62925	6	580 ± 31
IAAA-62926	7	384 ± 31

ここに記載するLibby Age（年代値）と誤差は下1桁を丸めない値です。

<樹種同定調査結果>

樹種同定調査結果報告書

向椿城跡

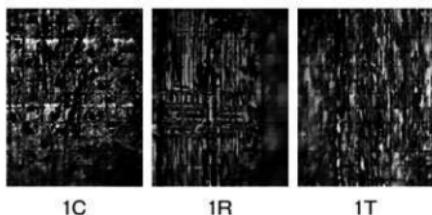
株加速器分析研究所

出土した炭化材の試料はステンレス剃刀で横断面、放射断面、接線断面の3方向の断面を割取り、プレパラートに固定して反射照明型顕微鏡で観察、同定をおこなった。以下に同定された分類群を示し、木材解剖学的記載を行う。

No.10 (I-18区遺構内) クスノキ科

クスノキ科 (Lauraceae) : 年輪内にはほぼ単独の中程度の道管が均一に散在する散孔材で、晩材部で柔組織が緻密になるので年輪界は明瞭である。道管の穿孔板は單一と階段状の2種類あり、放射組織は異性で2細胞幅で6,7細胞高程度。道管内にはらせん肥厚がある。本試料では、高木になるクスノキ科に見られるような油細胞が確認できないため、ダンコウバイやシロモジなどの中低木の可能性が高い。

※) 本測定は、当社協力会社・古代の森研究室にて実施した。



向椿城跡出土炭化材の顕微鏡写真

I : クスノキ科 (No.10 I-18区遺構内)

C : 横断面, R : 放射断面, T : 接線断面

<自然化学分析（放射性炭素年代測定・地磁気年代推定）>

鹿児島県、向拝城跡における自然化学分析

株式会社 古環境研究所  
島根大学総合理工学部  
時江 克安

I. 向拝城跡における放射性炭素年代測定

1. 試料と方法

試料名	地点・遺構	種類	前処理・調整	測定法
No 1	炉跡7	炭化物	酸-アルカリ-酸、酸洗浄、石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No 2	炉跡10	炭化物	酸-アルカリ-酸、酸洗浄、石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No 3	炉跡11	炭化物	酸-アルカリ-酸、酸洗浄、石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No 4	炉跡13	炭化物	酸-アルカリ-酸、酸洗浄、石墨調整	加速器質量分析(AMS)法

2. 測定結果

試料名	$^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 $^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	暦年代 (西暦)	測定No (Beta-)
No 1	$360 \pm 40$	-26.0'	$340 \pm 40$	交点: AD1520, 1570, 1630 1 σ: AD1485~1640 2 σ: AD1455~1655	126802
No 2	$380 \pm 40$	-26.1	$360 \pm 40$	交点: AD1505, 1595, 1620 1 σ: AD1470~1535, 1545~1635 2 σ: AD1455~1650	126803
No 3	$450 \pm 40$	-26.3	$430 \pm 40$	交点: AD1450 1 σ: AD1435~1475 2 σ: AD1425~1515, 1585~1625	126804
No 4	$390 \pm 30$	-28.7	$330 \pm 30$	交点: AD1525, 1560, 1630 1 σ: AD1505~1595, 1620~1640 2 σ: AD1475~1650	126805

1)  $^{14}\text{C}$ 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在（1950年AD）から何年前かを計算した値。 $^{14}\text{C}$ の半減期、5,568年を用いた。

2)  $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ )。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。

3) 補正 $^{14}\text{C}$ 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正值を加えた上で算出した年代。

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 $^{14}\text{C}$ 濃度の変動を補正することにより算出した年代（西暦）。補正には年代既知の樹木年輪の $^{14}\text{C}$ の詳細な測定値を使用した。この補正是10,000年BPより古い試料には適用できない。暦年代の交点とは補正 $^{14}\text{C}$ 年代値と暦年代補正曲線との交点の暦

年代値を意味する。

$1\sigma$  (68%確率)・ $2\sigma$  (95%確率)は、補正 $^{14}\text{C}$ 年代値の偏差の幅を補正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の $1\sigma$ ・ $2\sigma$ 値が表記される場合もある。

## II. 向椿城跡の炉跡（遺構と資料、測定結果）

株式会社古環境研究所

### （1）遺構と試料

遺構はシラス台地の平坦面に穿たれた楕円形の浅い穴（長径～70cm）であり、穴の壁は外側に膨らんだ袋状になっている。穴の縁の部分は全体に赤変し、一部が須恵色を呈する遺構もあるなど、被熱の履歴が歴然と示されている。しかし、縁以外の部分には被熱の形跡はない。また、穴の底には炭が敷かれていた。これらの炉跡は、焼き締まりが不十分なシラス土壤にあり、壁面が外側に膨らんでいるために、オーバーハングした縁の部分は最終焼成後に変形した可能性が大きいと考えられた。試料採取の対象として、構造の比較的のしっかりとした7号炉と9号炉を選び、縁に沿って被熱で変色した部分から、7号炉では20個、9号炉では17個の定方位試料を採取した。

### （2）測定結果

図4 (a), (b)は向椿城跡の7号炉と9号炉の自然残留磁気の方向を示す。どちらの炉についても、残留磁気の方向は大きく分散している。図5,6は7号炉と9号炉の自然残留磁気の強度分布を示す。7号炉の小数の試料は $10^{-3}$ emu/gの強値を示すが、両炉のほとんどの試料は $10^{-5}$ emu/gという弱値を示し、焼土の低焼成度が反映されている。このように、両炉の残留磁気について、強度が弱く、方向が分散しているために、意味のある地磁気年代を求めるることはできない。残留磁気の方向分散の主因は最終焼成時以後に生じた遺構の変形と考えられる。

第5表 旧石器時代石器観察表(1)

擇団 番号	遺物 番号	取上 番号	器種	石材	区	層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
第12回	1	11262	ナイフ形石器	頁岩	G-9	VII	2.9	1.1	0.6	1.9	
	2	386	ナイフ形石器	頁岩	G-8	VII	1.0	2.4	0.3	1.0	
	3	128	ナイフ形石器	頁岩	G-8	VII	3.5	1.6	0.5	2.5	
	4	2771	ナイフ形石器	頁岩	G-8	VIIb	6.2	3.2	1.0	18.4	
	5	7385	ナイフ形石器	頁岩	G-8	VIIb	7.2	4.1	1.4	40.0	
	6	6560	ナイフ形石器	砂岩	G-11	VII	3.7	2.8	0.6	4.2	
	7	4542	ナイフ形石器	黒曜石上牛鼻	F-11	VII	1.0	0.9	0.4	0.5	
	8	7022	台形石器	黒曜石系/木津留	F-11	VII	1.3	1.5	0.5	1.3	
	9	1735	台形石器	黒曜石上牛鼻	G-9	VII	1.0	1.3	0.4	0.6	
	10	3352	台形石器	黒曜石上牛鼻	G-8	VII	1.3	1.2	0.3	0.5	
	11	5506	台形石器	凝灰岩A	G-10	VII	1.0	0.9	0.1	0.2	
	12	2948	台形石器	玉髓	G-9	VII	2.1	2.4	0.6	4.1	
	13	9923	台形石器	黒曜石三船	F-11	VII	2.0	1.5	1.7	1.8	
	14	1844	台形石器	黒曜石三船	G-9	VII	1.7	2.0	0.7	2.1	
第13回	15	7388	剥片尖頭器	頁岩	G-8	VIIb	11.7	3.6	1.4	55.8	
	16	7389	剥片尖頭器	頁岩	G-8	VIIb	2.2	1.8	0.8	4.3	未製品
	17	10041	剥片尖頭器	頁岩	G-10	VIIb	7.2	3.3	1.0	23.8	
	18	7386	剥片尖頭器	粘板岩	G-8	VIIb	8.1	2.6	0.8	17.0	
	19	6376	尖頭器	瑪瑙	G-10	VII	3.8	1.7	0.8	5.0	
	20	3375	尖頭器	黒曜石三船	G-8	VII	1.0	0.8	0.4	0.2	先端部
	21	4478	三種尖頭器	黒曜石上牛鼻	F-10	VII	2.1	1.5	1.1	3.0	
第14回	22	771	スクレイバー	黒曜石上牛鼻	G-9	VII	3.8	2.7	1.2	13.6	
	23	1258	スクレイバー	黒曜石上牛鼻	G-9	VII	3.5	3.0	1.3	15.3	
	24	2171	スクレイバー	黒曜石上牛鼻	G-10	VII	4.0	3.0	0.9	8.5	
	25	2557	スクレイバー	黒曜石上牛鼻	G-8	VII	3.1	2.2	0.8	5.8	
	26	4737	スクレイバー	黒曜石上牛鼻	G-8	VII	3.2	1.0	0.6	0.9	
	27	8179	スクレイバー	黒曜石腰岳	F-11	VII	1.5	1.6	0.5	0.9	
	28	4865	スクレイバー	黒曜石上牛鼻	G-10	VII	2.4	2.1	0.5	2.8	
	29	2331	スクレイバー	黒曜石三船	G-9	VII	1.8	1.7	0.6	2.2	
	30	580	スクレイバー	黒曜石三船	G-8	VII	4.6	4.0	1.5	26.4	
	31	232	スクレイバー	黒曜石三船	G-8	VII	3.1	3.0	0.3	13.9	
	32	1356	スクレイバー	黒曜石三船	G-10	VII	3.6	3.8	1.6	21.1	
	33	2777	スクレイバー	黒曜石三船	G-8	VII	3.0	3.5	0.9	9.8	
第15回	34	3822	スクレイバー	黒曜石三船	G-9	VII	4.0	2.9	1.1	11.2	
	35	4907	スクレイバー	黒曜石三船	H-10	VII	4.1	2.5	0.6	6.7	
	36	5191	スクレイバー	黒曜石三船	G-10	VII	2.4	2.2	0.7	3.3	
	37	5295	スクレイバー	黒曜石三船	G-10	VII	2.3	1.8	0.7	2.7	
	38	5517	スクレイバー	黒曜石三船	G-10	VII	3.7	2.4	1.1	13.2	
	39	6515	スクレイバー	黒曜石三船	F-11	VII	2.0	2.8	0.7	3.8	
	40	6748	スクレイバー	黒曜石三船	G-10	VII	2.8	2.0	1.3	8.3	
	41	7714	スクレイバー	黒曜石三船	F-11	VII	2.5	2.2	1.0	4.5	
	42	8704	スクレイバー	黒曜石三船	F-11	VII	2.9	1.8	0.7	4.0	
	43	8709	スクレイバー	黒曜石三船	F-11	VII	3.4	2.0	1.2	7.5	
	44	9729	スクレイバー	黒曜石三船	F-11	VII	1.9	2.8	1.0	3.5	
	45	10046	スクレイバー	黒曜石三船	H-10	VII	2.5	2.4	1.1	8.6	
	46	10379	スクレイバー	黒曜石三船	F-11	VII	1.6	1.1	0.8	1.4	
第16回	47	10527	スクレイバー	黒曜石三船	F-11	VII	2.2	1.5	0.5	1.7	
	48	5031	スクレイバー	凝灰岩A	G-10	VII	1.8	1.4	0.5	0.8	
	49	7082	スクレイバー	チャート	F-11	VII	2.6	2.3	0.8	5.9	
	50	1759	スクレイバー	瑪瑙	G-9	VII	4.8	5.5	2.0	4.8	
	51	6393	スクレイバー	鉄石英	G-10	VII	4.6	3.0	0.8	12.8	
	52	9274	スクレイバー	硬質頁岩	F-11	VII	3.3	1.8	1.2	6.5	
	53	3937	スクレイバー	頁岩	G-10	VII	5.2	3.5	0.7	14.9	
	54	2876	スクレイバー	頁岩	G-8	VII	4.7	4.3	1.1	26.8	
	55	195	スクレイバー	灰色安山岩	G-8	VII	5.9	4.0	1.4	29.8	
	56	185	スクレイバー	安山岩	G-8	VII	2.1	1.9	0.9	3.2	

第6表 旧石器時代石器観察表(2)

擇団 番号	遺物 番号	取上 番号	器種	石材	区	層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
第16団	57	343	スクレイバー	安山岩	G-8	VII	5.3	4.5	1.8	16.4	
	58	3213	スクレイバー	安山岩	G-8	VII下	3.2	4.9	0.5	8.5	
	59	7513	スクレイバー	安山岩	F-11	VII	3.2	3.2	0.5	7.0	
	60	7796	スクレイバー	安山岩	F-11	VII	2.9	3.8	1.2	12.4	
	61	8200	スクレイバー	安山岩	F-11	VII	4.7	3.1	1.5	21.2	
	62	8773	スクレイバー	安山岩	F-11	VII	4.0	2.2	1.4	9.8	
	63	211	スクレイバー	黒曜石針尾	G-8	VII	1.5	0.9	0.6	0.8	
	64	207	二次加工剥片	黒曜石針尾	G-8	VII	2.5	2.8	0.6	5.0	
	65	668	二次加工剥片	黒曜石・森ノ木津留	G-8	VII	2.1	0.8	0.8	0.8	
	66	1156	二次加工剥片	黒曜石上牛鼻	G-9	VII	1.7	3.0	1.4	7.2	
	67	2815	二次加工剥片	黒曜石上牛鼻	G-8	VII	1.5	1.3	0.5	1.0	
	68	2854	二次加工剥片	黒曜石上牛鼻	G-8	VII	1.9	1.2	0.7	1.0	
	69	409	二次加工剥片	黒曜石三船	G-8	VII	1.7	1.3	0.4	0.7	
	70	2891	二次加工剥片	黒曜石三船	G-8	VII	1.9	1.6	0.5	1.9	
	71	7297	二次加工剥片	黒曜石三船	G-10	VII	2.0	0.8	0.6	0.6	
	72	2344	二次加工剥片	凝灰岩A	G-10	VII	3.1	2.1	1.0	3.8	
	73	3187	二次加工剥片	鉄石英	G-9	VII	1.9	1.2	0.9	1.4	
	74	99	二次加工剥片	安山岩	G-8	VII	2.3	2.9	0.9	5.7	
	75	2455	二次加工剥片	安山岩	G-8	VII	1.2	1.2	0.3	0.5	
	76	3317	二次加工剥片	安山岩	G-8	VII	6.0	1.5	1.6	10.9	
	77	3329	二次加工剥片	安山岩	G-8	VII下	4.9	2.1	1.3	8.4	
	78	4028	二次加工剥片	安山岩	G-8	VII	1.9	1.6	0.4	1.1	
	79	8815	二次加工剥片	安山岩	F-11	VII	2.1	1.7	0.5	1.5	
	80	9781	二次加工剥片	安山岩	G-11	VII	2.3	1.2	0.7	1.2	
	81	11270	二次加工剥片	安山岩	G-8	VII	1.0	1.2	0.2	0.2	
	82	242	楔形石器	黒曜石上牛鼻	G-8	VII	3.9	2.9	0.8	9.5	
	83	10177	楔形石器	黒曜石上牛鼻	F-11	VII	1.8	1.5	1.7	1.8	
	84	3163	楔形石器	黒曜石三船	G-9	VII	1.9	1.3	0.6	1.4	
	85	1192	楔形石器	安山岩	G-9	VII	2.0	2.4	1.7	2.6	
	86	2275	楔形石器	安山岩	G-10	VII	2.6	2.3	0.9	4.8	
	87	2516	楔形石器	安山岩	G-8	VII	4.6	3.0	1.8	12.8	
	88	2892	楔形石器	安山岩	G-8	VII	2.5	2.1	1.0	5.0	
	89	3364	楔形石器	安山岩	G-8	VII	1.9	3.8	0.8	5.4	
	90	4740	楔形石器	安山岩	G-8	VII	5.5	4.0	2.1	37.0	
	91	5844	楔形石器	安山岩	F-11	VII	2.3	1.3	0.6	2.2	
	92	5873	楔形石器	安山岩	F-11	VII	2.0	2.0	0.6	2.2	
	93	6535	楔形石器	安山岩	G-8	VII	1.9	2.2	0.8	3.6	
	94	6537	楔形石器	安山岩	G-8	VII	2.9	2.8	1.6	8.7	
	95	7426	楔形石器	安山岩	F-11	VII	2.5	2.1	1.1	4.3	
	96	9005	楔形石器	安山岩	G-8	VII	2.5	1.8	0.7	3.0	
	97	9751	楔形石器	安山岩	F-11	VII	3.8	1.2	0.9	2.7	
	98	10195	楔形石器	安山岩	F-11	VII	2.1	0.9	1.7	1.1	
	99	11271	楔形石器	安山岩	G-8	VII	3.0	2.3	0.9	5.1	
	100	2474	石錐	安山岩	G-8	VII	0.3	1.7	0.5	2.1	
	101	2971	石錐	安山岩	G-9	VII	1.7	0.8	0.3	0.4	
	102	10738	石錐	安山岩灰色	F-11	VII	4.2	3.0	1.0	9.7	
	103	7387	縦長剥片	砂岩	G-8	VIIb	6.2	3.3	1.6	34.3	
	104		縦長剥片	頁岩	-	-	8.9	4.7	1.5	61.4	
	105	2485	使用痕剥片	黒曜石上牛鼻	G-8	VII	3.2	2.1	0.7	4.4	
	106	165	使用痕剥片	黒曜石三船	G-8	VII下	1.2	1.2	0.9	1.3	
	107	237	使用痕剥片	黒曜石三船	G-8	VII	4.5	2.8	1.5	14.0	
	108	498	使用痕剥片	黒曜石三船	G-8	VII下	2.5	2.5	0.6	3.5	
	109	2828	使用痕剥片	黒曜石三船	G-8	VII	1.7	1.6	0.4	1.0	
	110	2877	使用痕剥片	黒曜石三船	G-8	VII	1.9	1.6	0.6	1.9	
第23団	111	2144	細石刃(完形)	黒曜石腰岳	G-10	VII	1.2	0.9	0.1	0.2	
	112	201	細石刃(完形)	黒曜石針尾	G-8	VII	3.2	0.7	0.3	0.7	

第7表 旧石器時代石器観察表(3)

擇回 番号	遺物 番号	取上 番号	器種	石材	区	層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
	113	3079	細石刃（完形）	黒曜石針尾	G-9	VII	2.4	0.7	0.2	0.3	
	114	7931	細石刃（完形）	黒曜石上牛鼻	F-11	VII	1.0	0.6	0.1	0.1	
	115	5930	細石刃（完形）	黒曜石三船	F-11	VII	1.1	0.4	0.1	0.1	
	116	8978	細石刃（完形）	安山岩	G-8	VII	1.1	0.6	0.1	0.1	
	117	4454	細石刃（完形）	安山岩	F-10	VII	2.3	0.8	0.2	0.4	
	118	8197	細石刃（完形）	安山岩	F-11	VII	0.9	0.6	0.1	0.1	
	119	8425	細石刃（完形）	安山岩	G-11	VII	1.6	0.5	0.2	0.2	
	120	1227	細石刃（頭）	黒曜石腰岳	G-9	VII	0.8	0.7	0.2	0.1	
	121	7626	細石刃（頭）	黒曜石腰岳	G-11	VII	0.6	0.4	0.1	0.1	
	122	9457	細石刃（頭）	黒曜石壺／木津留	F-11	VII	0.7	0.4	0.1	0.1	
	123	1836	細石刃（頭）	黒曜石上牛鼻	G-9	VII	0.6	0.4	0.1	0.1	
	124	2994	細石刃（頭）	黒曜石上牛鼻	G-9	VII	0.9	0.6	0.1	0.1	
	125	4219	細石刃（頭）	黒曜石上牛鼻	G-10	VII	0.7	0.5	0.1	0.1	
	126	3171	細石刃（頭）	黒曜石三船	G-9	VII	0.7	0.6	0.1	0.1	
	127	6904	細石刃（頭）	凝灰岩A	G-10	VII	0.6	0.5	0.1	0.1	
	128	11229	細石刃（頭）	凝灰岩A	G-11	VII	1.1	0.8	0.2	0.1	
	129	3190	細石刃（頭）	凝灰岩A	G-9	VII	0.8	0.7	0.2	0.1	
	130	3563	細石刃（頭）	凝灰岩A	G-9	VII	0.7	0.5	0.2	0.1	
	131	3596	細石刃（頭）	凝灰岩A	G-9	VII	0.7	0.5	0.1	0.1	
	132	8881	細石刃（頭）	頁岩	G-11	VII	0.7	0.5	0.1	0.1	
	133	8090	細石刃（頭）	安山岩	G-11	VII	0.8	0.8	0.1	0.1	
	134	9554	細石刃（頭）	安山岩	F-11	VII	0.5	0.6	0.1	0.1	
	135	2593	細石刃（頭・中）	黒曜石腰岳	G-9	VII	1.1	0.8	0.2	0.1	
	136	3540	細石刃（頭・中）	黒曜石腰岳	G-9	VII	1.1	0.5	0.2	0.1	
第23回	137	8325	細石刃（頭・中）	黒曜石腰岳	F-11	VII	1.1	0.5	0.1	0.1	
	138	1459	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	F-10	VII	0.7	0.6	0.1	0.1	
	139	4812	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	F-10	VII	1.3	0.8	0.1	0.1	
	140	4811	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	F-9	VII	0.9	0.4	0.2	0.1	
	141	2041	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	G-10	VII	1.5	0.6	0.1	0.1	
	142	86	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	G-7	VII	1.7	0.6	0.2	0.2	
	143	187	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	G-8	VII	1.7	0.5	0.1	0.2	
	144	203	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	G-8	VII	1.4	0.6	0.1	0.2	
	145	573	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	G-8	VII	1.8	0.8	0.1	0.3	
	146	612	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	G-8	VII	1.6	0.6	0.1	0.2	
	147	1723	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	G-8	VII	1.4	0.4	0.1	0.1	
	148	3223	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	G-9	VII	1.4	0.5	0.1	0.1	
	149	3789	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	G-9	VII	1.5	0.7	0.2	0.2	
	150	8764	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	F-11	VII	1.3	0.8	0.1	0.2	
	151	487	細石刃（頭・中）	黒曜石壺／木津留	G-8	VII下	1.0	0.7	0.1	0.1	
	152	244	細石刃（頭・中）	黒曜石上牛鼻	G-8	VII	1.3	0.7	0.2	0.2	
	153	334	細石刃（頭・中）	黒曜石上牛鼻	G-8	VII	1.4	0.3	0.1	0.1	
	154	3939	細石刃（頭・中）	黒曜石上牛鼻	G-10	VII	1.3	0.4	0.1	0.1	
	155	4209	細石刃（頭・中）	黒曜石上牛鼻	G-10	VII	0.7	0.4	0.1	0.1	
	156	4440	細石刃（中・尾）	黒曜石上牛鼻	G-10	VII	1.2	0.6	0.2	0.1	
	157	6765	細石刃（頭・中）	黒曜石上牛鼻	G-10	VII	1.2	0.4	0.1	0.1	
	158	8165	細石刃（頭・中）	黒曜石上牛鼻	F-11	VII	1.3	0.6	0.1	0.1	
	159	6077	細石刃（頭・中）	黒曜石上牛鼻	G-11	VII	1.2	0.6	0.1	0.1	
	160	9776	細石刃（頭・中）	黒曜石上牛鼻	G-11	VII	1.1	0.3	0.1	0.1	
	161	64	細石刃（頭・中）	黒曜石三船	G-8	VII	0.8	0.6	0.1	0.1	
	162	124	細石刃（頭・中）	黒曜石三船	G-8	VII	1.0	0.6	0.2	0.1	
	163	723	細石刃（頭・中）	黒曜石三船	G-9	VII下	1.4	0.7	0.3	0.3	
	164	7769	細石刃（頭・中）	黒曜石三船	F-11	VII	1.4	0.4	0.1	0.1	
	165	8713	細石刃（頭・中）	黒曜石三船	F-11	VII	1.1	0.5	0.1	0.1	
	166	10947	細石刃（頭・中）	黒曜石三船	F-11	VII	1.3	0.7	0.2	0.2	
	167	10857	細石刃（頭・中）	黒曜石三船	G-11	VII	1.0	0.4	0.1	0.1	
	168	4766	細石刃（頭・中）	瑪瑙	H-9	VII	0.9	0.5	0.2	0.1	摩耗あり

第8表 旧石器時代石器観察表(4)

擇団 番号	遺物 番号	取上 番号	器種	石材	区	層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
第23回	169	5129	細石刃（頭・中）	凝灰岩A	G-10	VII	1.6	0.5	0.2	0.1	
	170	5157	細石刃（頭・中）	凝灰岩A	G-10	VII	0.9	0.7	0.2	0.1	
	171	6044	細石刃（頭・中）	凝灰岩A	G-10	VII	1.2	0.7	0.2	0.1	
	172	7281	細石刃（頭・中）	凝灰岩A	G-10	VII	0.7	0.4	0.1	0.1	
第24回	173	5280	細石刃（頭・中）	凝灰岩A	G-11	VII	1.1	0.4	0.1	0.1	
	174	5627	細石刃（頭・中）	凝灰岩A	G-11	VII	1.9	0.5	0.2	0.1	
	175	9808	細石刃（頭・中）	凝灰岩A	G-11	VII	1.0	0.5	0.1	0.1	
	176	11114	細石刃（頭・中）	凝灰岩A	G-11	VII	0.9	0.5	0.1	0.1	
	177	11157	細石刃（頭・中）	凝灰岩A	G-11	VII	1.1	0.5	0.1	0.1	
	178	8784	細石刃（頭・中）	珪質頁岩	F-11	VII	1.0	0.5	0.1	0.1	
	179	2818	細石刃（頭・中）	安山岩	G-8	VII	0.8	0.4	0.1	0.1	
	180	5698	細石刃（頭・中）	安山岩	F-10	VII	2.2	0.8	0.3	0.7	
	181	721	細石刃（中）	黒曜石腰岳	G-9	VII下	0.9	0.7	0.1	0.1	
	182	799	細石刃（中）	黒曜石腰岳	G-9	VII	1.1	0.5	0.1	0.1	
	183	1231	細石刃（中）	黒曜石腰岳	G-9	VII	1.1	0.7	0.1	0.1	
	184	1632	細石刃（中）	黒曜石腰岳	F-10	VII	1.0	0.5	0.1	0.1	
	185	3532	細石刃（中）	黒曜石腰岳	G-9	VII	0.6	0.8	0.1	0.1	
	186	2063	細石刃（中）	黒曜石腰岳	G-10	VII	2.2	0.7	0.1	0.1	
	187	3790	細石刃（中）	黒曜石腰岳	G-9	VII	0.7	0.5	0.1	0.1	
	188	156	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	VII下	1.0	0.4	0.1	0.1	
	189	188	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	VII	0.8	0.7	0.1	0.1	
	190	205	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	VII	1.3	0.5	0.1	0.1	
	191	210	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	VII	0.9	0.3	0.2	0.2	
	192	213	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	VII	0.6	0.3	0.1	0.1	
	193	235	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	VII	0.9	0.5	0.3	0.4	
	194	565	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	VII	1.2	0.4	0.1	0.1	
	195	608	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	VII	0.9	0.5	0.1	0.1	
	196	614	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	VII	0.7	0.3	0.2	0.1	
	197	706	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	VII下	1.9	0.7	0.3	0.4	
	198	664	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	VII	2.2	0.7	0.1	0.1	
	199	1038	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	VII下	0.9	0.3	0.2	0.3	
	200	1081	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	VII	1.0	0.7	0.1	0.1	
	201	2589	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-9	VII	0.9	0.6	0.1	0.1	
	202	2862	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	VII	1.1	0.4	0.1	0.1	
	203	3450	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	VII	1.0	0.5	0.1	0.1	
	204	4010	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-9	VII下	0.9	0.5	0.1	0.1	
	205	9075	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	VII	1.1	0.7	0.1	0.1	
	206	3445	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-9	VII	0.5	0.7	0.2	0.1	
	207	1959	細石刃（中）	黒曜石桑ノ木津留	G-9	VII	1.0	0.5	0.1	0.1	
	208	5767	細石刃（中）	黒曜石桑ノ木津留	G-10	VII	0.7	0.5	0.2	0.1	
	209	4921	細石刃（中）	黒曜石上牛鼻	H-10	VII	0.9	0.7	0.1	0.1	
	210	1639	細石刃（中）	黒曜石上牛鼻	F-10	VII下	0.8	0.5	0.1	0.1	
	211	1832	細石刃（中）	黒曜石上牛鼻	G-9	VII	1.2	0.6	0.1	0.1	
	212	6544	細石刃（中）	黒曜石上牛鼻	G-8	VII	1.0	0.6	0.1	0.1	
	213	11283	細石刃（中）	黒曜石上牛鼻	F-11	VII	0.8	0.5	0.1	0.1	
	214	719	細石刃（中）	黒曜石三船	G-9	VII	0.8	0.9	0.1	0.1	
	215	2652	細石刃（中）	黒曜石三船	G-8	VII	0.6	0.3	0.1	0.2	
	216	943	細石刃（中）	凝灰岩A	G-10	VII	1.0	0.6	0.1	0.1	
	217	3638	細石刃（中）	黒曜石上牛鼻	G-9	VII	0.8	0.7	0.1	0.1	
	218	3878	細石刃（中）	凝灰岩A	G-10	VII	1.0	0.5	0.1	0.1	
	219	6295	細石刃（中）	凝灰岩A	G-10	VII	1.1	0.5	0.2	0.1	
	220	3537	細石刃（中）	凝灰岩A	G-9	VII	0.4	0.5	0.1	0.1	
	221	7279	細石刃（中）	凝灰岩A	G-10	VII	1.0	0.5	0.2	0.1	
	222	7858	細石刃（中）	凝灰岩A	F-11	VII	0.8	0.5	0.1	0.1	
	223	8032	細石刃（中）	凝灰岩A	G-11	VII	1.0	0.7	0.1	0.1	
	224	8060	細石刃（中）	凝灰岩A	G-11	VII	1.3	0.8	0.3	0.1	

第9表 旧石器時代石器観察表(5)

擇団 番号	遺物 番号	取上 番号	器種	石材	区	層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
第24回	225	10628	細石刃(中)	凝灰岩A	F-10	VII	0.7	0.5	0.1	0.1	
	226	11077	細石刃(中)	凝灰岩A	G-9	VII	1.4	0.6	0.1	0.1	接合
	227	10985	細石刃(中)	安山岩	G-10	VII	1.3	0.6	0.2	0.1	
	228	9784	細石刃(中)	安山岩	G-11	VII	0.9	0.6	0.1	0.1	
	229	3378	細石刃(中・尾)	黒曜石腰岳	G-8	VII下	1.2	0.4	0.1	0.1	
	230	632	細石刃(中・尾)	黒曜石針尾	G-8	VII	0.9	0.5	0.1	0.1	
	231	1052	細石刃(中・尾)	黒曜石針尾	G-8	VII	1.0	0.6	0.1	0.1	
	232	281	細石刃(中・尾)	黒曜石森ノ木津留	G-7	VII	0.8	0.5	0.1	0.1	
	233	6347	細石刃(中・尾)	黒曜石上牛鼻	G-10	VII	1.2	0.4	0.1	0.1	
	234	363	細石刃(中・尾)	黒曜石上牛鼻	G-8	VII	0.9	0.4	0.1	0.1	
	235	3107	細石刃(中・尾)	黒曜石上牛鼻	G-9	VII下	1.3	0.7	0.1	0.1	
	236	4912	細石刃(中・尾)	黒曜石上牛鼻	H-10	VII	0.9	0.4	0.1	0.1	
	237	27	細石刃(中・尾)	黒曜石三船	G-7	VII	1.1	0.6	0.2	0.1	
	2367	2367	細石刃(中・尾)	凝灰岩A	G-10	VIIb	1.0	0.4	0.2	0.1	
	239	8891	細石刃(中・尾)	凝灰岩A	G-11	VII	2.7	0.7	0.2	0.3	
	240	10464	細石刃(尾)	黒曜石腰岳	G-11	VII	0.6	0.7	0.1	0.1	
	241	3034	細石刃(尾)	黒曜石腰岳	G-9	VII	1.0	0.6	0.1	0.1	
	242	4003	細石刃(尾)	黒曜石針尾	G-9	VII	1.1	0.5	0.1	0.1	
	243	1689	細石刃(尾)	黒曜石上牛鼻	F-10	VII	0.9	0.5	0.1	0.1	
	244	3085	細石刃(尾)	黒曜石上牛鼻	G-9	VII	1.2	0.7	0.1	0.1	
第25回	245	127	調整剥片	黒曜石針尾	G-8	VII	1.6	0.5	0.1	0.1	
	246	2675	調整剥片	黒曜石針尾	G-8	VII	1.3	0.7	0.2	0.1	
	247	236	調整剥片	黒曜石三船	G-8	VII	1.8	1.3	0.3	0.1	
	248	2070	調整剥片	凝灰岩A	G-10	VII	1.1	0.6	0.2	0.2	
	249	3889	調整剥片	凝灰岩A	G-10	VII	2.6	1.1	0.4	1.3	
	250	3724	調整剥片	安山岩	G-8	VII	2.1	0.9	0.4	0.9	
	251	7928	調整剥片	安山岩	F-11	VII	1.7	0.6	0.2	0.4	
第26回	252	1256	細石刃核	黒曜石針尾	G-9	VII	2.5	1.3	1.3	3.6	
	253	740	細石刃核	黒曜石上牛鼻	G-9	VII	1.5	1.1	1.4	4.0	
	254	754	細石刃核	黒曜石上牛鼻	G-9	VII	1.6	1.1	1.5	3.9	
	255	1196	細石刃核	黒曜石上牛鼻	G-9	VII	2.1	1.8	2.0	8.0	
	256	1930	細石刃核	黒曜石上牛鼻	G-9	VII	1.3	1.6	2.0	4.6	
	257	2287	細石刃核	黒曜石上牛鼻	G-10	VII	1.6	1.5	2.1	6.6	
	258	3550	細石刃核	黒曜石上牛鼻	G-9	VII	1.6	1.5	2.2	6.4	
	259	3913	細石刃核	黒曜石上牛鼻	G-10	VII	1.3	1.7	1.9	5.7	
	260	3989	細石刃核	黒曜石上牛鼻	G-10	VII	2.8	1.8	1.1	5.7	
	261	4425	細石刃核	黒曜石上牛鼻	F-10	VII	2.1	2.6	2.1	8.5	
	262	4790	細石刃核	黒曜石上牛鼻	H-8	VII	1.3	1.5	2.0	5.4	
	263	5360	細石刃核	黒曜石上牛鼻	F-9	VII	1.7	1.7	1.4	5.0	
	264	5422	細石刃核	黒曜石上牛鼻	F-10	VII	2.0	2.7	1.7	6.3	
	265	7376	細石刃核	黒曜石上牛鼻	G-10	VII	1.8	2.0	2.0	7.7	
第27回	266	105	細石刃核	黒曜石三船	G-8	VII	1.5	2.0	2.8	10.8	
	267	385	細石刃核	黒曜石三船	G-8	VII	2.1	2.0	1.1	4.2	
	268	893	細石刃核	黒曜石三船	G-10	VII	2.7	1.2	1.8	5.0	
	269	1253	細石刃核	黒曜石三船	G-9	VII	2.3	1.2	1.9	6.2	
	270	1279	細石刃核	黒曜石三船	F-10	VII	3.6	1.5	1.8	7.6	
	271	4439	細石刃核	黒曜石三船	F-10	VII	2.2	2.0	1.9	7.2	
	272	4768	細石刃核	黒曜石三船	H-9	VII	2.2	2.4	2.5	17.2	
	273	10486	細石刃核	黒曜石三船	F-11	VII	3.5	2.5	2.0	15.4	
	274	106	細石刃核	黒曜石?	G-8	VII	1.8	2.8	1.0	4.0	
	275	258	細石刃核	凝灰岩A	G-7	VII	1.5	1.1	1.6	1.3	
	276	283	細石刃核	凝灰岩A	G-8	VII	1.7	1.5	1.5	1.2	
	277	433	細石刃核	凝灰岩A	G-9	VII	2.0	1.9	1.2	3.1	
	278	1164	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	3.1	1.3	1.9	5.0	
	279	1443	細石刃核	凝灰岩A	F-10	VII	1.5	1.1	1.8	1.6	
	280	1460	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	2.9	1.2	2.5	5.1	

第10表 旧石器時代石器観察表(6)

擇団 番号	遺物 番号	取上 番号	器種	石材	区	層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
第 27 団	281	1495	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	1.9	1.6	0.9	1.4	
	282	1503	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	2.6	0.9	1.8	2.5	
	283	1624	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	2.9	2.1	1.6	1.7	
	284	2189	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	2.0	1.2	1.4	1.8	
	285	2278	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	2.8	2.2	1.1	2.6	
	286	2360	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VIIb	2.1	1.3	1.6	2.2	
	287	2368	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VIIb	2.5	1.5	1.6	2.2	
	288	2521	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	2.7	1.8	1.1	2.2	
第 28 団	289	2530	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	2.2	1.9	1.4	4.9	
	290	2540	細石刃核	凝灰岩A	G-9	VII	2.6	1.3	0.9	1.0	
	291	2649	細石刃核	凝灰岩A	G-8	VII	1.8	1.6	1.6	1.5	
	292	4110	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	2.2	1.2	1.6	2.7	
	293	4115	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	2.2	1.9	1.4	0.6	
	294	4131	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	2.8	1.2	1.7	4.3	
	295	4157	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	1.7	2.0	1.8	1.4	
	296	4320	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	3.5	2.0	1.0	3.3	
	297	5071	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	1.1	1.8	1.4	1.6	
	298	5076	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	1.8	2.1	0.8	2.3	
	299	5102	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	1.3	0.9	1.3	1.3	
	300	5134	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	3.0	1.8	2.3	6.6	
	301	5231	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	2.2	1.9	1.5	6.5	
	302	5548	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	1.6	1.0	1.1	1.2	
	303	5574	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	3.4	1.2	1.5	2.3	
	304	5578	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	1.8	1.9	0.6	3.2	
	305	5586	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	1.5	0.8	2.3	1.8	
	306	5591	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	3.2	1.8	1.1	2.8	
第 29 団	307	5753	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	1.6	1.1	2.3	2.7	
	308	6046	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	1.5	1.3	1.0	0.6	
	309	6136	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	2.2	1.7	1.4	2.2	
	310	6185	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	2.5	1.1	1.6	2.1	
	311	6268	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	3.0	2.5	1.6	4.4	
	312	6667	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	2.2	1.5	1.4	1.6	
	313	6710	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	2.0	1.4	1.6	3.2	
	314	7986	細石刃核	凝灰岩A	G-11	VII	1.3	1.5	1.4	0.8	
	315	9719	細石刃核	凝灰岩A	F-11	VII	2.0	1.4	1.9	4.0	
	316	9811	細石刃核	凝灰岩A	G-11	VII	1.9	1.3	1.7	2.5	
	317	10239	細石刃核	凝灰岩A	F-11	VII	2.3	2.2	1.6	3.6	
	318	10469	細石刃核	凝灰岩A	G-10	VII	1.6	1.4	1.5	3.6	
	319	10948	細石刃核	凝灰岩A	F-11	VII	2.0	1.0	1.1	1.0	
第 30 団	320	1166	ブランク	黒曜石上牛鼻	G-9	VII	1.4	2.5	3.5	12.6	
	321	4428	ブランク	黒曜石上牛鼻	F-10	VII	1.3	1.3	2.0	4.7	
	322	5317	ブランク	黒曜石上牛鼻	G-10	VII	-	-	-	-	
	323	964	ブランク	黒曜石三船	G-10	VII	1.6	2.0	2.9	11.6	
	324	1635	ブランク	黒曜石三船	F-10	VII	-	-	-	-	
	325	2978	ブランク	黒曜石三船	G-9	VII	1.2	1.8	1.2	7.7	
	326	5234	ブランク	黒曜石三船	G-10	VII	1.6	1.8	2.0	7.3	
	327	8821	ブランク	黒曜石三船	F-11	VII	3.0	2.6	2.2	10.8	
第 33 団	328	884	ブランク	黒曜石?	G-10	VII	2.0	2.3	1.6	7.3	
	329	1736	ブランク	凝灰岩A	G-9	VII	2.3	1.1	2.3	1.7	
	330	8027	石鏃	鉄石英	G-11	VII	2.1	(1.8)	0.5	1.1	
	331	4147	石鏃	頁岩	G-10	VII	2.2	0.9	0.3	0.9	
	332	6596	石鏃	黒曜石針尾	F-11	VII	1.3	1.4	0.2	0.3	
	333	9277	石鏃	黒曜石針尾	F-11	VII	(0.8)	1.8	0.1	0.6	
第 33 団	334	3492	石鏃	黒曜石灰色	F-9	VII	2.3	1.4	0.6	1.7	
	335	8054	石鏃	黒曜石灰色	G-11	VII	(1.3)	1.7	0.4	0.8	
	336	2683	石鏃	チャート	G-8	VII	1.2	1.3	0.2	0.2	

第11表 旧石器時代石器観察表(7)

擇団 番号	遺物 番号	取上 番号	器種	石材	区	層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
第33 回	337	6999	石鏟	硬質頁岩	F-11	VII	2.1	1.7	0.3	1.1	
	338	2476	石鏟	黒曜石桑ノ木津留	G-8	VII	1.7	1.3	0.4	0.7	
	339	7100	石鏟	黒曜石針尾	F-11	VII	(1.5)	1.2	0.2	0.6	
	340	3045	石鏟	黒曜石桑ノ木津留	G-9	VII	1.1	0.8	0.3	0.2	
	341	227	石鏟	黒曜石桑ノ木津留	G-8	VII	1.5	0.9	0.5	0.4	
	342	2480	石鏟	黒曜石桑ノ木津留	G-8	VII	1.3	1.0	0.3	0.3	
	343	1286	石鏟	黒曜石上牛鼻	F-10	VII	1.7	1.1	0.3	0.6	
	344	7183	石鏟	黒曜石上牛鼻	G-11	VII	1.9	(1.5)	0.4	1.0	
	345	5410	石鏟	黒曜石灰色	F-10	VII	1.9	1.4	0.3	0.7	
	346	4713	石鏟	黒曜石針尾	G-11	VII	1.6	1.1	0.4	0.4	
	347	8867	石鏟	頁岩	G-11	VII	(1.5)	1.4	0.1	0.7	
	348	346	石鏟	黒曜石三船	G-8	VII	1.2	0.7	0.4	0.2	
	349	783	石鏟	頁岩	G-9	VII	2.6	1.3	0.6	1.8	
	350	7584	石鏟	硬質頁岩	G-11	VII	2.3	1.6	0.6	0.7	
	351	4676	石鏟	黒曜石針尾	G-11	VII	(1.4)	1.6	0.3	0.6	
	352	11284	石鏟	黒曜石上牛鼻	F-11	VII	1.7	1.1	0.3	0.5	
	353	314	石鏟	黒曜石三船	G-8	VII	(1.3)	(0.7)	0.2	0.3	
	354	407	石鏟	黒曜石三船	G-8	VII	0.8	1.0	0.5	0.3	
	355	9372	石鏟	黒曜石灰色	F-11	VII	1.3	1.9	0.4	1.1	
	356	8594	石鏟	チャート	F-12	VII	1.3	1.7	0.5	0.9	
第34 回	357	2524	石鏟	安山岩	G-8	VII	1.0	0.6	0.2	0.1	
	358	2680	石鏟	ハリ質安山岩	G-8	VII	1.6	1.3	0.3	0.4	
	359	3027	石鏟	ハリ質安山岩	G-9	VII	1.7	1.2	0.5	0.6	
	360	7442	石鏟	ハリ質安山岩	F-11	VII	2.2	(1.5)	0.4	1.0	
	361	81	石鏟	安山岩	F-11	VII	(1.9)	1.9	0.3	1.7	
	362	226	石鏟	安山岩	G-8	VII	1.6	1.2	0.5	0.7	
	363	649	石鏟	安山岩	G-8	VII	2.3	1.3	0.3	0.7	
	364	1006	石鏟	安山岩	G-10	VII	2.3	1.5	0.5	1.1	
	365	1696	石鏟	安山岩	F-10	VII	1.4	1.1	0.5	0.5	
	366	2598	石鏟	安山岩	G-9	VII	1.9	1.2	0.3	0.7	
	367	3443	石鏟	安山岩	G-8	VII下	2.3	1.1	0.4	0.7	
	368	7060	石鏟	安山岩	F-11	VII	1.8	(1.4)	0.3	0.7	
	369	7479	石鏟	安山岩	F-11	VII	2.7	(1.5)	0.3	1.4	
	370	7482	石鏟	安山岩	F-11	VII	0.7	(1.3)	(1.2)	0.5	
	371	8312	石鏟	安山岩	F-11	VII	(1.2)	(1.5)	0.4	0.6	
	372	8752	石鏟	安山岩	F-11	VII	(1.4)	1.5	0.2	0.9	
	373	9343	石鏟	安山岩	F-11	VII	(2.1)	(1.6)	0.4	1.0	
	374	9472	石鏟	安山岩	F-11	VII	1.5	1.4	0.4	0.6	
	375	7682	石鏟	安山岩	F-11	VII	2.3	1.7	0.3	0.9	
	376	9716	石鏟	安山岩	F-11	VII	2.3	(1.7)	0.4	0.8	
	377	10697	石鏟	安山岩	G-10	VII	(1.6)	1.8	0.4	1.1	
	378	11297	石鏟	安山岩	-	VII	1.3	1.1	0.2	0.3	
	379	7831	石鏟	安山岩灰色	F-11	VII	(1.8)	1.8	0.3	1.0	
	380	10030	石鏟	ハリ質安山岩	F-11	VII	(1.7)	1.5	0.2	0.9	
	381	1475	石鏟	安山岩	G-10	VII	(2.1)	2.4	0.5	2.7	
	382	4422	石鏟	安山岩	F-10	VII	1.7	1.7	0.4	0.8	
	383	4692	石鏟	安山岩	G-11	VII	1.4	1.5	0.3	0.6	
	384	5898	石鏟	安山岩	F-11	VII	1.6	1.4	0.2	0.6	
	385	6459	石鏟	安山岩	F-11	VII	(1.9)	2.2	0.3	14.4	
	386	6613	石鏟	安山岩	F-11	VII	2.1	(0.6)	0.2	0.4	
	387	7088	石鏟	安山岩	F-11	VII	(2.0)	(2.7)	0.1	0.9	
	388	7966	石鏟	安山岩	F-11	VII	2.1	1.1	0.3	0.6	
第35 回	389	8399	石鏟	安山岩	F-11	VII	(1.7)	1.8	0.3	1.7	
	390	10871	石鏟	安山岩	G-11	VII	1.8	1.4	0.2	0.9	
	391	10955	石鏟	安山岩	F-11	VII	(1.5)	2.2	0.3	1.4	
	392	11078	石鏟	ハリ質安山岩	G-9	VII	1.8	(0.8)	0.2	0.6	

第12表 旧石器時代石器観察表(8)

擇団 番号	遺物 番号	取上 番号	器種	石材	区	層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
第35 団	393	1441	石鎌	安山岩	F-10	VII	2.6	(1.9)	0.5	1.7	
	394	4249	石鎌	安山岩	G-10	VII	2.1	(1.7)	0.4	1.1	
	395	11245	石鎌	安山岩	F-9	VII	2.5	1.7	0.4	1.3	
	396	8074	石鎌	ハリ貫安山岩	G-11	VII	(0.9)	1.5	0.1	0.4	
	397	2477	石鎌	安山岩	G-8	VII	2.0	1.1	0.4	0.8	
	398	3404	石鎌	安山岩	G-8	VII	2.2	1.5	0.8	1.6	
	399	3647	石鎌	安山岩	G-9	VII	1.8	1.4	0.4	1.1	
	400	3782	石鎌	安山岩	G-9	VII	1.5	0.9	0.2	0.5	
	401	4012	石鎌	安山岩	G-9	VII	1.6	1.0	0.3	0.4	
	402	5463	石鎌	安山岩	F-10	VII	(1.5)	(1.4)	0.5	0.7	
	403	6538	石鎌	安山岩	G-8	VII	2.0	1.5	0.5	1.0	
	404	6933	石鎌	安山岩	F-11	VII	1.5	1.1	0.4	0.4	
	405	6980	石鎌	安山岩	F-11	VII	1.5	0.9	0.4	0.4	
	406	7723	石鎌	安山岩	F-11	VII	2.8	1.8	0.8	3.1	
	407	8016	石鎌	安山岩	G-11	VII	2.0	(1.4)	0.4	1.9	
	408	9314	石鎌	安山岩	F-11	VII	1.7	1.7	0.5	1.6	
	409	10535	石鎌	安山岩	F-11	VII	2.4	1.6	0.6	1.7	
	410	8481	石鎌	安山岩	G-11	VII	1.6	1.2	0.1	0.6	
	411	8385	石鎌	安山岩	F-11	VII	(1.2)	1.0	0.2	0.5	
	412	9174	石鎌	安山岩	F-11	VII	(0.7)	(0.9)	0.2	0.1	
第36 団	413	9518	石鎌	安山岩	F-11	VII	1.4	0.9	0.3	0.4	
	414	2968	石鎌	ハリ貫安山岩	G-9	VII	1.4	0.7	0.4	0.3	
	415	3838	石鎌	ハリ貫安山岩	G-9	VII	1.4	1.4	0.4	0.7	
	416	531	石鎌	安山岩	G-8	VII	1.5	1.3	0.5	0.6	
	417	3834	石鎌	安山岩	G-9	VII	1.7	1.2	0.3	1.0	
	418	7952	石鎌	安山岩	F-11	VII	2.8	(1.8)	0.6	2.8	
	419	8085	石鎌	安山岩	G-11	VII	1.8	1.5	0.3	0.7	
	420	9011	石鎌	安山岩	G-8	VII	1.5	(1.2)	0.3	0.5	
第37 団	421	8932	石核	安山岩	G-11	VII	1.7	2.0	0.6	1.9	
	422	7458	石鎌	安山岩	F-11	VII	(1.5)	(0.8)	0.2	0.5	
	423	8374	石鎌	安山岩	F-11	VII	2.3	1.3	0.4	1.2	
	424	8402	石鎌	安山岩	F-11	VII	2.2	2.4	1.0	4.6	
	425	10806	石鎌	安山岩	F-11	VII	(1.8)	1.2	0.3	0.7	
	426	7804	石鎌	安山岩灰色	F-11	VII	(1.7)	2.0	0.5	1.7	
	427	5334	石核	黒曜石上牛鼻	G-10	VII	2.0	1.8	1.8	11.6	
第38 団	428	10761	石核	黒曜石上牛鼻	F-11	VII	4.0	4.1	1.5	20.2	
	429	768	石核	黒曜石三船	G-9	VII	3.0	2.8	2.2	24.1	
	430	8964	石核	黒曜石三船	G-8	VII	3.8	3.0	2.1	28.1	
	431	1146	凹石	砂岩	G-9	VII	15.6	11.3	5.5	1245.0	
	432	1144	敲石	砂岩	G-9	VII	5.7	4.5	3.1	102.5	
	433	1071	敲石	砂岩	G-20	VII	3.8	2.7	2.2	21.6	
	434	3499	敲石	安山岩	G-9	VII	8.5	5.2	6.3	390.0	
第39 団	435	1244	敲石	安山岩	G-8	VII	6.7	5.7	4.5	218.8	
	436	3531	敲石	砂岩	G-9	VII	5.4	4.0	1.5	43.8	
	437	1330	敲石	砂岩	G-9	VII	6.9	5.2	2.3	117.6	
	438	1030	敲石	砂岩	G-8	VII	4.4	4.1	3.2	77.0	
	439	2711	敲石	砂岩	G-8	VII	4.4	3.5	1.4	30.0	
	440	2692	敲石	砂岩	G-8	VII	10.8	4.8	3.3	244.6	
	441	1716	敲石	砂岩	F-10	VII	8.2	6.4	5.8	365.0	
第40 団	442	10408	敲石	砂岩	F-11	VII	3.4	3.4	2.6	35.8	
	443	1242	磨石	砂岩	G-9	VII	7.6	3.6	3.1	118.5	
	444	1715	磨石	砂岩	F-10	VII	4.8	5.8	2.4	74.3	
	445	10698	台石	安山岩	G-10	VII	14.9	11.2	6.7	1600.0	

第13表 繩文時代土器観察表(1)

擇団番号	遺物番号	點定調	出土区	器種	部位	色調				胎土		焼成	調整				備考
						外面部	内面部	石英	長石	陶石	その他		外面部	内面部			
第49図	446	ob集積	J-26	深鉢	胴部	灰黄褐	にふい黄褐	○	○	白赤粒	黒い	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	突帯
	450	Ⅶ	G-8	深鉢	口縁部	明褐	褐	○		白赤粒	黒い	ナデ	ナデ・指痕直	目突帶・含砂織			
	451	Ⅶ	G-8	深鉢	口縁部	にふい黄褐	褐	○	○	白赤粒	黒い	ナデ	ナデ・工具痕	粗面帶・沿面削痕・外周削			
	452	Ⅶ	F-9	深鉢	口縁部	明褐	にふい黄褐	○			黒い	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	目突帶(貝殻压痕か?)
	453	Ⅶ	G-10	深鉢	口縁部	黄褐	にふい黄褐	○	○	白粒	黒い	ナメ後ナデ	ナメ・小け継	目突帶・含砂織			
	454	-	G-8	深鉢	口底部・側部	褐	黒褐	○	○	白赤粒	黒い	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	突帯
	455	Ⅶ	G-8	深鉢	口底部・側部	褐	黒褐	○		白赤粒	黒い	ナデ・ハサメ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	目突帶・含砂織
	456	Ⅶ	G-9	深鉢	口底部・側部	にふい褐	灰黄褐	○		白赤粒	黒い	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	目突帶
	457	Ⅶ	G-8	深鉢	口底部・側部	にふい褐	にふい黄褐	○		白赤粒	黒い	ナデ	ナデ・指痕直	目突帶			
	458	Ⅶ	G-8	深鉢	口底部・側部	褐	暗灰褐	○		白赤粒	黒い	-	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	目突帶・外周削痕・含砂織
第51図	459	Ⅶ	G-9	深鉢	口底部・側部	褐	にふい黄褐	○		白赤粒	黒い	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	目突帶
	460	Ⅶ	G-8	深鉢	口底部・側部	明褐	黒褐	○		白粒	黒い	ナデ?	ナデ?	ナデ?	ナデ?	ナデ?	内面・外縁ともに剥離・突帯
	461	Ⅶ	G-9	深鉢	口底部・側部	黄褐	にふい黄褐	○		白粒	黒い	ナメ後ナデ	ナメ・指痕直	ナメ	ナメ	ナメ	突帯・含砂織
	462	Ⅶ	F-11	深鉢	口底部・側部	にふい黄褐	灰黄褐	○		白赤粒	黒い	ナメ後ナデ	指痕直・ハサメ	目突帶・含砂織			
	463	Ⅶ	G-8	深鉢	胴部	灰黄褐	にふい黄褐	○		白粒	黒い	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	目突帶(貝殻压痕)・含砂織
	464	Ⅶ	G-8	深鉢	胴部	黄褐	にふい黄褐	○		白赤粒	黒い	ナメ後ナデ	ナメ	ナデ	ナデ	ナデ	目突帶(貝殻压痕)・含砂織
	465	Ⅶ	G-8	深鉢	胴部	黄褐	黒褐	○		白粒	黒い	ナメ後ナデ	ハケメ	ナメ	ナメ	ナメ	目突帶(工具1.5mm幅)
	466	Ⅶ	G-8	深鉢	胴部	黒褐	灰褐	○		白赤粒	黒い	ナメ後ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	
	467	IV	J-27	円筒	口縁部	灰褐	にふい赤褐	○	○	良	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	
	468	カラクン	F-16	円筒	口縁部	にふい黄褐	にふい赤褐	○	○	良	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	
第52図	469	III b	H-18	円筒	口縁部	茶褐	にふい黄褐	○	○	良	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	
	470	表探	J-29	円筒	口縁部	にふい黄褐	にふい赤褐	○	○	良	条痕?	ナデ?	ナデ?	ナデ	ナデ	ナデ	
	471	III a	F-11	円筒	口縁部・側部	灰褐	にふい黄褐	○	○	良	条痕	ナメ後ナデ	口径13.0cm				
	472	IV	J-26	円筒	口縁部	にふい褐	にふい褐	○	○	砂粒	良	条痕	ナメ後ナデ				
	473	I	H-18	円筒	口縁部	にふい褐	赤褐	○	○	良	条痕	ナメ後ナデ					
	474	II	H-20	角筒	口縁部	にふい褐	にふい褐	○	○	良	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	
	475	II	G-20	角筒	口縁部	にふい褐	にふい褐	○		良	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	
	476	表探	H-18	角筒	口縁部	にふい褐	にふい褐	○	○	良	条痕	ナメ後ナデ					
	477	III a	J-26	円筒	口縁部	にふい褐	橙	○	○	良	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	
	478	III a	H-8	円筒	胴部	にふい黄褐	褐灰	○	○	良	条痕	ナメ後ナデ					
第53図	479	II	H-20	角筒	胴部	橙	黒褐	○		良	条痕	ナメ後ナデ					
	480	カラクン	H-18	角筒	胴部	にふい褐	にふい褐	○	○	良	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	
	481	II	H-19	角筒	胴部	灰褐	灰褐	○	○	砂粒	良	条痕	ケズリ	胎士が粗い			
	482	IV	H-14	角筒	胴部	明褐	褐	○	○	良	条痕	ケズリ					
	483	表探	H-17	角筒	胴部	黑褐	褐灰	○	○	良	条痕	ケズリ					
	484	カラクン	H-18	角筒	胴部	にふい褐	にふい黄褐	○	○	良	条痕	ケズリ後ナデ					
	485	II	H-18	角筒	胴部	にふい黄褐	にふい黄褐	○	○	良	条痕	ケズリ					
	486	III	F-10	角筒	胴部	黒褐	黄褐	○	○	良	条痕	ケズリ					
	487	表探	-	角筒	胴部	にふい褐	にふい褐	○	○	良	条痕	ケズリ後ナデ					
	488	II	H-20	角筒	胴部	にふい黄褐	褐灰	○	○	白粒	良	条痕	ケズリ後ナデ				
第54図	489	III b	H-18	角筒	胴部	にふい黄褐	黒褐	○	○	良	条痕	ケズリ?					
	490	III a	J-26	角筒	胴部	にふい褐	黒褐	○	○	良	条痕	ケズリ後ナデ					
	491	III a	G-12	角筒	胴部	にふい褐	橙	○	○	良	条痕	ケズリ					
	492	V	H-18	角筒	胴部	橙	黒褐	○	○	良	条痕	-					
	493	I	H-25	角筒	胴部	橙	褐	○	○	砂粒	良	条痕					
	494	III a	E-10	角筒	胴部	にふい褐	にふい褐	○	○	良	条痕	ケズリ後ナデ					
	495	カラクン	G-11	角筒	胴部	にふい褐	にふい褐	○	○	良	条痕	ナデ					
	496	表探	H-19	角筒	胴部	橙	褐	○		良	条痕	ケズリ後ナデ					
	497	カラクン	-	円筒	胴部	橙	褐灰	○	○	良	条痕	ケズリ後ナデ					
	498	III a	F-11	円筒	胴部	橙	褐	○		良	条痕	ケズリ					
第55図	499	III a	F-11	円筒	胴部	橙	黒褐	○	○	良	条痕	ナデ					
	500	表探	H-17	角筒	胴部	橙	褐	○	○	良	条痕	ナデ					
	501	III a	F-11	角筒	胴部	にふい褐	にふい黄褐	○	○	良	条痕	ケズリ後ナデ					
	502	III a	F-11	角筒	胴部	橙	褐灰	○	○	良	条痕	ケズリ					
	503	IV	I-26	角筒	胴部	橙	にふい褐	○	○	良	条痕	ケズリ					
	504	IV	I-26	角筒	胴部	明赤褐	明褐	○	○	良	条痕	ケズリ後ナデ					
第56図	505	カラクン	F-11	角筒	胴部	にふい褐	にふい褐	○	○	良	条痕	ケズリ後ナデ					
	506	III a	F-10	角筒	胴部	灰黄褐	灰黄褐	○	○	良	条痕	ケズリ後ナデ					

第14表 繩文時代土器観察表(2)

擇団 番号	遺物 番号	出土場所	器種	部位	色調				胎土		焼成	調整		備考
					外面	内面	石英	長石	陶石	その他		外面	内面	
第56図	507	カクラン	-	角筒	胴部	褐色	にふい黄	○	○		良	条痕	ケズリ	
	508	III a	F-10	角筒	胴部	灰黄	にふい黄	○	○		良	条痕	ケズリ	
	509	III a	F-11	角筒	胴部	黒褐	にふい黄	○	○		良	条痕	ケズリ	
	510	III a	F-10	角筒	胴部	にふい黄	にふい黄	○	○		良	条痕	ケズリ	
	511	III a	F-10	角筒	胴部	黒褐	にふい黄	○	○		良	条痕	ケズリ	
	512	カクラン	J-27	角筒	底部	にふい黄	にふい黄	○	○	雲母	良	条痕	ナデ	
	513	III a	F-19	角筒	底部	にふい褐	明褐色	○	○		良	条痕	ナデ	
	514	I	H-17	角筒	底部	にふい黄	にふい黄	○	○	○	良	条痕	ナデ	
	515	カクラン	H-18	角筒	底部	にふい黄	にふい黄	○	○	○	良	条痕	ナデ	
	516	カクラン	H-18	角筒	底部	橙	橙	○	○	○	良	条痕	ケズリ後ナデ	
	517	III a	H-18	角筒	底部	にふい黄	にふい黄	○	○		良	条痕	ナデ	
	518	H-9	角筒	底部	にふい黄	にふい黄	○	○		良	条痕	ナデ		
	519	カクラン	G-8	角筒	底部	にふい黄	にふい黄	○	○		良	条痕	ナデ	
	520	III a	F-11	円筒	口縁部	灰黄褐	灰黄褐	○	○		良	条痕	ケズリ後ナデ	
	521	III b	J-26	円筒	口縁部	灰黄褐	褐	○	○	○	良	条痕	ケズリ後ナデ	
第57図	522	カクラン	F-9	円筒	胴部	明褐色	にふい黄	○	○	○	良	条痕	ナデ	
	523	III b	H-18	円筒	胴部	明褐色	にふい黄	○	○	○	良	条痕	ナデ	
	524	カクラン	H-18	円筒	胴部	にふい黄	黒褐	○	○	○	良	条痕	ケズリ後ナデ	
	525	カクラン	H-17	円筒	胴部	にふい褐	にふい黄	○	○	○	良	条痕	ナデ	
	526	III b	J-26	円筒	胴部	橙	にふい褐	○	○	○	良	条痕	ナデ	
	527	V	H-18	円筒	胴部	にふい褐	にふい黄	○	○	○	良	条痕	ナデ	
	528	III b	I-26	円筒	胴部	にふい黄	黒褐	○	○	○	良	条痕	ナデ	
	529	カクラン	I-18	円筒	胴部	にふい黄	にふい黄	○	○	○	良	条痕	ケズリ後ナデ	
	530	III b	H-17	円筒	口縁部	灰黄褐	黒褐	○	○	○	良	条痕	ナデ	
	531	V	I-26	深鉢	口縁部	にふい黄	にふい黄	○	○	○	良	山形押型文	ナデ	
	532	III a	F-11	深鉢	口縁部	にふい黄	にふい黄	○	○	○	良	山形押型文	ナデ	
	533	III a	F-10	深鉢	口縁部	にふい黄	灰黄褐	○	○	○	良	山形押型文	ケズリ後ナデ	
	534	V	I-26	深鉢	口縁部	褐色	褐色	○	○	○	良	山形押型文	山形押型文	
	535	IV	I-26	深鉢	胴部	にふい黄	にふい黄	○	○	○	良	山形押型文	ナデ	
第58図	536	IV	I-26	深鉢	胴部	にふい黄	褐色	○	○	○	良	山形押型文	ナデ	
	537	III a	F-10	深鉢	胴部	橙	黒褐	○	○	○	良	山形押型文	指頭ナデ	
	538	V	I-26	深鉢	胴部	にふい黄	黒褐	○	○	○	良	山形押型文	ナデ	
	539	III b	I-26	深鉢	胴部	褐色	にふい黄	○	○	○	良	山形押型文	ナデ	
	540	カクラン	I-26	深鉢	胴部	褐色	にふい黄	○	○	○	良	山形押型文	ケズリ後ナデ	
	541	V	I-26	深鉢	胴部	褐色	にふい黄	○	○	○	良	山形押型文	指頭ナデ	
	542	III a	H-25	深鉢	胴部	にふい黄	にふい黄	○	○	○	良	山形押型文	指頭ナデ	
	543	V	I-26	深鉢	胴部	にふい黄	褐色	○	○	○	良	山形押型文	ナデ	
	544	IV	I-25	深鉢	胴部	にふい黄	にふい黄	○	○	○	良	山形押型文	ナデ	
	545	V	I-26	深鉢	胴部	にふい黄	黒褐	○	○	○	良	山形押型文	ナデ	
	546	IV	I-25	深鉢	胴部	にふい黄	褐色	○	○	○	良	山形押型文	ナデ	
	547	V	I-26	深鉢	胴部	褐色	にふい黄	○	○	○	良	山形押型文	ナデ	
	548	III a	I-25	深鉢	胴部	褐色	にふい黄	○	○	○	良	山形押型文	指頭ナデ	
	549	V	I-25	深鉢	胴部	褐色	にふい黄	○	○	○	良	山形押型文	指頭ナデ	
	550	IV	I-25	深鉢	胴部	褐色	にふい黄	○	○	○	良	山形押型文	ケズリ後ナデ	
第59図	551	IV	I-26	深鉢	胴部	にふい黄	にふい黄	○	○	○	良	山形押型文	ケズリ後ナデ	
	552	IV	I-26	深鉢	胴部	にふい黄	褐色	○	○	○	良	山形押型文	指頭ナデ	
	553	III a	I-26	深鉢	胴部	にふい黄	にふい黄	○	○	○	良	山形押型文	ケズリ後ナデ	
	554	III b	I-26	深鉢	胴部	褐色	にふい黄	○	○	○	良	山形押型文	ケズリ後ナデ	
	555	III b	I-26	深鉢	胴部	黒褐	にふい黄	○	○	○	良	山形押型文	ケズリ後ナデ	
	556	V	I-26	深鉢	胴部	褐色	褐色	○	○	○	良	山形押型文	ナデ	
	557	V	I-25	深鉢	胴部	にふい黄	にふい黄	○	○	○	良	山形押型文	ナデ	
	558	IV	I-25	深鉢	胴部	にふい黄	にふい黄	○	○	○	良	山形押型文	ナデ	
	559	カクラン	I-24	深鉢	胴部	にふい黄	にふい黄	○	○	○	良	山形文と椎円文	指頭ナデ	
	560	III b	I-26	深鉢	胴部	にふい黄	にふい黄	○	○	○	良	椎円文	ナデ	
	561	IV	I-25	深鉢	胴部	にふい黄	にふい黄	○	○	○	良	椎円文	ケズリ後ナデ	
	562	III a	I-26	深鉢	胴部	にふい黄	にふい黄	○	○	○	良	山形文	ケズリ後ナデ	
	563	III b	I-26	深鉢	胴部	にふい黄	にふい黄	○	○	○	良	山形文	ナデ	
	564	IV	I-26	深鉢	胴部	にふい黄	にふい黄	○	○	○	良	山形文	ナデ	

第15表 繩文時代土器観察表(3)

擇団 番号	遺物 番号	歴・調	出土区	器種	部位	色調				胎土	焼成	調整				備考
						外面	内面	石英	長石	陶石		外面	内面			
第60 団	565	IV	J-26	深鉢	口縁部	にぬい黄褐	褐灰	○	○	○	良	条継押型文	ナデ			
	566	IV	J-26	深鉢	口縁部	にぬい黄褐	褐灰	○	○	○	良	条継押型文	ナデ			
	567	IV	J-26	深鉢	口縁部	にぬい黄褐	褐灰	○	○	○	良	条継押型文	ナデ			
	568	IV	J-26	深鉢	口縁部	にぬい黄褐	にぬい黄褐	○	○	○	良	条継押型文	ケズリ後ナデ			
	569	IV	J-26	深鉢	胴部	にぬい黄褐	にぬい黄褐	○	○	○	良	条継押型文	ケズリ後ナデ			
	570	IV	J-26	深鉢	胴部	にぬい黄褐	にぬい黄褐	○	○	○	良	条継押型文	ナデ			
	571	IV	J-26	深鉢	胴部	にぬい黄褐	にぬい黄褐	○	○	○	良	条継押型文	ナデ			
第61 団	572	IV	J-26	深鉢	胴部	にぬい黄褐	にぬい黄褐	○	○	○	良	条継押型文	ナデ			
	573	IV	J-26	深鉢	胴部	にぬい黄褐	にぬい黄褐	○	○	○	良	条継押型文	ケズリ後ナデ			
	574	IV	J-26	深鉢	胴部	にぬい黄褐	にぬい黄褐	○	○	○	良	条継押型文	ナデ			
	575	IV	J-26	深鉢	胴部	にぬい黄褐	にぬい黄褐	○	○	○	良	条継押型文	指頭ナデ			
	576	IV	J-26	深鉢	胴部	にぬい黄褐	にぬい黄褐	○	○	○	良	条継押型文	ケズリ後ナデ			
第62 団	577	IIIa	J-27	深鉢	胴部	にぬい黄褐	にぬい黄褐	○	○	○	良	条継押型文	ナデ			
	578	IIIa	J-27	深鉢	胴部	にぬい黄褐	にぬい黄褐	○	○	○	良	条継押型文	ナデ			
	579	IV	J-26	深鉢	胴部	にぬい黄褐	にぬい黄褐	○	○	○	良	条継押型文	ナデ			
	580	IV	J-26	深鉢	底部	にぬい黄褐	にぬい黄褐	○	○	○	良	条継押型文	指頭ナデ			
	582	IIIa	I-25	深鉢	口縁部	にぬい黄褐	にぬい黄褐	○	○	○	良	沈継	丁寧なナデ			
第63 団	581	IV	I-26	深鉢	口縁部-側面	明褐	黄褐	○	○	○	良	押型文	ナデ	口径21.7cm		
	583	IV	I-25	深鉢	口縁部	にぬい黄褐	黄褐	○	○	○	良	沈継	ナデ	口径30.0cm		
	584	IIIa	I-25	深鉢	口縁部	にぬい黄褐	黄褐	○	○	○	良	沈継	ナデ			
	585	カクラン	I-25	深鉢	口縁部	にぬい黄褐	黄褐	○	○	○	良	沈継	ナデ			
	586	V	I-25	深鉢	口縁部	にぬい黄褐	黄褐	○	○	○	良	沈継	ナデ			
第64 団	587	IV	H-25	深鉢	胴部	明褐	黒褐	○	○	○	良	網目捺糸文	ナデ			
	588	IIIa	H-25	深鉢	胴部	明褐	黒褐	○	○	○	良	網目捺糸文	ナデ			
	589	IV	H-25	深鉢	胴部	明褐	黒褐	○	○	○	良	沈継	ナデ			
	590	IV	H-25	深鉢	胴部	にぬい褐	にぬい褐	○	○	○	良	網目捺糸文	ナデ			
	591	カクラン	H-25	深鉢	口縁部	にぬい黄褐	にぬい黄褐	○	○	○	良	沈継	ナデ			
第65 団	592	IIIa	F-10	深鉢	口縁部	にぬい黄褐	明赤褐	○	○	○	良	捺糸文	ナデ			
	593	IIIa	H-26	深鉢	口縁部	にぬい黄褐	明赤褐	○	○	○	良	捺糸文	ナデ			
	594	IIIa	F-10	深鉢	口縁部	にぬい黄褐	明赤褐	○	○	○	良	捺糸文	ナデ			
	595	IIIa	H-26	深鉢	口縁部	にぬい黄褐	明赤褐	○	○	○	良	捺糸文	ナデ			
	596	IIIa	H-26	深鉢	口縁部	にぬい黄褐	明赤褐	○	○	○	良	捺糸文	ナデ			
第66 団	597	IV	I-25	深鉢	胴部	にぬい黄褐	にぬい黄褐	○	○	○	良	捺糸文	ナデ			
	598	IIb	I-25	深鉢	胴部	にぬい黄褐	にぬい黄褐	○	○	○	良	捺糸文	ナデ			
	599	IV	I-25	深鉢	胴部	にぬい黄褐	明赤褐	○	○	○	良	捺糸文	ナデ			
	600	IIIa	I-25	深鉢	胴部	にぬい黄褐	明赤褐	○	○	○	良	捺糸文	ナデ			
	601	IIIa	I-24	深鉢	胴部	にぬい黄褐	明赤褐	○	○	○	良	捺糸・連点	条痕			
第67 団	602	IIIb	I-20	深鉢	口縁部	にぬい黄褐	明赤褐	○	○	○	良	捺糸・連点	条痕			
	603	IIIa	F-10-11	深鉢	胴部	にぬい黄褐	明赤褐	○	○	○	良	連点	ナデ			
	604	IIIb	I-24	深鉢	胴部	にぬい黄褐	明赤褐	○	○	○	良	連点	条痕			
	605	IIIa	F-10	深鉢	胴部	にぬい黄褐	明赤褐	○	○	○	良	連点	ナデ			
	606	IIIa	F-11	深鉢	胴部	にぬい黄褐	明赤褐	○	○	○	良	連点	ナデ			
第68 団	611	カクラン	F-11	深鉢	胴部	にぬい黄褐	明赤褐	○	○	○	良	連点	ナデ			
	612	P-2	H-26	深鉢	胴部	にぬい黄褐	明赤褐	○	○	○	良	微隆帯	ナデ	ケズリ		
	613	-	I-27	深鉢	口縁部	にぬい黄褐	明赤褐	○	○	○	良	微隆帯	ケズリ			
	614	IIIb	I-25	深鉢	胴部	にぬい黄褐	明赤褐	○	○	○	良	沈継・刺文	ナデ			
	615	IIIa	I-25	深鉢	胴部	にぬい黄褐	明赤褐	○	○	○	良	微隆帯	ナデ			
第69 団	616	II	G-20	深鉢	胴部	にぬい黄褐	黄褐	○	○	○	良	沈継	ナデ			
	617	I	H-26	深鉢	胴部	にぬい黄褐	にぬい黄褐	○	○	○	良	沈継	ナデ			
	618	IIIb	I-25	深鉢	胴部	にぬい黄褐	褐灰	○	○	○	良	微隆・工字ナデ	ケズリ			
	619	IIIb	J-26	深鉢	口縁部	にぬい黄褐	褐灰	○	○	○	良	微隆帶	ナデ			
	620	IIIb	I-26	深鉢	胴部	にぬい黄褐	褐灰	○	○	○	良	微隆帶	ナデ・ケズリ			
	621	IIIb	I-25	深鉢	胴部	にぬい黄褐	褐灰	○	○	○	良	微隆帶	ナデ・ケズリ			
	622	IIIa	I-25	深鉢	胴部	にぬい黄褐	褐灰	○	○	○	良	微隆帶	工字ナデ・ケズリ			
	623	IIIa	I-25	深鉢	胴部	にぬい黄褐	褐灰	○	○	○	良	微隆帶	ナデ			
	624	IIIb	I-25	深鉢	胴部	にぬい黄褐	褐灰	○	○	○	良	ナデ	ナデ・ケズリ			
	625	IIIa	I-25	深鉢	胴部	にぬい黄褐	褐灰	○	○	○	良	ナデ	沈継	ケズリ		
	626	IIIa	F-11	深鉢	胴部	にぬい黄褐	褐灰	○	○	○	良	条痕	ナデ			

第16表 繩文時代土器観察表(4)

擇図 番号	遺物 番号	點数・調	出土区	器種	部位	色調				胎土		焼成	調整			備考
						外面	内面	石英	長石	陶石	その他		外面	内面		
第68図	627	III b	I-25	深鉢	胴部	褐灰	にふい黄褐	○	○	○	○	良	圓筒帯・沈底	ケズリ		
	628	III b	J-25	深鉢	胴部	褐灰	にふい黄褐	○	○			良	圓筒帯・沈底	ケズリ		
	629	III b	I-26	深鉢	胴部	褐灰	褐灰	○	○			良	相交弧文	ナデ		
	630	III b	I-26	深鉢	胴部	褐灰	褐灰	○	○			良	相交弧文	ナデ		
	631	III b	I-26	深鉢	胴部	褐灰	褐灰	○	○			良	押引文	条痕・ナデ		
	632	IV	I-26	深鉢	胴部	褐灰	褐灰	○	○			良	相交弧文	ナデ		
	633	-	G-10	深鉢	胴部	褐灰	褐灰	○	○	○		良	押引文?	ケズリ・無ナデ		
	634	III a	F-11	深鉢	胴部	褐灰	にふい赤褐	○	○	○		良	二段状斜文突	ナデ		
	635	III a	F-10	深鉢	口縁部	褐灰	褐灰	○	○			良	二段状斜文突	ナデ		
	636	III a	F-10	深鉢	口縁部	褐灰	褐灰	○	○			良	縦文	ナデ		
	637	III a	-	深鉢	胴部	にふい赤褐	にふい赤褐	○	○	○		良	二段状斜文突	ナデ		
第69図	638	III a	G-10	深鉢	胴部	褐灰	褐灰	○	○			青母	縦文	ナデ		
	639	-	F-10	深鉢	胴部	褐灰	褐灰	○	○			青母	縦文	ナデ		
	640	-	-	深鉢	口縁部	にふい褐	にふい褐	○				良	ナデ	ナデ		
	641	III a	F-11	深鉢	口縁部	明褐	明褐	○	○			良	ナデ	ナデ		
	642	III a	F-19	深鉢	口縁部	褐	褐	○	○			良	ナデ	ナデ		
	643	III a	F-19	深鉢	口縁部	褐	褐	○	○			良	ナデ	ナデ		
	644	IV a	F-11	深鉢	口縁部	暗褐	暗褐	○	○			良	ケズリ後ナデ	条痕		
	645	III a	F-10	深鉢	口縁部	暗褐	褐	○	○			良	ケズリ	ケズリ・無ナデ		
	646	III a	F-10	深鉢	口縁部	黑褐	明褐	○	○			良	ナデ	条痕後ナデ		
	647	III a	F-10	深鉢	口縁部	にふい褐	にふい褐	○				良	ナデ	ナデ		
	648	III a	F-10	深鉢	口縁部	褐	褐	○	○			良	ナデ	ナデ		
	649	III a	F-11	深鉢	口縁部	褐	褐	○	○			良	ナデ	ミガキ		
第70図	650	III a	F-11	深鉢	口縁部	明褐	明褐	○	○			良	ケズリ後ナデ	条痕		
	651	III a	I-26	深鉢	口縁部	明褐	明褐	○	○			良	ナデ	ケズリ後ナデ	口径34.6cm	
	652	III a	I-26	深鉢	口縁部	明褐	にふい黄褐	○	○			良	ナデ・ケズリ	ナデ		
	653	-	-	深鉢	口縁部	黑褐	褐	○	○			良	ケズリ後ナデ	条痕後ナデ		
	654	III a	G-9	深鉢	口縁部	褐	褐	○	○			良	ナデ	ナデ		
第71図	655	III a	F-10	深鉢	口縁部	褐	褐	○	○			良	ナデ	ケズリ後ナデ	口径28.2cm	
	656	I	F-10	深鉢	口縁部	褐	褐	○	○			良	ナデ	ナデ		
	657	表模	-	深鉢	口縁部	明褐	黄褐	○	○			良	ナデ	ナデ		
	658	III a	F-11	深鉢	口縁部	暗褐	褐	○	○			良	ナデ・ケズリ	条痕後ナデ		
	659	-	F-10	深鉢	口縁部	暗褐	褐	○	○			良	ナデ・ケズリ	ナデ		
第73図	660	III a	G-12	深鉢	口縁部	暗褐	褐	○	○			良	ナデ	粗なナデ		
	661	III a	G-9	深鉢	口縁部	赤褐	赤褐	○	○			良	ナデ・ケズリ	ケズリ後ナデ		
	662	-	-	深鉢	口縁部	暗褐	褐	○	○			良	ナデ・ケズリ	ナデ		
	663	III a	G-10	深鉢	胴部	にふい黄褐	にふい黄褐	○	○			良	ナデ・ケズリ	ナデ		
	664	III a	F-9	深鉢	口縁部	暗褐	褐	○	○			良	ナデ	粗なミガキ		
第74図	665	II	F-10	深鉢	口縁部	明褐	褐	○	○			良	ナデ	ミガキ・ナデ		
	666	III a	G-10	深鉢	口縁部	黒褐	褐	○	○			良	ナデ	ミガキ・ナデ		
	667	III a	G-7	深鉢	胴部	明褐	褐	○	○			良	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ		
	668	カクラン	G-8	深鉢	口縁部	暗褐	明褐	○	○			良	ナデ	ミガキ		
	669	III a	F-10	深鉢	口縁部	明褐	明褐	○	○			良	ミガキ	ナデ		
第76図	670	III a	F-11	深鉢	口縁部	明赤褐	明赤褐	○	○			良	ナデ・ケズリ	ケズリ後ナデ		
	671	-	G-10	深鉢	口縁部	明褐	にふい褐	○	○			良	ナデ	ナデ		
	672	III a	G-10	深鉢	口縁部	明赤褐	明赤褐	○	○			良	ナデ	ナデ		
	673	III a	G-12	深鉢	胴部	暗褐	にふい褐	○	○			良	ナデ・ミガキ	ミガキ		
	674	III a	G-9	深鉢	口縁部	明黄褐	にふい黄褐	○	○			良	ナデ	ナデ		
第77図	675	III a	H-9	深鉢	口縁部	明赤褐	明褐	○	○			良	ナデ・ミガキ	ナデ		
	676	カクラン	F-10	深鉢	口縁部	明褐	褐	○	○			良	ナデ	ミガキ・ナデ		
	677	-	F-9	深鉢	口縁部	明黄褐	褐	○	○			良	ナデ	ミガキ・ナデ		
	678	III a	G-10	深鉢	口縁部	明黄褐	明黄褐	○	○			良	ナデ	ナデ		
	679	III a	F-10	深鉢	口縁部	褐	明黄褐	○	○			良	ナデ・ケズリ	ケズリ後ナデ	口径29.5cm	
第78図	680	III a	F-10・11	深鉢	口縁部	明赤褐	明褐	○	○			良	ナデ・ミガキ	ミガキ		
	681	III a	F-10	深鉢	胴部	明褐	褐	○	○			良	ナデ	ナデ		
	682	III a	F-11	深鉢	口縁部	明赤褐	明赤褐	○	○			良	ナデ	ナデ		
	683	III a	-	深鉢	口縁部	にふい赤褐	赤褐	○	○			良	ナデ・ミガキ	ナデ		
	684	I	-	深鉢	口縁部	暗赤褐	褐	○	○			良	ナデ	ナデ		

第17表 繩文時代土器観察表(5)

擇団 番号	遺物 番号	點数・調	出土区	器種	部位	色調				焼成	調整		備考
						外面	内面	石英	長石		外面	内面	
第78団	685	IIIa	F-11	深鉢	口縁部	明褐色	褐色	○	○	良	ナデ	ナデ	
	686	IIIa	G-8	深鉢	口縁部	明褐色	明褐色	○	○	良	ナデ	ナデ	
	687	-	F-10	深鉢	口縁部	明褐色	明褐色	○	○	良	ミガキ・ナデ	ナデ	
	688	表探	-	深鉢	口縁部	明赤褐色	明赤褐色	○		良	ナデ	ナデ	
第79団	689	IIIa	G-9	深鉢	口縁部	明赤褐色	明赤褐色	○		良	ナデ	ケズリ後ナデ	
	690	IIIa	H-9	深鉢	胴部	にぶい褐色	褐色	○		良	ケズリ	柔軟後ナデ	
	691	IIIa	F-11	深鉢	口縁部	褐色	明褐色	○		良	ナデ	ナデ	
	692	II	F-10	深鉢	口縁部	褐色	褐色	○	○	良	ナデ	ナデ	
第80団	693	-	-	深鉢	口縁部	黒褐色	明褐色	○	○	良	ナデ・ミガキ	ナデ	
	694	表探	-	深鉢	口縁部	明褐色	明褐色	○	○	良	ケズリ	ケズリ後ナデ	
	695	IIIa	G-9	深鉢	口縁部	明褐色	褐色	○	○	良	ケズリ	ケズリ後ナデ	
	696	IIIa	G-11	深鉢	口縁部	明褐色	褐色	○	○	良	ケズリ後ナデ	ナデ	
第81団	697	-	-	深鉢	口縁部	褐色	にぶい黄褐色	○	○	良	ケズリ後ナデ	ナデ	
	698	表探	H-18	深鉢	口縁部	明褐色	暗褐色	○	○	良	ナデ	ナデ	
	699	IIIa	G-12	深鉢	口縁部	明褐色	明褐色	○	○	良	ナデ	ナデ	
	700	IIIa	F-11	深鉢	口縁部	褐色	褐色	○	○	良	条痕	条痕	
第82団	701	-	G-10	深鉢	口縁部	黒褐色	明褐色	○	○	良	条痕後ナデ	条痕	
	702	IIIa	F-11	深鉢	口縁部	褐色	暗褐色	○	○	良	ケズリ後ナデ	ナデ	
	703	IIIa	G-9	深鉢	口縁部	暗褐色	褐色	○	○	良	ナデ	ナデ	
	704	IIIa	F-11	深鉢	口縁部	にぶい黄褐色	黄褐色	○	○	良	ナデ	柔軟後ナデ	
第83団	705	IVa	F-11	深鉢	口縁部	褐色	暗褐色	○	○	良	柔軟後ナデ	柔軟後ナデ	
	706	III	G-10	深鉢	口縁部	明褐色	明褐色	○	○	良	ナデ	ナデ	
	707	I	H-9	深鉢	口縁部	暗褐色	褐色	○	○	良	柔軟後ナデ	ナデ	
	708	III	-	深鉢	口縁部	明褐色	暗褐色	○	○	良	柔軟後ナデ	ナデ	
第84団	709	-	-	深鉢	口縁部	暗褐色	褐色	○	○	良	柔軟後ナデ	ナデ	
	710	IIIa	H-18	深鉢	口縁部	明褐色	褐色	○	○	良	ナデ	ケズリ後ナデ	
	711	IIIa	F-11	深鉢	口縁部	明褐色	暗褐色	○	○	良	柔軟後ナデ	ケズリ後ナデ	
	712	-	D-13	深鉢	口縁部	暗褐色	褐色	○	○	良	ナデ	ナデ	
第85団	713	I	F-12	深鉢	口縁部	明褐色	明褐色	○	○	良	柔軟後ナデ	ナデ	
	714	IIIa	F-11	深鉢	胴部	暗褐色	褐色	○	○	良	ナデ	ナデ	
	715	I	E-13	深鉢	口縁部	明褐色	褐色	○	○	良	ナデ	ケズリ後ナデ	口径19.5cm
	716	IIIa	F-11	深鉢	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	良	ナデ	柔軟後ナデ	
第86団	717	IIIa	F-9	深鉢	口縁部	暗褐色	褐色	○	○	良	柔軟後ナデ	ナデ	
	718	III	G-12	深鉢	口縁部	褐色	黄褐色	○	○	良	ナデ	ナデ	
	719	-	-	深鉢	口縁部	褐色	褐色	○	○	良	ナデ	ナデ	
	720	-	-	深鉢	口縁部	明黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	良	ナデ	ナデ	
第87団	721	III	G-8	深鉢	口縁部	にぶい黄褐色	黄褐色	○	○	良	ナデ	ナデ	
	722	III	G-10	深鉢	口縁部	褐色	暗褐色	○	○	良	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	口径20.8cm
	723	IIIa	G-10	深鉢	口縁部	暗褐色	褐色	○	○	良	柔軟後ナデ	柔軟後ナデ	
	724	IIIa	G-9	深鉢	口縁部	暗褐色	明褐色	○	○	良	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	
第88団	725	-	-	深鉢	口縁部	明褐色	明褐色	○	○	良	ケズリ後ナデ	ナデ	
	726	IIIa	F-11	深鉢	口縁部	暗褐色	褐色	○	○	良	ケズリ後ナデ	ナデ	
	727	-	H-8・9	深鉢	口縁部	灰褐色	明褐色	○	○	良	ナデ	柔軟後ナデ	
	728	IIIa	G-9	深鉢	口縁部	暗褐色	明褐色	○	○	良	ミガキ	ナデ	
第89団	729	IIIa	F-11	深鉢	口縁部	褐色	褐色	○	○	良	ナデ	柔軟後ナデ	
	730	IVa	F-11	深鉢	口縁部	灰褐色	黄褐色	○	○	良	ナデ	ナデ	
	731	IIIa	G-9	深鉢	胴部	明褐色	明褐色	○	○	良	ナデ	柔軟後ナデ	
	732	IIIa	G-10	深鉢	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	良	ナデ	ナデ	
第87団	733	I	F-12	深鉢	口縁部	明褐色	明褐色	○	○	良	柔軟後ナデ	柔軟	
	734	IIIa	F-11	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	良	条痕	柔軟後ナデ	
第88団	735	I	E-14	深鉢	口縁部	褐色	明褐色	○	○	良	ナデ	ナデ	
	736	IIIa	F-11	深鉢	定形	黒褐色	黒褐色	○		良	ケズリ	柔軟	口径15.5cm 高さ16.1cm 重量3kg
第87団	737	IIIa	G-11	深鉢	明褐色	褐色	褐色	○	○	良	ナデ	条痕	口径16.6cm
	738	IIIa	F-10	深鉢	口縁部	褐色	暗褐色	○	○	良	ケズリ後ナデ	柔軟後ナデ	口径23.6cm
第88団	739	IIIa	F-10	深鉢	口縁部	褐色	褐色	○	○	良	ケズリ後ナデ	柔軟後ナデ	口径21.4cm
	740	IIIa	F-11	深鉢	口縁部	褐色	褐色	○	○	良	ケズリ後ナデ	柔軟後ナデ	
第89団	741	IIIa	F-10	深鉢	胴部	暗褐色	褐色	○	○	良	不明	不明	
	742	IIIa	I-26	鉢	口縁部	黒褐色	暗褐色	○	○	良	ミガキ	ミガキ	

第18表 繩文時代土器観察表(6)

擇団 番号	遺物 番号	胎・調	出土区	器種	部位	色調				焼成	調整		備考
						外面	内面	石英	長石		外面	内面	
第89団	743	-	-	鉢	口縁部	褐	黃褐色	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	744	III a	G-9	鉢	口縁部	褐灰	褐灰	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ
	745	-	G-12	鉢	口縁部	暗褐	褐	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ
	746	III a	I-26	鉢	口縁部	明褐	暗褐	○	○	○	良	ナデ・ミガキ	ミガキ
	747	-	-	鉢	口縁部	明黄褐	明黄褐	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ・ナデ
	748	-	-	鉢	口縁部	黄褐	にひ・黄褐	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ
	749	IV a	F-G-10	鉢	口縁部	にひ・黄褐	にひ・黄褐	○	○	○	良	ミガキ	ナデ
第90団	750	-	D-13	鉢	口縁部	にひ・黄褐	にひ・黄褐	○	○	○	良	ナデ	ケズリ後ナデ
	751	III a	G-12	鉢	口縁部	褐	明褐	○	○	○	良	不明	ミガキ・ナデ
	752	III a	G-11	鉢	脚部	明褐	明褐	○	○	○	良	ミガキ・ナデ	ナデ
	753	III a	H-9	鉢	脚部	明褐	明褐	○	○	○	良	ミガキ	条痕
	754	I	F-10	鉢	口縁部	明褐	暗褐	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ
	755	III a	H-9	鉢	脚部	明褐	褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	756	III a	-	鉢	脚部	黑褐	褐	○	○	○	良	ナデ	条痕後ナデ
第91-92団	757	II	E-13	鉢	脚部	黑褐	黑褐	○	○	○	良	ミガキ・ナデ	ミガキ
	758	I	I-11	鉢	脚部	暗褐	褐	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ
	759	I	E-13	鉢	側面部-底部	茶褐	茶褐	○	○	○	良	ハラミガキ	ミガキ
	760	-	H-8-9	深鉢	底部	褐	褐	○	○	○	良	ミガキ・ナデ	ナデ
	761	III a	F-11	深鉢	底部	にひ・黄褐	暗褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	762	III a	G-9	深鉢	底部	にひ・黄褐	明赤褐	○	砂粒	良	ミガキ	ナデ	底径9.0cm
	763	III a	F-10	深鉢	底部	にひ・黄褐	にひ・黄褐	○	良	ナデ	ナデ	ナデ	底径12.4cm
第93団	764	-	H-10	深鉢	底部	にひ・黄褐	褐	○	○	○	良	ミガキ	ナデ
	765	III a	F-10	深鉢	底部	明褐	褐	○	○	○	良	ケズリ・ナデ	ケズリ・ナデ
	766	IV	I-26	深鉢	底部	暗褐	暗褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	767	-	G-10	深鉢	底部	灰灰褐	暗褐	○	○	○	良	ケズリ後ナデ	ナデ
	768	III a	G-11	深鉢	底部	にひ・黄褐	明褐	○	○	○	良	ケズリ	ナデ
	769	III a	G-9	深鉢	底部	明褐	暗褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	770	III a	G-11	深鉢	底部	にひ・黄褐	にひ・褐	○	○	○	良	条痕後ナデ	ナデ
第94団	771	表探	I-26	深鉢	底部	褐	褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	772	I	H-11	深鉢	底部	褐	褐	○	○	○	良	ケズリ	ケズリ後ナデ
	773	III a	F-10	深鉢	底部	にひ・褐	褐	○	○	○	良	ナデ	工具ナデ
	774	III a	G-9	深鉢	底部	明褐	暗褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	775	表探	-	深鉢	底部	にひ・褐	明褐	○	○	○	良	ケズリ後ナデ	ナデ
	776	III a	F-11	深鉢	底部	にひ・褐	褐	○	○	○	良	ナデ	網代底
	777	III a	F-11	深鉢	底部	暗褐	暗褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
第95団	778	III a	G-12	台付皿	皿	褐	明褐	○	○	○	良	ナデ後・ミガキ	ミガキ
	779	III a	G-11	台付皿	皿	明褐	明褐	○	○	○	良	ナデ	口徑18.4cm
	780	-	-	台付皿	皿	明褐	明褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	781	-	D-13	台付皿	皿	にひ・黄褐	褐	○	○	○	良	ナデ・ミガキ	ナデ
	782	III a	G-12	台付皿	皿	明褐	褐	○	○	○	良	ナデ	ケズリ後ナデ
	783	III a	G-12	台付皿	皿	明褐	褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	784	III	F-11	台付皿	皿	暗褐	褐	○	○	○	良	ケズリ後ナデ	ナデ
第96団	785	III a	H-9	台付皿	皿	暗褐	明褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	786	-	-	台付皿	皿	明褐	暗褐	○	○	○	良	ナデ	深跡の可能性有り
	787	I	I-12	台付皿	脚部	明褐	褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	788	III a	F-10	台付皿	脚部	褐	明褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	789	I	J-12	台付皿	脚部	褐	褐	○	○	○	良	ミガキ	ナデ
	790	III a	G-10	台付皿	脚部	褐	にひ・褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ・ケズリ
	791	III a	I-26	台付皿	脚部	褐	明褐	○	○	○	良	ナデ	瓶などミガキ
第97団	792	-	H-9	台付皿	脚部	褐	褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	793	III a	F-10	深鉢	口縁部	黒褐	にひ・黄褐	○	○	○	良	沈綻	ナデ
	794	III a	F-11	深鉢	口縁部	にひ・黄褐	褐	○	○	○	良	条痕	条痕後ナデ
	795	I	F-12	深鉢	口縁部	暗褐	にひ・黄褐	○	○	○	良	条痕	条痕後ナデ
	796	表探	-	深鉢	口縁部	にひ・黄褐	暗褐	○	○	○	良	沈綻	ミガキ
	797	III a	F-9	深鉢	口縁部	暗褐	にひ・黄褐	○	○	○	良	沈綻	ミガキ
	798	III a	G-10	深鉢	口縁部	にひ・黄褐	にひ・黄褐	○	○	○	良	条痕	ナデ
第98団	799	III a	G-10	深鉢	口縁部	にひ・黄褐	暗褐	○	○	○	良	条痕	条痕後ナデ
	800	6号信函	F-11	深鉢	脚部	暗褐	明黄褐	○	○	○	良	条痕後ナデ	ナデ
第99団	801	III a	G-10	深鉢	脚部	暗褐	明黄褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	802	III a	G-10	深鉢	脚部	暗褐	明黄褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	803	III a	G-10	深鉢	脚部	暗褐	明黄褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	804	III a	G-10	深鉢	脚部	暗褐	明黄褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	805	III a	G-10	深鉢	脚部	暗褐	明黄褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	806	III a	G-10	深鉢	脚部	暗褐	明黄褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	807	III a	G-10	深鉢	脚部	暗褐	明黄褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
第100団	808	III a	G-10	深鉢	脚部	暗褐	明黄褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	809	III a	G-10	深鉢	脚部	暗褐	明黄褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	810	III a	G-10	深鉢	脚部	暗褐	明黄褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	811	III a	G-10	深鉢	脚部	暗褐	明黄褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	812	III a	G-10	深鉢	脚部	暗褐	明黄褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	813	III a	G-10	深鉢	脚部	暗褐	明黄褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ
	814	III a	G-10	深鉢	脚部	暗褐	明黄褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ

第19表 繩文時代土器観察表(7)

擇団 番号	遺物 番号	點数・調	出土区	器種	部位	色調				胎土		焼成	調整				備考
						外面	内面	石英	長石	陶石	その他		外面	内面			
第100回	801 I	D-12	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ			
	802 III a	F-19	深鉢	胴部	褐	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	柔軟後ナデ	ケズリ後ナデ			
第101回	803 III a	F-11	深鉢	胴部	暗褐	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	柔軟後ナデ	柔軟後ナデ			
	804 III a	F-11	深鉢	胴部	暗褐	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	柔軟	柔軟後ナデ			
第102回	805 III a	F-10	深鉢	胴部	黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	柔軟後ナデ	粗な柔軟			
	806 III a	G-11	深鉢	口縁一部側面	暗褐	褐	○	○	○	○	○	良	柔軟・ケズリ	柔軟・ナデ	口径42.4cm		
第103回	807 III a	G-10	深鉢	口縁一部側面	黑褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	柔軟	柔軟後ミナキ			
	808 8号住居	G-11	深鉢	胴部	暗褐	褐	○	○	○	○	○	良	柔軟	柔軟			
第104回	809 III a	F-10	深鉢	胴部	黄褐色	暗褐	○	○	○	○	○	良	柔軟	ナデ			
	810 III a	F-11	深鉢	底部	暗褐	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	ケズリ	ケズリ			
第105回	811 カクラン	F-9	浅鉢	口縁部	黒褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ	口径31.0cm		
	812 III a	F-10	浅鉢	口縁部	黒褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ			
	813 -	H-9	浅鉢	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ			
	814 -	-	浅鉢	口縁部	褐色	暗灰	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ			
	815 1号住居	H-8	浅鉢	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ			
	816 カクラン	F-11	浅鉢	口縁部	黒褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ			
	817 II	F-11	浅鉢	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ			
	818 III a	F-11	浅鉢	口縁部	暗褐	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ			
	819 IV a	F-11	浅鉢	口縁部	暗褐	黒褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ			
	820 III a	F-10	浅鉢	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	ケズリ	ミガキ			
	821 III a	G-10	浅鉢	胴部	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ			
	822 I	G-9	浅鉢	胴部	にぶい黄褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ			
	823 III a	F-10	浅鉢	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ			
	824 III a	G-11	浅鉢	胴部	にぶい黄褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ			
第106回	825 6号住居	F-11	浅鉢	胴部	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ			
	826 III a	G-10	浅鉢	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ	口径18.0cm		
	827 III a	G-10	浅鉢	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ			
	828 III a	G-10	浅鉢	口縁部	褐色	暗灰	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ			
	829 5号住居	F-9	浅鉢	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ			
	830 III a	G-8	浅鉢	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ			
	831 III a	G-10	浅鉢	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ			
	832 III a	G-9	浅鉢	口縁部	黒	黒	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ			
	833 III a	G-11	浅鉢	口縁部	暗灰	黒褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ	口径30.0cm		
	834 I	F-8	浅鉢	口縁部	にぶい黄褐色	黄褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ	口径25.8cm		
第107回	835 I	F-12	浅鉢	胴部	黄褐色	黄褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ			
	836 III a	G-10	浅鉢	口縁部	暗灰	暗灰	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ	口径26.8cm		
	837 III a	G-10	浅鉢	口縁部	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ	口径32.4cm		
	838 III a	F-11	浅鉢	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ミガキ	口径32.4cm		
	839 -	H-8-9 めんこ	-	-	褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	良	柔軟後ナデ	ナデ			
	840 -	G-9 めんこ	-	-	黒褐色	にぶい褐	○	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ			
	841 -	H-8-9 めんこ	-	-	褐	暗褐	○	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ			
	842 -	H-11 めんこ	-	-	明褐	褐	○	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ			
	843 -	- めんこ	-	-	明褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ			
	844 -	- めんこ	-	-	にぶい黄褐色	暗褐	○	○	○	○	○	良	ナデ	柔軟後ナデ			
第108回	845 -	- めんこ	-	-	灰	暗褐	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ		
	846 III a	G-9 めんこ	-	-	明褐	明褐	○	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ			
	847 III a	G-9 めんこ	-	-	褐	明褐	○	○	○	○	○	良	ナデ	ケズリ後ナデ			
	848 I	H-11 めんこ	-	-	褐	褐	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ナデ			
	849 IV a	F-11 めんこ	-	-	暗褐	暗褐	○	○	○	○	○	良	粗なナデ	柔軟後ナデ			
	850 III a	G-12 めんこ	-	-	明褐	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ			
	851 III a	G-10 めんこ	-	-	褐	にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ			
	852 III a	F-10 めんこ	-	-	褐	褐	○	○	○	○	○	良	ミガキ	ナデ			
第109回	853 III b	J-16 めんこ	-	-	暗褐	褐	○	○	○	○	○	良	不明	ナデ			
	854 III a	I-26 めんこ	-	-	明褐	明褐	○	○	○	○	○	良	柔軟後ナデ	柔軟後ナデ			
	855 -	G-10 めんこ	-	-	褐	褐	○	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ			
	856 III a	H-11 めんこ	-	-	褐	褐	○	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ			

第20表 繩文時代石器観察表(1)

擇団 番号	遺物 番号	器種	出土区	層位・遺構	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第49 國	447	-	J-26	ob集積	黒曜石(上牛鼻)	3.0	5.7	3.0	57.08	
	448	-	J-26	ob集積	黒曜石(上牛鼻)	4.5	4.6	3.2	73.43	
	449	スクレイパー	J-26	IIIb	黒曜石(日東)	6.6	8.5	2.8	150.00	
第66 國	601	石鏃	I-26	V	安山岩	2.9	2.0	0.6	3.07	
	602	スクレイパー	H-25	IV	鉄石英	6.7	5.6	1.0	43.55	
	603	磨石	I-26	IV	砂岩	5.5	4.5	2.3	77.84	
	604	磨石	J-20	V	砂岩	4.5	3.4	2.5	49.22	
	857	石鏃	J-26	IIIb	頁岩	2.1	1.2	0.5	1.24	
	858	石鏃	H-26	IIIb	安山岩	1.9	1.9	0.4	0.97	
第109 國	859	石鏃	F-12	IIIa	安山岩	2.3	2.0	0.4	1.55	
	860	石鏃	H-18	IIIa	頁岩	2.0	1.9	0.4	0.94	
	861	石匙	I-26	IIIa	鉄石英	2.4	4.2	0.8	6.38	
	862	石匙	H-25	IIIb	頁岩	2.9	5.5	1.0	14.07	
	863	石匙	I-26	IIIa	鉄石英	3.1	5.2	0.6	9.40	
	864	調整剥片	I-26	IIIb	黒曜石(上牛鼻)	5.2	2.6	1.4	20.77	
	865	石匙	J-26	IIIb	安山岩	4.4	2.4	0.7	6.94	
	866	使用痕剥片	-	-	めのう	3.9	3.1	0.7	8.75	
	867	スクレイパー	-	-	チャート	4.2	2.7	0.8	9.95	
第111 國	868	磨製石斧	D-13	I	砂岩	7.0	6.1	3.1	212.26	
	869	磨製石斧	H-26	III	安山岩	10.9	7.3	3.4	404.63	
	870	打製石斧	E-14	I	砂岩	(7.7)	(5.8)	(2.0)	114.76	
	871	打製石斧	F-9	IIIa	頁岩	10.6	5.9	2.3	184.99	
	872	磨製石斧	F-8	II	砂岩	13.9	4.3	1.8	149.15	
第112 國	873	磨製石斧	D-13	I	砂岩	(9.5)	5.2	4.0	340.77	
	874	磨製石斧	J-26	IIIb	硬質頁岩	7.4	6.9	3.9	271.06	
	875	磨製石斧	F-10	IIIa	蛇紋岩	4.3	6.6	1.5	62.71	
	876	磨製石斧	G-9	IIIa	砂岩	7.4	7.2	3.8	220.15	
	877	磨製石斧	H-8	IIIa	砂岩	8.1	7.1	3.2	290.75	
第113 國	878	磨製石斧	I-25	IIIa	頁岩	15.4	6.8	3.6	448.00	
	879	磨製石斧	G-10	IIIa	砂岩	11.7	5.9	2.3	274.66	
	880	磨製石斧	G-9	IIIa	頁岩	11.3	7.3	2.9	360.00	
	881	磨製石斧	H-9	IIIa	頁岩	7.4	4.7	3.0	160.01	
	882	磨製石斧	F-9	IIIa	頁岩	9.4	5.4	3.3	230.73	
第114 國	883	磨製石斧	G-10	IIIa	頁岩	12.8	6.3	3.1	271.76	
	884	磨石	F-10	IIIa	砂岩	6.0	4.0	1.2	42.91	
	885	磨石	F-10	IIIa	砂岩	6.9	3.5	1.3	53.00	
	886	磨石	F-10	IIIa	砂岩	7.3	5.1	2.2	118.74	
	887	磨石	G-9	IIIa	安山岩	7.8	5.7	3.6	243.17	
第115 國	888	磨石	F-11	IIIa	砂岩	8.0	6.3	3.6	306.97	
	889	磨石	H-10	IIIa	砂岩	7.4	5.0	3.9	230.54	
	890	磨石	G-8	III	砂岩	9.1	4.5	2.9	157.65	
	891	磨石	F-11	IIIa	砂岩	9.0	5.6	1.8	137.40	
	892	磨石	G-9	IIIa	頁岩	3.2	3.0	2.5	34.27	
	893	磨石	F-11	IIIa	砂岩	5.1	4.6	1.6	58.97	
	894	磨石	H-10	IIIa	砂岩	4.1	4.0	1.8	40.18	
	895	磨石	I-25	IIIa	砂岩	6.1	5.4	3.4	148.29	
	896	磨石	H-11	IIIa	砂岩	5.1	4.8	1.6	57.52	
	897	磨石	G-10	IIIa	安山岩	6.1	5.7	3.8	193.93	
	898	磨石	F-11	IIIa	砂岩	5.4	5.2	2.6	114.46	
	899	磨石	F-11	IIIa	砂岩	5.9	5.5	4.7	209.39	

第21表 繩文時代石器観察表(2)

擲出番号	遺物番号	器種	出土区	層位・遺構	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第115回	900	磨石	G-9	III a	砂岩	5.5	4.8	4.4	163.16	
	901	磨石	F-11	III a	砂岩	5.7	5.2	2.2	96.82	
	902	磨石	G-11	III a	砂岩	(6.5)	6.5	3.4	210.92	
	903	磨石	G-8	III a	砂岩	10.1	5.0	2.8	271.75	
	904	磨石	H-25	III a	砂岩	10.8	8.3	4.4	600.00	
	905	磨石	-	III a	砂岩	10.7	4.7	2.3	167.60	
	906	磨石	F-10-11	III a	砂岩	13.0	8.0	3.7	605.00	
第116回	907	磨石	F-11	III a	安山岩	10.4	7.4	3.3	390.00	
	908	磨石	G-8	III a	砂岩	9.8	8.6	5.9	720.00	
	909	磨石	F-6	III a	安山岩	10.5	8.0	6.6	760.00	
	910	磨石	-	III a	砂岩	11.9	(4.0)	4.6	327.08	
	911	磨石	I-25	III b	安山岩	11.5	7.4	4.6	580.00	
	912	磨石	G-11	III a	砂岩	12.0	8.6	3.1	550.00	
	913	磨石	O-27	III a	砂岩	9.7	9.0	2.9	380.00	
第117回	914	磨石	G-27	III a	安山岩	9.8	8.8	4.1	510.00	
	915	磨石	F-10	III a	安山岩	10.1	7.3	4.2	530.00	
	916	投彈	I-26	III	安山岩	13.5	11.7	7.1	1495.00	
	917	磨石	F-10	III a	安山岩	16.0	11.0	6.1	1710.00	
	918	磨石	H-8	III a	砂岩	14.9	8.6	7.7	1380.00	
	919	磨石	F-10	III a	砂岩	13.2	11.2	5.6	1220.00	
	920	磨石	F-8	III a	安山岩	11.1	7.1	4.9	540.00	
第118回	921	磨石	-	III a	砂岩	9.7	3.3	2.9	171.25	
	922	磨石	H-9	III a	砂岩	11.2	6.1	3.0	272.97	
	923	磨石	F-11	III a	安山岩	(6.2)	(5.4)	4.5	235.24	
	924	磨石	G-10	III a	砂岩	8.0	(4.1)	5.0	242.78	
	925	磨石	F-8	III a	砂岩	11.5	6.2	3.0	324.43	
	926	磨石(タタキ)	I-8	III a	安山岩	4.9	3.4	2.2	72.34	
	927	敲石	H-26	III a	石英	8.2	7.6	5.0	420.00	
第119回	928	磨石	G-10	III	砂岩	5.9	5.4	2.2	108.76	
	929	磨石(タタキ)	F-11	III a	砂岩	7.7	6.3	3.7	261.15	
	930	磨石	F-11	III a	安山岩	8.2	(5.5)	4.5	278.89	
	931	磨石(タタキ)	F-10	III a	砂岩	8.5	6.9	2.3	191.35	
	932	磨石(タタキ)	F-10	III a	砂岩	6.6	5.0	3.8	171.04	
	933	磨石(タタキ)	G-9	III a	砂岩	9.5	7.9	4.4	545.00	
	934	磨石(タタキ)	T-10	III a	砂岩	7.9	3.8	3.1	138.37	
第120回	935	磨石(タタキ)	F-11	III a	砂岩	11.9	4.4	2.8	253.84	
	936	磨石(タタキ)	G-12	III a	砂岩	13.0	4.8	4.0	333.97	
	937	磨石	I-25	III a	砂岩	11.3	6.9	3.2	350.00	
	938	磨石・凹石	G-11	III a	砂岩	9.4	7.4	3.4	340.04	
	939	磨石・凹石	H-26	III a	安山岩	8.7	7.8	4.3	460.00	
	940	磨石・凹石	G-12	III a	砂岩	8.9	10.4	4.1	540.00	
	941	磨石・凹石	F-11	III a	砂岩	9.9	8.4	4.5	560.00	
第121回	942	磨石・凹石	F-10	III a	砂岩	14.7	13.3	5.7	1675.00	
	943	磨石・凹石	J-26	III a	砂岩	8.0	9.4	5.5	610.00	
	944	磨石(タタキ)	H-8	III	砂岩	13.7	7.9	7.0	1240.00	
	945	石鍬	T-11	III a	安山岩	(4.7)	4.6	1.1	32.72	
	946	軽石加工品	G-10	III	軽石	4.6	4.5	1.8	10.35	
	947	軽石加工品	F-10	III a	軽石	9.6	9.1	3.0	68.92	中央に穿孔
	948	石皿	J-26	III b	安山岩	(23.2)	(17.8)	7.7	4000.00	
第122回	949	石皿	F-11	III a	安山岩	(17.2)	22.0	6.7	3600.00	

第22表 古墳時代破鏡観察表

擇団番号	遺物番号	層位・遺構	出土区	器種	部位	色調		最大長cm	最大幅cm	重量g	備考
						外面	内面				
第128団	950	1号住居	H-8	鏡	-	深緑	深緑	2.7	2.6	6.06	破鏡(穿孔)

第23表 古墳時代土器観察表(1)

擇団番号	遺物番号	層位・遺構	出土区	器種	部位	色調		胎土	焼成	調整		備考
						外面	内面			外面	内面	
第128団	951	1号住居	H-8	壺	口縁部-側面	橙	明黄褐	○	○	○	○	良 ケズリ・ナデ ハケ・指頭ナデ
	952	1号住居	H-8	壺	脚台	橙	橙	○	○	○	○	良 ハケ・ナデ ナデ
	953	1号住居	H-8	壺	脚台	明赤褐	橙	○	○	○	○	良 ハケ・ナデ ハケ・ナデ
第129団	954	2号住居	H-8	壺	脚台	黃橙	橙	○	○	○	○	良 ハケ ナデ
	955	2号住居	H-8	壺	脚台	黃橙	橙	○	○	○	○	良 ナデ ナデ
	956	2号住居	H-8	高坏	裾部	黃橙	橙	○	○	○	○	良 ケズリ後ナデ ナデ
	957	2号住居	H-8	手(付)器	完全形	明黄褐	明黄褐	○	○	○	○	良 ナデ・指頭ナデ ナデ・指頭ナデ
	958	2号住居	H-8	手(付)器	崩落-底部	橙	に赤い黄褐	○	○	○	○	良 ナデ 指頭ナデ
第131団	959	3号住居	G-9	壺	口縁部	浅黄	明黄褐	○	○	○	○	良 ハケ ハケ後ナデ
	960	3号住居	G-9	壺	口縁部	橙	橙	○	○	○	○	良 ハケ・ナデ ナデ
	961	3号住居	G-9	壺	口縁部	黒褐	橙	○	○	○	○	良 ハケ・ナデ ナデ
	962	3号住居	G-9	壺	口縁部	橙	赤褐	○	○	○	○	良 ハケ・ナデ ハケ・ナデ
	963	3号住居	G-9	壺	口縁部-側面	に赤い黄	灰	○	○	○	○	良 ハケ・ナデ ナデ
	964	3号住居	G-9	壺	口縁部	に赤い黒褐	橙	○	○	○	○	良 ハケ・ナデ ハケ後ナデ
	965	3号住居	G-9	壺	口縁部-側面	黒褐	明黄褐	○	○	○	○	良 ハケ・ナデ ハケ・ナデ
	966	3号住居	G-9	壺	口縁部-側面	橙	明赤褐	○	○	○	○	良 ハケ・ナデ ナデ・ハラケズリ
	967	3号住居	G-9	壺	口縁部-側面	橙	橙	○	○	○	○	良 ハケ・ナデ ミガキ・ハケ・ナデ
	968	3号住居	G-9	壺	脚台	橙	に赤い黄	○	○	○	○	良 ナデ・指頭ナデ ケズリ・指頭ナデ
	969	3号住居	G-9	壺	脚台	に赤い黄	に赤い黄	○	○	○	○	良 ハケ・ナデ ナデ・指頭ナデ
	970	3号住居	G-9	壺	脚台	明黄褐	黄褐	○	○	○	○	良 ナデ・指頭ナデ ナデ・指頭ナデ
	971	3号住居	G-9	壺	脚台	橙	オリーブ黒	○	○	○	○	良 ハケ・ナデ ナデ
第132団	972	3号住居	G-9	壺	脚台	橙	暗灰黄	○	○	○	○	良 ナデ ナデ
	973	3号住居	G-9	壺	崩落-底面	橙	黒褐	○	○	○	○	良 ハケ・ナデ ナデ・指頭ナデ
	974	3号住居	G-9	壺	底部	橙	橙	○	○	○	○	良 ナデ ナデ
	975	3号住居	G-9	手(付)器	崩落-底部	橙	橙	○	○	○	○	良 ナデ・指頭痕 ナデ・指頭痕
	976	3号住居	G-9	壺	胴部	浅黄	明黄褐	○	○	○	○	良 ミガキ・ナデ ケズリ・ナデ
	977	3号住居	G-9	壺	口縁部	橙	明黄褐	○	○	○	○	良 粗なハケ ナデ
第133団	978	4号住居	G-8	壺	口縁部	橙	浅黄橙	○	○	○	○	良 ハケ・ナデ ナデ
	979	4号住居	G-8	壺	口縁部	橙	橙	○	○	○	○	良 ケズリ後ナデ ケズリ後ナデ
	980	4号住居	G-8	壺	口縁部-側面	橙	橙	○	○	○	砂粒	良 ハケ ハラケズリ後ナデ
	981	4号住居	G-8	壺	口縁部-側面	明黄褐	に赤い黄	○	○	○	砂粒	良 ハケ ナデ
	982	4号住居	G-8	壺	脚台	橙	橙	○	○	○	○	良 ナデ ナデ
	983	4号住居	G-8	壺	脚台	に赤い黄	に赤い黄	○	○	○	○	良 ハケ・ナデ ハケ・指頭ナデ
	984	5号住居	F·G-9	壺	口縁部	橙	橙	○	○	○	○	良 ハケ・ナデ ナデ
第134団	985	5号住居	F·G-9	壺	口縁部	橙	明赤褐	○	○	○	○	良 ハケ ナデ
	986	5号住居	F·G-9	壺	口縁部	に赤い橙	に赤い黄褐	○	○	○	○	良 ハケ・ナデ ナデ
	987	5号住居	F·G-9	壺	口縁部	黃橙	橙	○	○	○	○	良 ハケ ハケ・ナデ
	988	5号住居	F·G-9	壺	口縁部-側面	明赤褐	橙	○	○	○	○	良 ハケ・ナデ
	989	5号住居	F·G-9	壺	口縁部-側面	橙	明赤褐	○	○	○	○	良 ケズリ後ナデ ナデ
第135団	990	5号住居	F·G-9	壺	口縁部-側面	明黄褐	明黄褐	○	○	○	○	良 ハケ・指頭ナデ ナデ・指頭ナデ
	991	5号住居	F·G-9	壺	脚台	明黄褐	に赤い黄	○	○	○	○	良 ハケ後ナデ ナデ
	992	5号住居	F·G-9	高坏	裾部	に赤い黄	浅黄橙	○	○	○	○	良 ナデ・ケズリ ハケ・ナデ
	993	5号住居	F·G-9	鉢?	底部	に赤い黄	明黄褐	○	○	○	○	良 ハケ・指頭ナデ ナデ・指頭ナデ

第24表 古墳時代土器観察表(2)

擇団 番号	遺物 番号	層位・遺構	出土区	器種	部位	色調				胎土	焼成	調整		備考
						外面	内面	石英	長石			外面	内面	
第137 団	994	6号住居	F-11	壺	口縁部	灰黄	黄褐	○	○		良	ハケ・ナデ	ナデ	
	995	6号住居	F-11	壺	口縁部	に赤黄	に赤黄	○	○		良	板ナデ・ナデ	ナデ	
	996	6号住居	F-11	壺	口縁部	橙	に赤黄	○	○		良	指頭ナデ	ハケ・指頭ナデ	
	997	6号住居	F-11	壺	肩部-腹部	橙	に赤黄	○	○		良	ハケ・ケズリ	ハケ・ナデ	
	998	6号住居	F-11	壺	脚台	明赤褐	橙	○	○		良	ナデ	ナデ	
	999	6号住居	F-11	高杯	裾部	に赤黄	に赤黄	○	○		良	ミガキ	ナデ	
	1000	6号住居	F-11	高杯	裾部	に赤黄	に赤黄	○	○		良	丁寧なグリ・ナデ	ハケ・ナデ	
第138 団	1001	7号住居	G-11	壺	口縁部	橙	明褐	○	○		良	ハケ・ナデ	ナデ	
	1002	7号住居	G-11	壺	口縁部	橙	に赤黄	○	○		良	ハケ・ナデ	ナデ	
	1003	7号住居	G-11	壺	肩部-腹部	黄褐	明褐	○	○		良	ハラケズリ・ナデ	ケズリ後ナデ	
	1004	7号住居	G-11	壺	脚台	に赤黄	に赤黄	○	○		良	ハケ・ナデ	ナデ・指頭ナデ	
第139 団	1005	8号住居	G-11	壺	肩部-腹部	に赤黄	に赤黄	○	○		良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	
	1006	8号住居	G-11	壺	胴部	に赤黄	に赤黄	○	○		良	粗なハケ	粗なハケ・ナデ	
	1007	8号住居	G-11	壺	脚台	褐灰	褐灰	○	○		良	ナデ・指頭ナデ	ナデ・指頭ナデ	
	1008	8号住居	G-11	壺	脚台	黄灰褐	に赤黄	○	○		良	ハケ後ナデ	ナデ・指頭ナデ	
	1009	8号住居	G-11	壺	脚台	に赤黄	に赤黄	○	○		良	ナデ	ナデ	
	1010	8号住居	G-11	壺	脚台	に赤黄	明黄褐	○	○		良	ナデ	ナデ	煤付着
	1011	8号住居	G-11	壺	胴部-腹部	に赤黄	橙	○	○		良	ハケ・指頭ナデ	ハケ・指頭ナデ	
第140 団	1012	8号住居	G-11	壺	脚台	褐灰	褐灰	○	○		良	ナデ・指頭ナデ	ナデ・指頭ナデ	
	1013	8号住居	G-11	鉢	底部	褐灰	褐灰	○	○		良	ナデ・指頭板	ナデ・ナデ	
	1014	8号住居	G-11	台付鉢	肩部-腹部	に赤黄	に赤黄	○	○		良	ケズリ・ナデ	ナデ	
	1015	8号住居	G-11	壺	胴部	に赤黄	に赤黄	○	○		良	粗なケズリ・ナデ	ナデ	
第143 団	1016	9号住居	G-H-11	壺	肩部-腹部	明黄褐	橙	○	○		良	ハケ	ハケ	
	1017	9号住居	G-H-11	壺	肩部-腹部	に赤黄	に赤黄	○	○		良	ハラケズリ・ナ・ナ	ヘラケズリ	
	1018	9号住居	G-H-11	壺	肩部-腹部	明赤褐	赤褐	○	○		良	粗なハケ	粗なハケ・ナデ	
	1019	9号住居	G-H-11	壺	肩部-腹部	明赤褐	橙	○	○		良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	
	1020	9号住居	G-H-11	壺	肩部-腹部	橙	明赤褐	○	○		良	ハケ・ナデ	粗なハケ後ナデ	
	1021	9号住居	G-H-11	壺	肩部-腹部	橙	橙	○	○		良	ハケ	ハケ後ナデ	
	1022	9号住居	G-H-11	壺	肩部-腹部	橙	橙	○	○		良	ハケ・ナデ	ケズリ・ナ・ナ	
第144 団	1023	9号住居	G-H-11	壺	肩部-腹部	明黄褐	に赤黄	○	○		良	ハケ・ナデ	ナデ・指頭ナデ	
	1024	9号住居	G-H-11	壺	肩部-腹部	黑褐	明赤褐	○	○		良	ハケ後ナデ	ハケ	
	1025	9号住居	G-H-11	壺	口縁部	に赤黄	に赤黄	○	○		良	ハケ・指頭ナデ	ハケ・指頭ナデ	
	1026	9号住居	G-H-11	鉢	肩部-腹部	に赤黄	に赤黄	○	○		良	ハラ・ケズリ	ナデ	
	1027	9号住居	G-H-11	壺	肩部-腹部	橙	橙	○	○		良	ケズリ・ナデ	ハラケズリ・ナデ	突帯あり
	1028	9号住居	G-H-11	壺	胴部	に赤黄	明赤褐	○	○		良	ハケ	ハケ・指頭ナデ	煤付着
	1029	9号住居	G-H-11	鉢	肩部-腹部	橙	に赤黄	○	○		良	指頭痕	ナデ・指頭痕	
第145 団	1030	9号住居	G-H-11	壺	胴部-腹部	橙	橙	○	○		良	粗なハケ	ハケ後ナデ	
	1031	9号住居	G-H-11	壺	胴部-腹部	に赤黄	に赤黄	○	○		良	ナデ・指頭痕	指頭痕	
	1032	9号住居	G-H-11	壺	脚台	に赤黄	に赤黄	○	○		良	ナデ	ナデ	
	1033	9号住居	G-H-11	壺	脚台	に赤黄	明赤褐	○	○		良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	
	1034	9号住居	G-H-11	壺	脚台	に赤黄	橙	○	○		良	ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	
	1035	9号住居	G-H-11	壺	脚台	に赤黄	に赤黄	○	○		良	ハケ	ナデ・指頭痕	
	1036	9号住居	G-H-11	壺	脚台	に赤黄	橙	○	○		良	ハケ・ナデ	ナデ・指頭痕	
第146 団	1037	9号住居	G-H-11	壺	脚台	に赤黄	橙	○	○		良	ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	
	1038	9号住居	G-H-11	壺	脚台	に赤黄	に赤黄	○	○		良	ハケ・ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	
	1039	9号住居	G-H-11	鉢	肩部-腹部	橙	橙	○	○		良	粗なハケ	ナデ・ハケ・指頭ナデ	
	1040	9号住居	G-H-11	壺	肩部-腹部	明赤褐	橙	○	○		良	タタキ・指頭痕	ケズリ・指頭痕	
	1041	9号住居	G-H-11	壺	肩部-腹部	に赤黄	黑褐	○	○		良	粗なハケ	ナデ・ハケ・ナデ	
	1042	9号住居	G-H-11	壺	胴部	橙	橙	○	○		良	タタキ後ナデ	ナデ	
	1043	9号住居	G-H-11	壺	肩部-腹部	明黄褐	に赤黄	○	○		良	ハケ	指頭ナデ	
	1044	9号住居	G-H-11	壺	胴部	橙	橙	○	○		良	ナデ	ナデ	
	1045	9号住居	G-H-11	壺	胴部	橙	に赤黄	○	○		良	やや粗なハケ	やや粗なハケ	
	1046	9号住居	G-H-11	鉢	肩部-腹部	橙	橙	○	○		良	指頭痕	指頭ナデ	
	1047	9号住居	G-H-11	鉢	底部	に赤黄	に赤黄	○	○		良	指頭痕	指頭痕	

第25表 古墳時代土器観察表(3)

擇団 番号	遺物 番号	層位・遺構	出土区	器種	部位	色調				胎土	焼成	調整		備考
						外面	内面	石英	長石			外面	内面	
第147 団	1048	10号住居	G-11	壺	口縁部~胴部	明黄褐	橙	○	○	○	良	ケズリ・ハケ・ナデ	粗なハケ・ナデ	
	1049	10号住居	G-11	壺	口縁部~胴部	橙	橙	○	○	○	良	ハケ	ハケ・ナデ	
	1050	10号住居	G-11	壺	口縁部~胴部	明黄褐	橙	○	○	○	良	ハケ	ハケ後指頭ナデ	
	1051	10号住居	G-11	壺	口縁部~胴部	橙	にふい黄褐	○	○	○	良	ハケ	ハケ・ナデ・指頭痕	
	1052	10号住居	G-11	壺	口縁部	灰黄褐	橙	○	○	○	良	ハケ	ナデ	
	1053	10号住居	G-11	壺	口縁部	にふい黄褐	黄褐	○	○	○	良	ハケ	粗なハケ	
第148 団	1054	10号住居	G-11	壺	口縁部~胴部	明赤褐	橙	○	○	○	良	粗なハケ・ナデ	粗なハケ・ナデ	
	1055	10号住居	G-11	壺	口縁部	橙	橙	○	○	○	良	ハラ・ナデ	ハケ	
	1056	10号住居	G-11	壺	口縁部	浅黄	明黄褐	○	○	○	良	ナデ	ハラケズリ・ナデ	
	1057	10号住居	G-11	壺	口縁部~胴部	暗褐	橙	○	○	○	良	ハケ・ナデ	粗なハケ・ナデ	
	1058	10号住居	G-11	壺	脚台	明黄褐	橙	○	○	○	良	ハケ・ナデ	指頭痕	
	1059	10号住居	G-11	壺	胴部	明黄褐	橙	○	○	○	良	タタキ	ナデ	あて具模有り
第149 団	1060	10号住居	G-11	壺	胴部	明黄褐	橙	○	○	○	良	タタキ	ナデ	
	1061	10号住居	G-11	壺	胴部	黄橙	橙	○	○	○	良	タタキ	ナデ	
	1062	10号住居	G-11	壺	胴部	明黄褐	橙	○	○	○	良	タタキ	ナデ	
	1063	10号住居	G-11	壺	胴部	明黄褐	黒褐	○	○	○	良	タタキ	ナデ	あて具模有り
	1064	10号住居	G-11	壺	胴部	明褐	橙	○	○	○	良	タタキ	ナデ	
	1065	10号住居	G-11	壺	胴部	黄橙	橙	○	○	○	良	タタキ	ナデ	
第150 団	1066	10号住居	G-11	壺	胴部	橙	橙	○	○	○	良	タタキ	ナデ	
	1067	10号住居	G-11	壺	胴部	明黄褐	橙	○	○	○	良	タタキ	ナデ	
	1068	10号住居	G-11	壺	胴部	黑褐	橙	○	○	○	良	タタキ	ナデ	
	1069	10号住居	G-11	壺	胴部	明黄褐	黄橙	○	○	○	良	タタキ	ナデ	
	1070	10号住居	G-11	壺	胴部	褐	橙	○	○	○	良	タタキ	ナデ	
	1071	10号住居	G-11	壺	胴部	明赤褐	橙	○	○	○	良	タタキ・ナデ	ナデ	
第151 団	1072	10号住居	G-11	壺	胴部	橙	橙	○	○	○	良	タタキ後ナデ	ケズリ後ナデ	
	1073	10号住居	G-11	壺	胴部	明黄褐	黄橙	○	○	○	良	タタキ・ナデ	ナデ	
	1074	10号住居	H-8	壺	口縁部~胴部	明黄褐	橙	○	○	○	良	粗なハケ・ナデ	粗なハケ・ナデ	
	1075	10号住居	G-11	壺	口縁部~胴部	橙	明黄褐	○	○	○	良	ハケ	指頭ナデ	
	1076	10号住居	G-11	壺	胴部~底部	浅黄	にふい黄褐	○	○	○	良	ケズリ・ハ・ナデ	ハケ・粗なハケ	
	1077	III a	F-G-10	壺	口縁部~底部	にふい黄褐	明黄褐	○	○	○	良	ケズリ後ナデ	ハケ・ナデ	
第153 団	1078	2号住居	H-8	壺	口縁部~底部	明黄褐	橙	○	○	○	良	ナデ・ケズリ・ハ	ハケ・ナデ	
	1079	III a	F-G-10	壺	頭部~底部	橙	黄橙	○	○	○	良	ハケ・ケズリ	ケズリナデ	
	1080	III a	F-10	壺	底部	明黄褐	にふい黄褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ	
	1081	III a	F-11	壺	口縁部	明黄褐	橙	○	○	○	良	ハケ後ナデ	ナデ	
	1082	III a	G-9	壺	口縁部~胴部	明赤褐	橙	○	○	○	良	ハケ・ケズリ	ナデ	
	1083	III a	-	壺	口縁部~胴部	明黄褐	橙	○	○	○	良	ハケ後ナデ	ナデ	
第154 団	1084	III a	F-11	壺	口縁部	褐	橙	○	○	○	良	ハケ	ケズリ・ナデ	
	1085	III a	I-8	壺	口縁部~胴部	橙	明赤褐	○	○	○	良	ケズリ・ナデ	ケズリ・ナデ	
	1086	II	G-10	壺	口縁部~底部	にふい黄褐	にふい黄褐	○	○	○	良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	
	1087	III a	F-G-10	壺	口縁部~底部	青セリ~青	黄褐	○	○	○	良	ハケ・ナデ	ハラケズリ・ナデ	
	1088	III a	F-11	壺	脚台	橙	橙	○	○	○	良	ハケ・ナデ	ナデ	
	1089	III a	G-8	壺	脚台	橙	明黄褐	○	○	○	良	ハケ	指頭痕・ナデ	
第155 団	1090	III a	G-13	壺	脚台	淡黄	橙	○	○	○	良	ハケ	指頭ナデ	
	1091	III a	G-8	壺	脚台	にふい黄褐	橙	○	○	○	良	ナデ	ナデ	
	1092	III a	F-14	壺	脚台	橙	黄橙	○	○	○	良	ナデ	ハケ	
	1093	III a	G-9	壺	脚台	黄褐	暗灰黄	○	○	○	良	指頭痕・ナデ	指頭痕・ナデ	
	1094	III a	G-11	壺	口縁部	橙	明黄褐	○	○	○	良	ハケ・ナデ	ナデ	
	1095	III a	F-G-10	鉢	口縁部~底部	明黄褐	橙	○	○	○	良	粗なハケ	ハケ・ナデ	
第156 団	1096	III a	G-8	鉢	口縁部~底部	完形	明黄褐	にふい黄褐	○	○	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
	1097	III a	H-9	鉢	口縁部~底部	尖底	にふい黄褐	橙	○	○	良	指頭痕	指頭痕	
	1098	III a	G-9	鉢	底部	にふい黄褐	浅黄褐	○	○	○	良	ナデ	ナデ	

第26表 古代土師器・須恵器観察表(1)

検査番号	遺物番号	位置・通横	出土区	種類	器種	部位	色調	胎土	口径(cm)	縁(a 高台径)	器高(cm)	調整		備考
												外面・底部	内面	
第160回	1099	堅穴	L-32	土師器	甕	定形	橙	精製	25.0	-	20.0	横ナデ	ケズリ	底面に係付着
	1100	円形削溝	G-10	土師器	甕	定形	浅黄橙	精製	8.8	4.5	1.6	横ナデ・刃削へラ切り	横ナデ	
	1101	円形削溝	G-10	土師器	甕	定形	浅黄橙	精製	9.0	4.6	2.0	横ナデ・刃削へラ切り	横ナデ	
	1102	円形削溝	G-10	土師器	甕	定形	浅黄橙	精製	13.6	5.2	4.1	横ナデ・刃削へラ切り	横ナデ	高台付
	1103	円形削溝	G-10	土師器	甕	定形	浅黄橙	精製	13.3	5.8	4.0	横ナデ・刃削へラ切り	横ナデ	
第161回	1106	土坑1	F-11	土師器	甕	底部	浅黄橙	精製	-	7.0	-	横ナデ	横ナデ	
	1107	土坑1	F-11	土師器	甕	底部	浅黄橙	精製	-	5.9	-	横ナデ・刃削へラ切り	横ナデ	充実高台
第165回	1111	土坑3	I-25	土師器	甕	口縁部～底部	オリーブ黒	精製	10.0	-	2.5	ミガキ	ミガキ	両墨
第166回	1112	土坑4	J-25・26	土師器	甕	底部	にぶい黄橙	精製	-	-	-	横ナデ	ミガキ	内墨
第170回	1123	-	G-12	土師器	甕	定形	にぶい黄橙	精製	28.6	-	19.5	ハケ後ナデ	粗なケズリ	底面に係付着
	1124	III	G-10	土師器	甕	口縁部	明赤褐	精製	-	-	-	ナデ	ケズリ・ナデ	
	1125	IIIa	F-9	土師器	甕	口縁部	にぶい黄橙	精製	-	-	-	ナデ	ケズリ・ナデ	
	1126	I	F-10	土師器	甕	口縁部	にぶい黄橙	精製	-	-	-	ハケ・ナデ	ケズリ・ナデ	
	1127	-	G-10	土師器	甕	口縁部	にぶい・褐	精製	-	-	-	ナデ	ケズリ・ナデ	
	1128	I	E-12	土師器	甕	口縁部	黒	精製	30.4	-	-	ナデ	ケズリ	
	1129	IIIa	G-11	土師器	甕	口縁部	浅黄橙	精製	24.8	-	-	横ナデ	ケズリ・横ナデ	
	1130	II	F-11	土師器	甕	口縁部～体部	にぶい赤褐	精製	20.0	-	-	ケズリ・ナデ	ケズリ・ナデ	
	1131	I	E-14	土師器	甕	口縁部	にぶい・褐	精製	29.8	-	-	ナデ	ケズリ・ナデ	
	1132	II	G-10	土師器	甕	口縁部～体部	明赤褐	精製	17.7	-	-	ナデ・指痕痕	ケズリ・指痕痕ナデ	
	1133	IIIa	G-11	土師器	甕	口縁部	にぶい黄橙	精製	-	-	-	ハケ・ナデ	ハケ・ケズリ	
	1134	III	G-10	土師器	甕	口縁部	にぶい黄橙	精製	-	-	-	横ナデ	横ナデ	
	1135	7号住居	G-11	土師器	甕	口縁部	にぶい・褐	精製	-	-	-	横ナデ	ハケ・横ナデ	
	1136	表探	G-10	土師器	甕	口縁部	明黄褐	精製	-	-	-	横ナデ	横ナデ	
	1137	IIIa	F-11	土師器	甕	頭部	にぶい黄橙	精製	-	-	-	ハケ後ナデ	ケズリ・ナデ	
	1138	I	H-7	土師器	甕	口縁部	にぶい黄橙	精製	29.6	-	-	ナデ	ナデ	
	1139	IIIa	G-11	土師器	甕	口縁部	にぶい黄橙	精製	29.3	-	-	ハケ・ナデ	ケズリ・ナデ	
第172回	1140	-	G-12	土師器	甕	口縁部～瓶部	橙	精製	34.0	-	-	ハケ後ナデ	ケズリ・ナデ	
	1141	IIIa	-	須恵器	甕	口縁部～胴部	明黄褐	精製	22.8	-	-	タタキ後ナデ	ハタケナデ・かた刺	
第173回	1143	I	E-13	土師器	甕	定形	浅黄橙	精製	13.0	8.2	4.3	横ナデ	横ナデ	
	1144	II	G-10	土師器	甕	体部～底部	にぶい黄橙	精製	-	5.4	-	横ナデ・刃削へラ切り	横ナデ	
	1145	-	G-10	土師器	甕	口縁部～底部	浅黄橙	精製	11.1	3.6	4.3	横ナデ・ハラ切り	横ナデ	墨書き
	1146	IIIa	G-12	土師器	甕	底部	浅黄橙	精製	-	7.2	-	横ナデ・刃削へラ切り	横ナデ	
	1147	IIIa	G-11	土師器	甕	口縁部～底部	浅黄橙	精製	14.0	7.2	4.1	横ナデ・刃削へラ切り	横ナデ	
	1148	IIIa	F-11	土師器	甕	口縁部～底部	浅黄橙	精製	14.6	7.4	4.2	横ナデ	横ナデ	
	1149	IIIa	G-11	土師器	甕	体部～底部	淡黄	精製	-	6.6	-	横ナデ・刃削へラ切り	横ナデ	
	1150	IIIa	F-9	土師器	甕	体部～底部	浅黄橙	精製	-	7.8	-	横ナデ・刃削へラ切り	横ナデ	
	1151	IIIa	F-11	土師器	甕	底部	浅黄橙	精製	-	5.7	-	横ナデ・刃削へラ切り	横ナデ	
	1152	-	TT	土師器	甕	体部～底部	浅黄橙	精製	-	5.6	-	横ナデ・刃削へラ切り	横ナデ	充実高台
	1153	IIIa	F-10	土師器	甕	底部	にぶい黄橙	精製	-	5.7	-	横ナデ・刃削へラ切り	横ナデ	
	1154	I	D-14	土師器	甕?	底部	浅黄橙	精製	-	6.6	-	横ナデ・刃削へラ切り	横ナデ	

第27表 古代土師器・須恵器観察表(2)

検査番号	遺物番号	層位・通横	出土区	種類	器種	部位	色調	胎土	口径(cm)	縁(a) (高台径)(cm)	器高(cm)	調整		備考
												外面・底部	内面	
第173回	1155	-	G-10	土師器	壺	体部～底部	にぶい黄橙	精製	-	7.4	-	横ナデ・縫跡へラ切り	横ナデ	
	1156	IIIa	F-12	土師器	壺	底部	にぶい黄橙	精製	-	7.2	-	横ナデ・縫跡へラ切り	横ナデ	
	1157	-	G-10	土師器	壺	口縁部～底部	浅黄橙	精製	13.2	6.4	6.1	横ナデ・縫跡へラ切り	横ナデ	充実高台
	1158	IIIa	H-11	土師器	壺	底部	浅黄橙	精製	-	5.6	-	横ナデ	横ナデ	充実高台
	1159	II	G-10	土師器	壺	底部	にぶい黄橙	精製	-	5.7	-	横ナデ・ラ切り	横ナデ	充実高台
	1160	I	H-8	土師器	壺	底部	浅黄橙	精製	-	5.6	-	横ナデ	横ナデ	充実高台
	1161	表探	H-10	土師器	壺	底部	にぶい黄橙	精製	-	5.4	-	横ナデ	横ナデ	充実高台
	1162	I	I-12	土師器	壺	体部～底部	浅黄橙	精製	-	5.6	-	横ナデ・縫跡へラ切り	横ナデ	
	1163	IIIa	F-10	土師器	壺	体部～底部	浅黄橙	精製	-	5.9	-	横ナデ	横ナデ	充実高台
	1164	II	G-10	土師器	壺	完形	橙	精製	13.2	7.5	7.2	横ナデ	横ナデ	
第174回	1165	IIIa	F-11	土師器	壺	口縁部～体部	浅黄橙	精製	17.6	-	-	横ナデ	横ナデ	墨書き
	1166	I	G-10	土師器	壺	底部	浅黄橙	精製	-	6.8	-	横ナデ	横ナデ	
	1167	II	F-11	土師器	壺	底部	浅黄橙	精製	-	8.0	-	横ナデ	横ナデ	墨書き
	1168	-	G-10	土師器	壺	底部	浅黄橙	精製	-	6.6	-	横ナデ	横ナデ	
	1169	I	D-13	土師器	壺	体部～底部	浅黄橙	精製	-	6.5	-	横ナデ	横ナデ	
	1170	III	G-10	土師器	壺	底部	浅黄橙	精製	-	7.0	-	横ナデ	横ナデ	
	1171	II	F-11	土師器	壺	底部	浅黄橙	精製	-	7.2	-	横ナデ	横ナデ	
	1172	-	G-10	土師器	壺	底部	浅黄橙	精製	-	8.4	-	横ナデ	横ナデ	
	1173	I	D-13	土師器	壺	底部	にぶい黄橙	精製	-	4.8	-	横ナデ・縫跡へラ切り	横ナデ	
	1174	III	G-10	土師器	壺	底部	にぶい黄橙	精製	-	5.0	-	横ナデ・縫跡へラ切り	横ナデ	
第175回	1175	IIIa	G-10	土師器	壺	口縁部～底部	浅黄橙	精製	-	-	-	横ナデ・縫跡へラ切り	横ナデ	
	1176	IIIa	F-10	土師器	耳皿	口縁部～底部	灰白	精製	9.0	4.4	3.0	横ナデ・ナダ	横ナデ・指揮瓶	
	1177	表探	G-10	土師器	直	口縁部～底部	浅黄橙	精製	9.6	5.5	1.9	横ナデ・縫跡へラ切り	横ナデ	
	1178	IIIa	G-10	土師器	直	口縁部～底部	にぶい黄橙	精製	9.0	4.4	1.3	横ナデ・縫跡へラ切り	横ナデ	
	1179	-	-	土師器	直	完形	にぶい黄橙	精製	9.2	4.8	1.6	横ナデ・縫跡へラ切り	横ナデ	
	1180	IIIa	F-11	土師器	壺	体部～底部	浅黄橙	精製	-	7.5	-	横ナデ	ハラミガキ	墨書き・内黒
	1181	II	F-11	土師器	壺	体部～底部	浅黄橙	精製	-	-	-	横ナデ	横ナデ	内黒
	1182	IIIa	F-11	土師器	壺	口縁部～体部	浅黄橙	精製	13.9	-	-	横ナデ	ミガキ	内黒
	1183	IIIa	H-25	土師器	壺	口縁部～底部	淡黄	精製	16.6	6.8	5.7	ミガキ	ミガキ	内黒
	1184	II	F-11	土師器	壺	口縁部～体部	浅黄橙	精製	17.3	-	-	横ナデ・ミガキ	横ナデ・ミガキ	内黒
第176回	1185	IIIa	G-12	土師器	壺	体部～底部	浅黄橙	精製	-	10.8	-	ミガキ後ナダ	ハラミガキ	内黒
	1186	IIIa	F-11	土師器	壺	体部～底部	浅黄橙	精製	-	6.3	-	横ナデ	ハラミガキ	内黒
	1187	I	G-10	土師器	壺	底部	浅黄橙	精製	-	9.7	-	横ナデ	ミガキ	内黒
	1188	表探	G-10	土師器	壺	底部	橙	精製	-	6.8	-	横ナデ	ミガキ	内黒
	1189	I	G-10	土師器	壺	底部	浅黄橙	精製	-	7.8	-	横ナデ	ハラミガキ	内黒
	1190	IIIa	H-11	土師器	壺	底部	浅黄橙	精製	-	6.8	-	横ナデ	ハラミガキ	内黒
	1191	II	G-11	土師器	壺	底部	にぶい黄橙	精製	-	-	-	横ナデ	ハラミガキ	内黒
	1192	IIIa	F-11	土師器	壺	底部	にぶい黄橙	精製	-	8.2	-	横ナデ	ハラミガキ	内黒
	1193	IIIa	F-10	土師器	壺	底部	灰白	精製	-	6.0	-	横ナデ	ハラミガキ	内黒

第28表 古代土師器・須恵器観察表(3)

検査番号	遺物番号	層位・通横	出土区	種類	器種	部位	色調	胎土	口径(cm)	縁(a) 高台径(cm)	器高(cm)	調整		備考
												外面・底部	内面	
第175 回	1194	IIIa	F-11	土師器	壺	胴部~底部	黒褐	精製	-	7.8	-	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	内黒
	1195	I	F-10	土師器	壺	底部	浅黄	精製	-	6.8	-	ミガキ・横ナデ	ミガキ	内黒
	1196	IIIa	G-12	土師器	壺	底部	にぶい黄褐	精製	-	6.8	-	横ナデ・鋸へら切り	ミガキ	充実高台・内黒
第176 回	1197	I	G-10	土師器	壺	体部~底部	にぶい黄褐	精製	-	-	-	横ナデ	横ナデ	内朱
	1198	IIIa	F-11	土師器	壺	底部	浅黄褐	精製	-	7.1	-	横ナデ	横ナデ	内朱
	1199	IIIa	F-11	土師器	壺	底部	浅黄褐	精製	-	7.1	-	横ナデ	横ナデ	内朱
	1200	表探	D-13	土師器	壺	体部~底部	浅黄褐	精製	-	-	-	横ナデ	横ナデ	内朱
	1201	IIIa	G-11	土師器	壺	体部~底部	浅黄褐	精製	-	7.0	-	横ナデ	横ナデ	外朱
	1202	III	G-10	土師器	鉢	胴部~底部	浅黄褐	精製	-	16.8	-	横ナデ	横ナデ	外朱
	1203	I	G-8	土師器	鉢	形	浅黄褐	精製	-	-	-	ナデ	ナデ	外径5.5cm 内径0.7cm 厚さ0.8cm
	1204	IIIa	F-9	土師器	鉢	形	にぶい黄褐	精製	-	-	-	ナデ	ナデ	厚さ0.9cm
第177 回	1205	P3	F-12	須恵器	蓋	天井部~口縁部	灰白	精緻	19.6	-	-	横ナデ	横ナデ	
	1206	I	G-10	須恵器	蓋	天井部	灰	精緻	-	-	-	横ナデ	横ナデ	
	1207	-	C-13	須恵器	蓋	天井部~口縁部	灰	精緻	-	-	-	横ナデ	横ナデ	
	1208	-	-	須恵器	蓋	完形	灰白	精緻	17.6	-	4.9	横ナデ	指頭痕 指頭ナデ	
	1209	I	G-13	須恵器	蓋	天井部~口縁部	灰白	精緻	15.6	-	-	横ナデ	ナデ	
	1210	-	-	須恵器	蓋	完形	灰白	精緻	19.0	-	4.4	横ナデ	ナデ	
	1211	IIIa	G-11	須恵器	蓋	天井部	灰	精緻	-	-	-	横ナデ	横ナデ	
	1212	I	G-10	須恵器	蓋	口縁部~底部	灰	精緻	13.8	11.2	1.5	横ナデ	横ナデ・ナデ	
	1213	溝	D-14	須恵器	壺	底部	灰	精緻	-	7.4	-	横ナデ	横ナデ・ナデ	
	1214	-	TT	須恵器	壺	底部	灰	精緻	-	8.4	-	横ナデ	横ナデ	高台付
	1215	I	F-11	須恵器	壺	底部	淡黄	精緻	-	10.2	-	横ナデ	横ナデ	高台付
	1216	カクラン	F-10	須恵器	壺	底部	灰白	精緻	-	10.4	-	横ナデ	横ナデ	
	1217	表探	G-10	須恵器	壺	体部~底部	灰	精緻	-	11.2	-	横ナデ	横ナデ・指頭ナデ	高台付
	1218	表探	G-10	須恵器	壺	底部	灰	精緻	-	11.8	-	横ナデ	横ナデ	高台付
	1219	-	-	須恵器	壺	胴部~底部	灰	精緻	-	-	-	横ナデ	横ナデ	
	1220	I	G-10	須恵器	壺	体部~底部	灰	精緻	-	7.0	-	横ナデ・鋸へら切り	横ナデ	
	1221	表探	G-10	須恵器	壺	口縁部~体部	灰白	精緻	13.4	-	-	横ナデ	横ナデ	
	1222	I	E-14	須恵器	壺	口縁部~体部	灰白	精緻	13.4	-	-	横ナデ	横ナデ	
	1223	I	G-10	須恵器	壺	体部	灰	精緻	-	-	-	横ナデ	横ナデ・ナデ	
	1224	IIIa	F-10	須恵器	壺	高台部	灰	精緻	-	7.6	-	横ナデ	横ナデ	高台付
	1225	IIIa	G-12	須恵器	壺	口縁部	灰	精緻	19.8	-	-	横ナデ	横ナデ	
	1226	IIIa	F-11	須恵器	壺	口縁部	黑	精緻	23.0	-	-	横ナデ	横ナデ	
	1227	IIIa	G-10-11	須恵器	壺	口縁部	灰	精緻	18.4	-	-	横ナデ	横ナデ	
	1228	表探	G-10	須恵器	壺	口縁部	黑褐	精緻	25.0	-	-	横ナデ	横ナデ	
	1229	I	F-14	須恵器	壺	肩部	灰白	精緻	-	-	-	横ナデ	横ナデ	
	1230	I	G-8	須恵器	壺	肩部	灰	精緻	-	-	-	平行タタキ	同心円タタキ	
	1231	I	F-10	須恵器	壺	肩部	にぶい黄褐	精緻	-	-	-	平行タタキ	同心円タタキ	
	1232	表探	G-10	須恵器	壺	肩部	浅黄	精緻	-	-	-	平行タタキ	同心円タタキ	

第29表 古代土師器・須恵器観察表(4)

擇図番号	遺物番号	層位・遺構	出土区	種類	器種	部位	色調	胎土	口径(cm)	縁(a) (高台径)	器高 (cm)	調整		備考
												外面・底部	内面	
第178回	1233	表揮	-	須恵器	甕	胴部	にぶい褐	精緻	-	-	-	平行タタキ	同心円タタキ	
	1234	表揮	G-10	須恵器	甕	胴部	灰	精緻	-	-	-	格子目タタキ	同心円タタキ	
	1235	I	D-12	須恵器	甕	胴部	灰	精緻	-	-	-	平行タタキ	同心円タタキ	
	1236	I	G-10	須恵器	甕	胴部	灰	精緻	-	-	-	格子目タタキ	同心円タタキ	
	1237	I	G-13	須恵器	甕	肩部	黒褐	精緻	-	-	-	格子目タタキ	同心円タタキ	
	1238	IIIa	G-11	須恵器	甕	胴部	灰	精緻	-	-	-	格子目タタキ	同心円タタキ	
	1239	IIIa	F-12	須恵器	甕	肩部	灰オーリーブ	精緻	-	-	-	格子目タタキ	同心円タタキ	
	1240	I	F-12	須恵器	甕	胴部	褐灰	精緻	-	-	-	格子目タタキ	平行・同心円タタキ	
	1241	表揮	G-10	須恵器	甕	胴部	灰	精緻	-	-	-	格子目タタキ	同心円タタキ	
	1242	I	G-10	須恵器	甕	胴部	にぶい黄褐	精緻	-	-	-	平行タタキ	平行タタキ	
	1243	IIIa	G-11	須恵器	甕	胴部	黄灰	精緻	-	-	-	平行タタキ	平行タタキ	
第179回	1244	I	F-12	須恵器	甕	胴部	暗赤灰	精緻	-	-	-	格子目タタキ	平行タタキ	
	1245	I	G-10	須恵器	甕	胴部	黑褐	精緻	-	-	-	格子目タタキ	平行タタキ	
	1246	IIIa	G-11	須恵器	甕	胴部	オリーブ褐	精緻	-	-	-	平行タタキ	格子目タタキ	
	1247	II	F-11	須恵器	甕	胴部	にぶい黄	精緻	-	-	-	平行タタキ	平行タタキ	
	1248	IIIa	G-12	須恵器	甕	胴部	灰白	精緻	-	-	-	平行タタキ	平行タタキ	
	1249	IIIa	G-12	須恵器	甕	胴部	黒褐	精緻	-	-	-	平行タタキ	平行タタキ	
	1250	III	H-11	須恵器	甕	胴部	灰オーリーブ	精緻	-	-	-	平行タタキ	平行タタキ	
	1251	I	D-13	須恵器	甕	口縁部	灰	精緻	12.8	-	-	横ナデ	同心タタキ・横ナデ	
	1252	I	G-14	須恵器	甕	胴部	灰白	精緻	-	-	-	平行タタキ	ナデ・指頭痕	
	1253	I	G-10	須恵器	甕	胴部	灰	精緻	-	-	-	横ナデ	横ナデ	

第30表 古代陶磁器観察表

擇図番号	遺物番号	種類	器種	出土区	層位・遺構	胎土	釉(薬)	露胎	焼成	生産地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
第172回	1142	青磁	碗	F-11	IIIa	灰 含白色粒	灰黄	無	不	越	-	(7.3)	(2.1)	越州

第31表 古代石器観察表

擇図番号	遺物番号	器種	出土区	層位・遺構	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第161回	1104	軽石加工品	F-11	土坑1	軽石	59.7	26.7	13.2	5800.00	
第162回	1105	-	F-11	土坑1	安山岩	(20.6)	14.0	9.6	4800.00	
第163回	1108	石皿	E-14	土坑2	安山岩	(27.0)	37.8	13.0	20200.00	
第164回	1109	-	E-14	土坑2	凝灰岩	31.6	24.2	7.8	6000.00	
	1110	-	E-14	土坑2	凝灰岩	27.0	21.7	7.2	4200.00	

第32表 古代土坑観察表

擇図番号	土坑番号	時代	区	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	遺物		備考
第161回	1	古代	F-11	244.0	200.0	50.0	土師器(塊)・(充実高台・坏)		
第163回	2	古代	E-14	150.0	120.0	50.0	石皿		
第165回	3	古代	I-25	94.0	86.0	20.0	両黒土師器(坏)		
第166回	4	古代	J-25・26	200.0	60.0	46.0	内黒土師器・古銭10枚		
第168回	5	古代	J-25	70.0	60.0	8.0	-		

第33表 中世土師器・須恵器・瓦質土器等観察表(1)

探査番号	遺物番号	層位・通構	出土区	種類	器種	部位	色調	胎土	口径(cm)	底径(cm) (高台径)	器高(cm)	調整		備考
												外面	底部	
第189回	1266	曲輪a	I-31	土師質	擂鉢	口縁部	浅黄	精製	-	-	-	ナデ・指頭痕	ナデ	
第191回	1274	曲輪b	H-31	須恵器	甕	胴部	灰	精緻	-	-	-	ナデ・指頭痕	ハケ	棒万系
第200回	1282	大型円形土坑2	H-21	土師器	皿	口縁部～底部	棕	精製	12.0	7.4	2.3	横ナデ・条切り	横ナデ	内面と外面上に塗付着
	1283	大型円形土坑2	H-21	土師器	皿	口縁部～底部	棕	精製	12.4	7.2	2.4	横ナデ・条切り	横ナデ	
	1284	大型円形土坑2	H-21	土師質	擂鉢	口縁部	浅黄棕	精製	27.6	-	-	横ナデ	横ナデ	
	1285	大型円形土坑2	H-21	須恵質	擂鉢	底部	黄灰	精緻	-	23.0	-	ヘラナデ	ケズリ・ハケ	
	1286	大型円形土坑2	H-21	土製品	輪の羽口	-	褐灰	粗(非精製)	-	-	-	ナデ	ナデ	
	1290	大型円形土坑2	H-21	瓦質土器	擂鉢	底部	黑褐	精製	-	-	-	磨耗	磨耗	
	1292	大型円形土坑2	H-21	瓦質土器	茶釜	口縁部～胴部	灰	精製	16.2	-	-	ナデ	ナデ・指頭痕	外面青灰下位に塗付着、最大径32.0cm
	1293	大型円形土坑2	H-21	瓦質土器	茶釜	口縁部～胴部	にふい黄褐	精製	16.0	-	-	ナデ	ナデ・指頭痕	外面青灰下位に塗付着、最大径33.5cm
第202回	1294	大型円形土坑2	H-21	瓦質土器	羽釜	胴部	にふい黄褐	精製	-	-	-	ナデ	ハケ・ナデ	外面青灰下位に塗付着、最大径29.6cm
	1295	大型円形土坑2	H-21	瓦質土器	羽釜	胴部	にふい黄褐	精製	-	-	-	ナデ	ナデ	最大径27.5cm
	1296	大型円形土坑2	H-21	瓦質土器	蓋	口縁部	灰	精製	15.0	-	1.2	ナデ	横ナデ	
第205回	1312	須恵土器	G-20	土師器	皿	体部～底部	棕	精製	-	8.0	-	横ナデ・条切り	横ナデ	底部と内面一部に塗付着
	1313	須恵土器	H-20	土師器	皿	底部	黄棕	精製	-	7.6	-	横ナデ・条切り	横ナデ	外面上に塗付着
	1314	須恵土器	H-20	土師器	皿	底部	明赤褐	精製	-	8.4	-	横ナデ・条切り	横ナデ	
	1315	須恵土器	H-20	土師器	皿	口縁部～底部	にふい黄褐	精製	12.2	7.2	2.2	横ナデ・条切り	横ナデ	
	1316	須恵土器	G-20	土師器	皿	底部	にふい黄褐	精製	-	6.8	-	横ナデ・条切り	横ナデ	内面と外面上に塗付着
	1317	須恵土器	H-20	土師器	皿	口縁部～底部	灰黄褐	精製	12.4	8.2	2.8	横ナデ・条切り	横ナデ	内面と口縁部に塗付着
	1318	須恵土器	G-20	土師器	皿	底部	にふい粉	精製	-	6.6	-	横ナデ・条切り	横ナデ	内面一部と外面上に塗付着
	1319	須恵土器	G-20	土師器	壺	底部	にふい粉	精製	-	9.6	-	横ナデ・条切り	横ナデ	
	1320	須恵土器	G-20	土師質	擂鉢	胴部	浅黄棕	精製	-	-	-	板ナデ・指頭痕	ナデ	
	1321	須恵土器	G-24	須恵器	擂鉢	胴部～底部	灰黄	精緻	-	11.9	-	ナデ・指頭痕	ナデ	
第209回	1323	須恵土器	G-20	瓦質土器	茶釜	胴部	にふい黄褐	精製	-	-	-	ナデ・指頭痕	ナデ	外面上に塗付着
	1324	須恵土器	G-19	瓦質土器	不明	脚部	灰	精製	-	-	-	ナデ	ケズリ・横ナデ	
第220回	1350	須恵土器	G-20	須恵器	甕	胴部	灰	精緻	-	-	-	格子目タタキ	同心円タタキ	
	1351	須恵土器	G-19	須恵器	甕	底部	灰	精緻	-	9.2	-	横ナデ	横ナデ・指頭痕	
第220回	1380	堅穴3	I-18	瓦質土器	擂鉢	口縁部	灰	精製	-	-	-	ナデ・指頭痕	ナデ	
	1381	堅穴3	I-18	土師器	皿	口縁部～底部	にふい粉	精製	8.0	5.6	2.0	横ナデ・条切り	横ナデ	

第34表 中世土器・須恵器・瓦質土器等観察表(2)

検査番号	遺物番号	層位・通様	出土区	種類	器種	部位	色調	胎土	口径(cm)	高さ(cm) (高台等)	器高(cm)	調整		備考
												外面・底部	内面	
第225回	1389	1号墓	F-11	土師器	皿	完形	浅黄澄	精製	11.8	7.4	2.6	横ナデ・名切り	横ナデ	外面に螺付有
第230回	1399	土坑1	I-7	土師質	花輪?火合?	底部	橙	精製	-	-	-	ケズリ・ハケ・ミザキ	横ナデ	
	1401	土坑3	F-14	土師質	擂鉢	口縁部	明褐色	精製	-	-	-	ナデ・指頭痕	ハケ後ナデ	
第233回	1402	土坑3	F-14	瓦質土器	不明	底部	にふい黄澄	精製	-	27.0	-	ナデ	横ナデ	
第234回	1403	土坑9	I-16	土師器	壺	底部	橙	精製	-	6.0	-	横ナデ・名切り	横ナデ	
第236回	1404	土坑24	H-18	土師器	壺	底部	橙	精製	-	9.4	-	横ナデ・名切り	横ナデ	
第239回	1406	土坑48	I-26	土師質	擂鉢	口縁部(注口)	明赤褐	精製	-	-	-	横ナデ・指頭痕	横ナデ・ナデ・指頭痕	
	1407	土坑48	I-26	土師質	擂鉢	口縁部~胴部	浅黄澄	精製	28.6	-	-	横ナデ・指頭痕	ナデ	
第246回	1410	-	F-10	土師器	皿	完形	にふい黄澄	精製	8.8	6.3	1.4	横ナデ・名切り	横ナデ	
	1411	-	F-10	土師器	皿	完形	浅黄澄	精製	9.4	6.6	1.1	横ナデ・名切り	横ナデ	
	1412	-	F-10	土師器	皿	完形	浅黄澄	精製	8.8	6.6	1.5	横ナデ・名切り	横ナデ	
	1413	不明造構	H-27	土師器	壺	底部	橙	精製	-	6.8	-	横ナデ・名切り	横ナデ	
	1414	不明造構	H-27	土師器	壺	体部~底部	にふい黄澄	精製	-	7.8	-	横ナデ・名切り	横ナデ	前面一部に螺付有
	1415	不明造構	H-27	土師器	壺	底部	橙	精製	-	7.0	-	横ナデ・名切り	横ナデ	
	1416	不明造構	H-27	土師器	皿	完形	浅黄澄	精製	8.9	7.8	2.2	横ナデ・名切り	横ナデ	外面と内面一部に螺付有
	1417	不明造構	H-27	土師質	擂鉢	口縁部(注口)	浅黄澄	精製	30.3	-	-	横ナデ・指頭痕	ハケ	
	1418	不明造構	H-27	土師質	擂鉢	口縁部	淡橙	精製	23.4	-	-	ナデ	ハケ	
	1419	不明造構	H-27	須恵器	擂鉢	口縁部(注口)	灰	精緻	-	-	-	ナデ・指頭痕	ハケ・ナデ	
	1420	不明造構	H-27	須恵器	甕	胴部	灰白	精緻	-	-	-	格子目タタキ	ハケ	柳万丈系
	1421	不明造構	H-27	須恵器	甕	胴部	黄灰	精緻	-	-	-	格子目タタキ	ハケ	柳万丈系
第248回	1422	不明造構	H-27	須恵器	甕	胴部	黄灰	精緻	-	-	-	格子目タタキ	ハケ	柳万丈系
	1423	不明造構	H-27	須恵器	甕	胴部	黄灰	精緻	-	-	-	格子目タタキ	ハケ	柳万丈系
	1424	不明造構	H-27	須恵器	甕	胴部	黄灰	精緻	-	-	-	格子目タタキ	ハケ	柳万丈系
	1425	不明造構	H-27	須恵器	甕	胴部	灰	精緻	-	-	-	格子目タタキ	ハケ	柳万丈系
	1426	不明造構	H-27	須恵器	甕	胴部	黄灰	精緻	-	-	-	格子目タタキ	ハケ	柳万丈系
	1427	不明造構	H-27	須恵器	甕	胴部	黄灰	精緻	-	-	-	格子目タタキ	ハケ	柳万丈系
	1428	不明造構	H-27	須恵器	甕	胴部	黄灰	精緻	-	-	-	ナデ	ハケ	柳万丈系

第35表 中世土師器・須恵器・瓦質土器等観察表(3)

検査番号	遺物番号	層位・通様	出土区	種類	器種	部位	色調	胎土	口径(cm)	高さ(cm) (高台等)	器高(cm)	調整		備考
												外面・底部	内面	
	1441	IIIa	G-11	土師器	壺	口縁部～底部	にぶい橙	精製	14.4	9.2	3.7	横ナデ・条切り	横ナデ	
	1442	-	F-14	土師器	壺	体部～底部	にぬい黄橙	精製	-	9.0	-	横ナデ・条切り	横ナデ	
	1443	I	G-13	土師器	壺	底部	にぬい黄橙	精製	-	7.0	-	横ナデ・条切削痕ナデ	横ナデ	内面に煤付着
	1444	-	ST	土師器	壺	底部	浅黄	精製	-	6.6	-	横ナデ・条切り	横ナデ	内面と外面上に煤付着
	1445	I	H-28	土師器	壺	底部	淡黄	精製	-	9.2	-	横ナデ・条切り	横ナデ	
	1446	-	H-18	土師器	壺	口縁部～底部	灰白	精製	11.2	9.2	3.2	横ナデ・条切り	横ナデ	
	1447	-	H-28	土師器	壺	底部	にぬい黄橙	精製	-	7.4	-	横ナデ・条切り	横ナデ	両朱
	1448	I	G-13	土師器	壺	口縁部～底部	浅黄橙	精製	11.8	9.6	2.2	横ナデ・条切り	横ナデ	内面に煤付着
	1449	IIIa	G-8	土師器	壺	底部	にぬい黄橙	精製	-	8.8	-	横ナデ・条切り	横ナデ	
第250図	1450	I	ST	土師器	壺	口縁部～底部	橙	精製	11.6	7.8	2.2	横ナデ・条切り	横ナデ	
	1451	-	G-8	土師器	壺	体部～底部	浅黄橙	精製	-	10.4	-	横ナデ・条切り	横ナデ	外朱
	1452	I	ST	土師器	壺	底部	浅黄橙	精製	-	7.8	-	横ナデ・条切り	横ナデ	
	1453	IIIa	G-11	土師器	壺	口縁部～底部	にぬい黄橙	精製	12.6	10.0	3.3	横ナデ・条切り	横ナデ	
	1454	I	J-14	土師器	壺	口縁部～底部	浅黄橙	精製	11.0	7.0	2.5	横ナデ・条切り	横ナデ	
	1455	-	F-10	土師器	皿	完形	浅黄橙	精製	8.8	6.8	1.3	横ナデ・条切り	横ナデ	
	1456	IIIa	G-11	土師器	皿	口縁部～底部	橙	精製	7.8	5.3	1.3	横ナデ・条切り	横ナデ	
	1457	-	G-8-9	土師器	皿	口縁部～底部	にぶい橙	精製	7.6	5.4	1.6	横ナデ・条切削痕ナデ	横ナデ	見込みに煤付着
	1458	I	G-13	土師器	皿	完形	橙	精製	7.3	5.2	2.5	横ナデ・条切り	横ナデ	
	1459	I	ST	土師器	皿	口縁部～底部	にぬい黄橙	精製	7.8	5.6	1.9	横ナデ・条切り	横ナデ	
	1460	IIIa	G-9	土師器	皿	口縁部～底部	にぬい黄橙	精製	8.6	6.3	1.5	横ナデ・条切り	横ナデ	
	1461	III	G-10	土師器	皿	口縁部～底部	浅黄橙	精製	9.1	5.8	1.8	横ナデ・条切り	横ナデ	
第251図	1462	-	G-11	カムイ焼	甕	口縁部	オリーブ黒	精製	-	-	-	横ナデ	横ナデ	
	1463	IIIa	F-11	須恵器	甕	胴部	オリーブ黒	精緻	-	-	-	格子目タキ・割離	タタキ	
	1464	I	G-10	須恵器	甕	胴部	灰白	精緻	-	-	-	格子目タキ	ナデ	
	1465	-	4T	須恵質	擂鉢	口縁部(注口)	灰黄	精緻	-	-	-	ハケ後ナデ・指擦痕	ハケ・ナデ	
	1466	I	D-13	須恵質	擂鉢	口縁部～底部	灰白	精緻	33.0	14.6	9.9	ハケ後ナデ・指擦痕	ハケ	
	1467	I	H-18	須恵器	擂鉢	底部	灰	精緻	-	-	-	ナデ・指頭痕	ハケ	

第36表 中世土師器・須恵器・瓦質土器等観察表(4)

検出番号	遺物番号	層位・通様	出土区	種類	器種	部位	色調	胎土	口径(cm)	底径(cm) (高台径)	器高(cm)	調整		備考
												外面・底部	内面	
第252回	1468	I	G-14	土師質	擂鉢	口縁部	にふい黄褐	精製	-	-	-	ナデ	ハケ後ナデ	
	1470	表様	G-9	瓦質土器	擂鉢	口縁部	灰黄	精製	32.0	-	-	ナデ	ナデ	
	1471	I	J-28	瓦質土器	擂鉢	口縁部	灰黄	精製	-	-	-	ナデ・指頭痕	ナデ	
	1472	I	H-28	瓦質土器	擂鉢	口縁部	灰白	精製	-	-	-	ナデ・指頭痕	ハケ	
	1473	I	J-20	瓦質土器	擂鉢	胴部	浅黄	精製	-	-	-	ナデ・指頭痕	ナデ	
	1474	I	D-13	瓦質土器	擂鉢	口縁部	黄灰	精製	-	-	-	ケズリナデ・西面	ナデ	
	1475	-	G-13	瓦質土器	擂鉢	口縁部	灰白	精製	-	-	-	ケズリナデ・西面	ナデ	
	1476	表様	-	瓦質土器	擂鉢	底部	浅黄	精製	-	13.0	-	ナデ・指頭痕	ナデ	
第253回	1477	-	G-13	瓦質土器	茶釜	胴部	オリーブ黒	精製	-	-	-	ハケ	ナデ・指頭痕	外面肩下位下に擦付着 最大径28.4cm
	1478	表様	-	瓦質土器	茶釜	胴部	灰黄	精製	-	-	-	ハケ	ハケ	外面肩下位下に擦付着
	1479	I	G-14	瓦質土器	茶釜	胴部	灰黄褐	精製	-	-	-	ハケ	ハケ後ナデ	外面肩下位下に擦付着
	1480	I	J-20	瓦質土器	羽釜	胴部	暗灰青	精製	-	-	-	ナデ	ハケ・ナデ	外面脚下位下に擦付着
	1481	I	G-14	瓦質土器	火舍	口縁部～胴部	にふい黄褐	精製	-	-	-	ナデ・ハケ状のナデ	ナデ・ハケ状のナデ	
	1482	I	G-14	瓦質土器	火舍	口縁部	浅黄	精製	-	-	-	ナデ	ミガキ後ナデ	安帝S字状沈線
	1483	I	G-14	瓦質土器	火舍	底部	灰	精製	-	-	-	ミガキ後ナデ	ナデ	
	1484	I	G-14	瓦質土器	火舍	口縁部	黄灰	精製	-	-	-	ミガキ後ナデ	ナデ	
	1485	I	G-13	瓦質土器	壺	口縁部	灰	精製	16.6	-	-	ナデ	ヘラミガキ	
	1486	I	G-14	瓦質土器	不明	脚部	オリーブ黒	精製	-	-	-	ミガキ・ナデ	ケズリ	
第254回	1487	I	G-14	瓦質土器	不明	脚部	黄灰	精製	-	-	-	ミガキ後ナデ	ナデ	
	1488	表様	D-13	瓦質土器	不明	不明	黒褐	精製	-	6.5	-	不明	不明	
	1489	-	D-12	土師器	土鍋	口縁部～底部	浅黄橙	精製	28.0	13.6	6.5	横ナデ	横ナデ	中微末
	1490	表様	D-14	土師質	鉢	底部	浅黄橙	精製	-	-	-	横ナデ・名切り	横ナデ	内面に擦付着
	1491	-	G-10	土製品	輪の羽口	-	にふい黄褐	合砂粒	-	-	-	ナデ・指頭痕	ナデ	最大径7.9cm最大幅5.6cm 厚52.5cm
	1492	曲輪a	H-31	土製品	土輪	完形	浅黄橙	精製	-	-	-	ナデ	ナデ	最大径6.3cm外径4.2cm 内径1.6cm
	1493	-	-	陶質	壺	口縁部～胴部	灰白	精製	14.0	-	-	横ナデ	横ナデ	

第37表 中世陶磁器觀察表(1)

擇団 番号	遺物 番号	種類	器種	出土区	層位・遺構	胎土	釉(葉)	焼成	生産地	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
第200回	1287	陶器	罐	H-21	大型円形土坑2	茶褐色	灰赤	良	備前	-	-	-	
	1288	陶器	罐	H-21	大型円形土坑2	茶褐色	灰赤	良	備前	(27.0)	-	-	
	1289	陶器	罐	H-21	大型円形土坑2	茶褐色	暗赤褐色	良	備前	(27.0)	-	-	
	1291	陶器	甕	H-21	大型円形土坑2	暗灰・含黑色粒	暗赤褐色	良	常滑	-	-	-	
第204回	1304	白磁	皿	H-21	大型円形土坑2	淡黄・含白色粒	灰白	良	中国	(10.2)	-	(2.0)	
	1305	青磁	碗	H-21	大型円形土坑2	浅黄褐色・含白色粒	浅黄	やや良	龍泉系	-	6.6	(4.8)	
	1306	青磁	碗	H-21	大型円形土坑2	灰黄・含黑色粒	綠灰	良	龍泉系	-	5.4	(2.6)	
	1307	青花	皿	H-21	大型円形土坑2	灰白・含黑・白色粒	明青灰	良	景德鎮	(9.8)	2.9	2.7	
	1308	陶器	天目碗	H-21	大型円形土坑2	灰・含白色粒	黑褐	良	美濃	-	-	(2.9)	
	1309	陶器	甕	H-21	大型円形土坑2	灰白・含白色粒	灰白	良	瀬戸	-	-	(5.3)	
	1310	青磁	皿	H-21	大型円形土坑2	灰白・含黑・白色粒	灰白	良	朝鮮王朝	(12.0)	(4.6)	3.3	
	1311	青磁	皿	H-21	大型円形土坑2	灰白・含黑・白色粒	灰白	良	朝鮮王朝	(12.0)	-	(3.0)	
第206回	1322	陶器	罐	G-20	空腹及び土坑群	にぶい赤褐色	灰黃褐色	良	備前	-	-	-	
	1326	青磁	碗	G-20	空腹及び土坑群	灰白・含黑色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	-	-	(3.8)	
	1328	青磁	碗	I-22	空腹及び土坑群	灰白	オリーブ灰	良	龍泉系	(12.6)	-	(5.8)	
	1329	青磁	碗	H-20	空腹及び土坑群	灰白	オリーブ灰	良	龍泉系	-	-	(3.9)	
	1330	青磁	碗	G-20	空腹及び土坑群	灰白・含黑色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	-	-	(2.9)	
	1331	青磁	碗	G-20	空腹及び土坑群	灰白・含黑色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	(13.0)	-	(4.9)	
	1332	青磁	碗	I-22	空腹及び土坑群	灰白・含黑色粒	明オリーブ灰	良	龍泉系	-	6.0	(3.6)	
	1333	青磁	皿	H-20	空腹及び土坑群	灰白・含黑・白色粒	明オリーブ灰	良	龍泉系	(14.0)	-	(2.7)	
第207回	1334	白磁	碗	G-20	空腹及び土坑群	灰白・含黑色粒	灰白	良	中国	-	-	(4.2)	
	1335	青花	皿	H-20	空腹及び土坑群	浅黄褐色・含白・黑色粒	浅黄	やや不	漳州	-	5.7	(2.3)	
	1336	青花	皿	G-20	空腹及び土坑群	灰・含黑色粒	灰オリーブ	良	漳州	(9.8)	(5.1)	(2.4)	
	1337	陶器	甕	G-20	空腹及び土坑群	暗灰・含黑色粒	暗赤褐色	良	常滑	-	-	-	
	1338	陶器	甕	G-20	空腹及び土坑群	暗灰・含黑色粒	にぶい赤褐色	良	常滑	-	-	-	
	1339	陶器	甕	G-20	空腹及び土坑群	暗灰・含黑色粒	灰黃褐色	良	常滑	-	-	-	
	1340	陶器	甕	G-20	空腹及び土坑群	暗灰・含黑色粒	灰褐	良	常滑	-	-	-	
	1341	陶器	甕	G-19	空腹及び土坑群	暗灰・含黑色粒	褐	良	常滑	-	-	-	
第208回	1342	陶器	甕	G-20	空腹及び土坑群	暗灰・含黑色粒	暗赤褐色	良	常滑	-	-	-	
	1343	陶器	甕	G-20	空腹及び土坑群	暗灰・含黑色粒	にぶい赤褐色	良	常滑	-	-	-	
	1344	陶器	甕	G-19	空腹及び土坑群	暗灰・含黑色粒	赤褐	良	常滑	-	-	-	
	1345	陶器	甕	G-20	空腹及び土坑群	暗灰・含黑色粒	オリーブ黒	良	常滑	-	-	-	
第209回	1346	陶器	甕	G-20	空腹及び土坑群	暗灰・含黑色粒	暗赤褐色	良	常滑	-	-	-	
	1347	陶器	甕	G-20	空腹及び土坑群	暗灰・含黑色粒	オリーブ黒	良	常滑	-	-	-	
第210回	1348	陶器	大甕	G-20	空腹及び土坑群	褐灰	無	良	常滑	-	22.0	-	
	1349	陶器	甕	I-21-22	空腹及び土坑群	にぶい青褐色・含白・黒・赤褐色	黒	良	中国南部	-	-	(11.7)	
第220回	1382	青磁	碗	I-18	堅穴3	灰白・含黑・白色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	-	-	(3.0)	
第233回	1400	白磁	皿	F-14	土坑3	淡黄	灰黃白	良	中国	11.4	-	-	

第38表 中世陶磁器觀察表(2)

擇図 番号	遺物 番号	種類	器種	出土区	層位・遺構	胎土	釉(葉)	焼成	生産地	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
第246図	1408	青磁	碗	F-10	-	灰	灰オーリーブ	良	龍泉系	15.8	5.7	6.6	
	1409	青磁	碗	F-10	-	灰	綠灰	良	龍泉系	15.9	5.7	6.7	
第249図	1429	青磁	碗	H-27	不明遺構	灰白・含黒・白色粒	灰オーリーブ	良	龍泉系	(12.0)	-	(4.2)	
	1430	青磁	碗	H-27	不明遺構	灰・含黑色粒	オーリーブ灰	良	龍泉系	-	-	(3.2)	
	1432	青磁	碗	H-27	不明遺構	灰白・含黑色粒	オーリーブ灰	良	龍泉系	(11.6)	-	(2.6)	
	1433	青磁	碗	H-27	不明遺構	灰白・含黒・白色粒	オーリーブ灰	良	龍泉系	(17.2)	-	(5.0)	
	1434	青磁	碗	H-27	不明遺構	灰白・含黑色粒	灰オーリーブ	良	龍泉系	(11.6)	-	(3.0)	
	1435	青磁	碗	H-27	不明遺構	灰白・含黒・白色粒	オーリーブ灰	良	龍泉系	-	5.2	(4.4)	
	1436	青磁	小型盤	H-27	不明遺構	灰白・含黑色粒	灰オーリーブ	良	龍泉系	(11.6)	-	(2.1)	
	1437	青磁	碗	H-27	不明遺構	灰白・含黒・白色粒	灰白	良	龍泉系	-	5.8	(2.1)	
	1438	青磁	碗	H-27	不明遺構	灰白・含黒・白色粒	明緑灰	良	龍泉系	-	(5.0)	(2.4)	
	1439	白磁	碗	H-27	不明遺構	灰白・含黑色粒	灰白	良	中国	-	-	(2.6)	
第252図	1440	陶器	碗	H-27	不明遺構	灰白・灰黄・微纖黑色粒	黑褐	良	美濃	(10.2)	-	(2.9)	
	1469	陶器	罐鉢	J-20	P4	赤褐・含白色粒	赤灰	良	備前	-	(14.0)	-	
第256図	1498	青磁	碗	ST	-	灰・含白色粒	灰	良	朝鮮	(18.2)	5.0	5.9	
	1499	青磁	皿	D-13	表揮	灰白・含黑色粒	灰オーリーブ	良	同安系	-	(4.3)	(1.1)	
	1500	青磁	皿	H-8	II	灰白・含白・黑色粒	灰白	良	同安系	-	(5.7)	(0.9)	
	1501	青磁	皿	H-7	I	灰白・微纖黑色粒	灰白	良	同安系	-	-	(2.6)	
	1502	青磁	皿	G-8	-	灰	灰オーリーブ	良	同安系	-	(4.5)	(1.3)	
	1503	青磁	碗	G-11	IIIa	灰白・含黑色粒	オーリーブ灰	良	龍泉系	-	-	(2.7)	
第257図	1504	青磁	碗	G-10	IIIa	灰黄	オーリーブ灰	良	龍泉系	-	-	(3.5)	
	1505	青磁	碗	F-16	I	灰色	灰オーリーブ	良	龍泉系	-	-	(3.0)	
	1506	青磁	碗	E-13	I	灰白・含黑色・白色粒	オーリーブ灰	良	龍泉系	-	-	(4.5)	
	1507	青磁	碗	F-14	I	灰・含白色粒	灰オーリーブ	良	龍泉系	(16.6)	-	(4.2)	
	1508	青磁	碗	F-11	P32	灰白・含黑色粒	灰オーリーブ	良	龍泉系	(14.0)	-	(4.2)	
	1509	青磁	碗	G-13	-	灰白・含黑色粒	オーリーブ灰	良	龍泉系	-	-	(3.5)	
	1510	青磁	碗	-	曲輪a	灰白	明オーリーブ灰	良	龍泉系	(12.4)	-	(4.7)	
	1511	青磁	碗	E-12	I	灰白・含黑色粒	灰オーリーブ	良	龍泉系	-	-	(3.8)	
	1512	青磁	碗	D-13	I	灰白・含黑色粒	灰オーリーブ	良	龍泉系	-	-	(2.1)	
	1513	青磁	碗	-	表揮	灰白・含黑色粒	明緑灰	良	龍泉系	(13.8)	-	(3.3)	
第258図	1514	青磁	碗	-	表揮	灰白・含黑色粒	オーリーブ灰	良	龍泉系	(15.0)	-	(5.1)	
	1515	青磁	碗	G-13	I	蘭・含白色粒	灰白	不	龍泉系	(13.7)	-	(6.6)	
	1516	青磁	碗	ST	I	灰白	オーリーブ灰	良	龍泉系	(14.2)	-	(3.6)	
	1517	青磁	碗	-	表揮	灰黃	オーリーブ灰	良	龍泉系	(13.6)	-	(3.4)	
	1518	青磁	碗	F-16	I	灰白・含黑色粒	灰オーリーブ	良	龍泉系	(13.6)	-	(4.9)	
	1519	青磁	碗	G-13	I	灰・含白色粒	灰白	良	龍泉系	(14.0)	4.7	6.2	
第259図	1520	青磁	碗	J-21	P4	灰黄・含白色粒	明オーリーブ灰	良	龍泉系	(13.4)	-	(5.3)	
	1521	青磁	碗	G-13	I	灰・含黑色粒	オーリーブ灰	良	龍泉系	-	-	(2.8)	

第39表 中世陶磁器觀察表(3)

擇図 番号	遺物 番号	種類	器種	出土区	層位・遺構	胎土	釉(葉)	焼成	生産地	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
第258 図	1522	青磁	碗	F-12	I	灰白・含白色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	-	-	(3.6)	
	1523	青磁	碗	I-18	I	灰白・含黑色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	(15.8)	-	(4.3)	
	1524	青磁	碗	F-12	I	灰白・含黒・白色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	(14.8)	-	(4.3)	
	1525	青磁	碗	F-14	土坑3	灰白・含黑色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	-	-	(4.2)	
	1526	青磁	碗	-	曲輪	灰・含黒・白色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	(13.0)	-	(3.9)	
	1527	青磁	碗	-	表塚	灰白・含黒・白色粒	明緑灰	良	龍泉系	-	(6.5)	(2.9)	
	1528	青磁	碗	H-11	IIIa	灰白・含黒・白色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	-	(6.4)	(2.6)	
第259 図	1529	青磁	碗	G-8	I	灰白・含黒・白色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	-	(6.0)	(2.2)	
	1530	青磁	碗	I-21	I	灰白・含黒・白色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	-	6.0	(2.4)	
	1531	青磁	碗	D-13	P 1	灰白・含白色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	-	5.3	(2.6)	
	1532	青磁	碗	G-13	-	やや褐色・含白・赤・黑色粒	緑灰	良	龍泉系	-	(5.0)	(3.7)	
	1533	青磁	碗	H-26	-	灰白・含黒・白色粒	灰	良	龍泉系	-	2.7	(1.7)	
	1534	青磁	皿	-	表塚	灰・含黑色粒	緑灰	良	龍泉系	(11.6)	4.9	3.4	
	1535	青磁	皿	G-13	I	灰黄・含黒・白色粒	緑灰	やや不	龍泉系	(13.4)	-	(1.9)	
	1536	青磁	皿	-	表塚	灰白・含黒・白色粒	明オリーブ灰	良	龍泉系	(12.8)	(6.6)	2.8	
	1537	青磁	皿	G-12	I	灰白・含黒・白色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	-	-	(2.3)	
	1538	青磁	皿	G-12	IIIa	灰白・含黒・白色粒	オリーブ灰	やや良	龍泉系	(12.0)	-	(2.0)	
第260 図	1539	青磁	皿	G-F-12	III	灰白・含黒・白色粒	オリーブ灰	やや良	龍泉系	(13.0)	-	(1.8)	
	1540	青磁	皿	G-12	I	灰白・含黒・白色粒	オリーブ灰	やや不	龍泉系	(13.0)	-	(15.5)	
	1541	青磁	皿	G-9	表塚	灰白・含黒・白色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	(13.4)	-	(2.5)	
	1542	青磁	皿	E-13	I	浅黃橙・含黒・白色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	-	(4.8)	(1.3)	
	1543	青磁	皿	-	空塚I	浅黃・含黑色粒	緑灰	良	龍泉系	-	5.4	(2.2)	
	1544	青磁	碗	H-18	IIIa	灰白・含黑色粒	緑灰	良	龍泉系	-	5.0	(2.0)	
	1545	青磁	碗	-	表塚	灰白・含赤褐色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	-	5.0	(2.2)	
	1546	青磁	碗	G-13	-	浅黃橙・灰白・含白色粒	灰白	やや良	龍泉系	-	6.1	(1.9)	
	1547	青磁	碗	D-14	表塚	灰白・含白色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	-	5.5	(1.9)	
	1548	青磁	大型香炉	G-13	I	灰白・含黑色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	-	-	(3.5)	
第261 図	1549	青磁	盤	3T	-	灰白・含黑色粒	オリーブ	良	龍泉系	(16.2)	-	(2.6)	
	1550	青磁	皿	F-12	I	灰白・含黑色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	(10.8)	-	(2.1)	
	1551	青磁	皿	H-19	IIIa	灰白・含黑色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	(11.6)	-	(2.1)	
	1552	青磁	皿	G-13	I	灰・含黑色粒	灰白	良	中國	(11.3)	(6.1)	(2.9)	
	1553	青磁	皿	F-12	I	灰白・含黑色粒	灰	良	龍泉系	(12.0)	-	(1.9)	
第262 図	1554	青磁	皿	G-13	I	灰白・含黑色粒	灰	良	龍泉系	(11.4)	-	(2.8)	
	1555	青磁	皿	D-13	P5	灰色・含黑色粒	灰	良	龍泉系	-	5.8	(1.7)	
	1556	白磁	碗	G-8	IIIa	灰色・含黑色粒	灰白	良	中國	-	-	(3.8)	
	1557	白磁	碗	K-28	I	灰白・含黑色粒	灰白	良	中國	(16.4)	-	(2.8)	
	1558	白磁	碗	F-17	I	灰白・含黑色粒	灰白	良	中國	-	-	(2.1)	
	1559	白磁	碗	H-26	-	灰白・含黑色粒	灰白	良	中國	-	-	(3.3)	

第40表 中世陶磁器觀察表(4)

擇圓 番号	遺物 番号	種類	器種	出土区	層位・遺構	胎土	釉(葉)	焼成	生産地	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
第262 図	1560	白磁	碗	3T	-	灰白・含黑色粒	灰白	良	中国	-	-	(1.6)	
	1561	白磁	碗	7T	-	灰白・含黑色粒	灰白	良	中国	-	-	(2.6)	
	1562	白磁	碗	F-10	IIIa	灰白・含黑色粒	灰白	良	中国	(16.4)	-	(3.4)	
	1563	白磁	碗	H-8	I	灰白・含黑色粒	灰白	良	中国	(16.0)	-	(3.7)	
	1564	白磁	碗	D-13	I	灰白・含黑色粒	灰白	良	中国	(14.2)	-	(2.7)	
	1565	白磁	碗	G-11	III	灰白・含黑色粒	灰白	良	中国	-	-	(3.5)	
	1566	白磁	碗	H-8	IIIa	灰白・含黑色粒	灰白	良	中国	(17.2)	-	(3.2)	
	1567	白磁	环	3T	-	灰白・含黑色粒	灰白	良	中国	(10.6)	-	(2.4)	
	1568	白磁	皿	-	表採	灰白・含黑色粒	灰白	良	中国	(9.7)	(4.6)	2.1 多角	
	1569	白磁	皿	G-13	I	灰白・含褐色粒	灰白	良	中国	(9.3)	(4.3)	(2.1) 多角	
	1570	白磁	小碗	D-13	I	灰・含黑色粒	灰白	良	中国	-	(5.6)	(2.9) 多角	
	1571	白磁	小碗	D-13	-	灰白・含黑色粒	灰白	良	中国	-	-	(2.8) 多角	
	1572	白磁	小碗	D-13	-	灰白・含黑色粒	灰白	良	不明	-	-	(1.9) 多角	
第263 図	1573	白磁	环	D-12	I	灰白・含黑色粒	灰白	良	中国	(11.2)	(5.8)	(3.1)	
	1574	白磁	环	8T	-	灰白・含黑色粒	灰白	良	景德鎮	(11.4)	-	(2.0)	
	1575	白磁	环	9T	-	灰白・含黑色粒	灰白	良	景德鎮	(13.0)	-	(1.8)	
	1576	白磁	环	D-12	I	灰白・含黑色粒	灰白	良	景德鎮	-	-	(3.1)	
	1577	白磁	皿	D-13	I	灰白・含黑色粒	灰白	良	不明	-	(4.1)	(1.7)	
	1578	白磁	碗	D-13	I	浅黃橙・含黑色粒	灰白	良	不明	-	-	(1.6)	
	1579	白磁	菊花皿	D-13	I	灰白・含微彩粒	灰白	不	志野	(7.2)	(4.0)	(2.1)	
第264 図	1580	青花	碗	D-13	-	灰白	灰白	良	景德鎮	(10.4)	-	(3.6)	
	1581	青花	碗	D-13	-	灰白・含黑色粒	灰白	良	景德鎮	(11.4)	-	(4.2)	
	1582	青花	碗	D-13	-	灰白	灰白	良	景德鎮	(11.5)	-	(3.7)	
	1583	青花	碗	D-13	I	灰白	灰白	良	景德鎮	(11.7)	-	(4.5)	
	1584	青花	碗	D-13	-	灰白	灰白	良	景德鎮	(10.4)	-	(4.9)	
	1585	青花	碗	D-13	-	灰白・含黑色粒	灰白	良	波佐見	(9.5)	(4.7)	(5.1)	
	1586	青花	碗	H-13	I	灰白	灰白	良	景德鎮	(12.8)	-	(3.8)	
	1587	青花	皿	8T	-	灰白	明青灰	良	不明	-	(6.7)	(3.2)	
	1588	青花	碗	F-12	I	灰白	明綠灰	良	景德鎮	-	(4.0)	(2.8)	
	1589	青花	碗	9T	-	灰白	灰白	良	景德鎮	-	(2.8)	(1.0)	
第265 図	1590	青花	盤	8T	I	灰白	灰白	良	景德鎮	(21.8)	-	(2.6)	
	1591	青花	皿	3T	-	灰白	灰白	やや良	景德鎮	(9.8)	(3.1)	2.6	
	1592	青花	皿	E-13	I	灰白	灰白	良	景德鎮	(13.8)	(7.6)	(2.7)	
第266 図	1593	青花	碗	-	表採	褐色・含白色粒	淡青	良	漳州	(12.3)	(5.1)	(4.7)	
	1594	青花	碗	F-12	I	灰白・含白・赤色粒	灰白	良	漳州	-	-	(3.9)	
	1595	染付	碗	8T	-	灰白	灰白	良	漳州	-	-	(2.7)	
	1596	青花	碗	F-12	I	灰色・含赤色粒	灰白	良	漳州	(11.5)	-	(2.8)	
	1597	青花	碗	-	表採	灰・含黑色粒	明綠灰	良	漳州	-	(4.5)	(2.4)	
	1598	青花	碗	F-12	I	褐色	灰白	良	漳州	-	(5.3)	(2.4)	

第41表 中世陶磁器觀察表(5)

擇図 番号	遺物 番号	種類	器種	出土区	層位・遺構	胎土	釉(葉)	焼成	生産地	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
第 267 図	1600	青花	皿	F-12	I	灰色	明緑灰	良	漳州	(10.5)	(5.0)	(2.2)	
	1601	青花	皿	D-12	P6	灰	灰白	良	漳州	(8.9)	(4.7)	(2.8)	
	1602	青花	碗	-	表採	灰	明緑灰	良	漳州	-	(5.2)	(2.0)	
	1603	青花	皿	F-12-13	I	浅黄橙・含黑色粒	灰白	やや良	漳州	-	(4.7)	(2.4)	
	1604	青花	皿	F-12	I	灰褐色・含黑色粒	灰	良	漳州	(10.0)	(4.0)	(3.0)	
	1605	青花	皿	9T	I	浅黄橙・含白色粒	灰白	やや良	漳州	-	(3.9)	(2.1)	
	1606	青花	皿	I-20	-	灰・含黑色粒	灰オーリーブ	良	漳州	(9.3)	(4.6)	(2.8)	
	1607	青花	皿	D-13	I	灰白	灰白	良	漳州	-	-	(3.6)	
第 268 図	1608	陶器	壺	F-9	IIIa	灰・含白・黒色粒	灰白	やや不	中国南部	(7.0)	-	(2.3)	
	1609	陶器	壺	G-9	IIIa	灰・含白・黒色粒	灰オーリーブ	やや不	中国南部	-	-	(2.3)	
	1610	陶器	壺	F-11	IIIa	灰・含白色粒	オリーブ黄	良	中国南部	(10.9)	-	(3.4)	
	1611	陶器	壺	F-8	I	灰・白・浅黄・含白色粒	灰オーリーブ	やや不	中国南部	-	-	(4.2)	
	1612	陶器	水注	8T	I	灰黄・含褐・黒色粒	淡黄	良	中国南部	-	-	(2.3)	
	1613	陶器	壺	8T	I	黄灰・含白・黒色粒	黑褐	良	中国南部	-	-	(2.8)	
	1614	陶器	壺	-	柱穴	黄灰・含白・黒色粒	暗赤褐	良	中国南部	(11.6)	-	-	
	1615	陶器	壺	8T	I	灰白・含白色粒	黑褐	良	中国南部	(12.0)	-	(4.3)	
第 269 図	1616	陶器	壺	8T	I	灰・含白色粒	黑褐	良	中国南部	-	-	(6.4)	
	1617	陶器	鉢	I-27	-	灰褐・含白色粒	黄褐	良	中国南部	(22.0)	-	(6.5)	
	1618	陶器	罐体	J-17	P1	暗灰	暗紫灰	良	東播系	(24.6)	-	-	
	1619	陶質	壺	E-13	I	灰白・含黑色粒	灰	良	-	(19.8)	-	-	
第 270 図	1620	陶質	壺	E-13	I	灰白	灰白	良	不明	(19.8)	-	-	
	1621	陶器	天目碗	F-10	-	暗灰褐色・含白色粒	黑・褐	良	中国	-	(3.3)	(3.8)	
	1622	陶器	天目碗	H-29	I	浅黄・含白・黒色粒	黑褐	良	美濃	(12.0)	-	(3.9)	
	1623	陶器	天目碗	-	表採	灰黃・含黑色粒	良	美濃	-	-	(2.7)		
	1624	陶器	天目碗	G-H-10	I	にごり・黄裡・含白・黒色粒	黑褐	良	美濃	(10.2)	-	(4.3)	
	1625	陶器	天目碗	-	表採	灰・含白・黒色粒	灰褐	良	美濃	-	-	(2.6)	
	1626	陶器	天目碗	H-18	I	灰・含白・黒色粒	にぶい褐	良	美濃	-	(3.9)	(1.5)	
	1627	陶器	天目碗	-	表採	灰・含白色粒	暗褐	良	美濃	-	3.8	(1.0)	

第42表 中世石器觀察表

擇番号	遺物番号	器種	出土区	層位・遺構	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第186 図	1254	磨石	-	空瓶1	砂岩	11.8	4.4	3.6	304.35	
	1255	石皿	-	空瓶1	砂岩	7.8	6.5	2.4	182.50	
	1256	磨石	-	空瓶1	砂岩	9.0	8.0	2.9	317.06	
	1257	磨石・円石	-	空瓶1	砂岩	12.1	10.8	5.3	1035.00	
	1258	円石	-	空瓶1	砂岩	10.8	10.5	5.1	860.00	
第187 図	1259	磨石	-	空瓶1	安山岩	9.9	6.2	4.9	430.00	
	1260	磨石	-	空瓶1	砂岩	10.6	7.6	4.2	585.00	
	1261	磨石	-	空瓶1	砂岩	10.2	8.5	5.9	720.00	
	1262	磨石	-	空瓶1	砂岩	11.2	9.1	6.5	980.00	
第188 図	1263	投彈	-	空瓶1	砂岩	14.4	12.0	7.8	1800.00	
	1264	磨石	-	空瓶1	砂岩	12.3	9.2	7.2	1120.00	
	1265	投彈	-	空瓶1	安山岩	12.2	13.4	7.5	2400.00	
第189 図	1266	磨石	-	空瓶1	砂岩	7.5	5.8	4.0	259.83	
	1267	磨石	-	空瓶a	砂岩	12.5	10.1	6.7	1140.00	
	1268	投彈	-	空瓶a	砂岩	10.1	8.7	4.5	595.00	
	1269	磨石	-	空瓶a	安山岩	13.1	10.8	5.8	1260.00	
第190 図	1270	投彈	-	空瓶a	安山岩	12.2	11.3	8.4	1610.00	
	1271	投彈	-	空瓶a	安山岩	14.2	11.6	9.4	2200.00	
	1272	石皿	-	空瓶a	砂岩	(17.7)	(10.7)	7.6	2000.00	
	1273	石皿	-	空瓶b	砂岩	(8.1)	(5.2)	6.9	324.99	
第191 図	1275	投彈	-	空瓶b	安山岩	10.1	7.5	5.4	570.00	
	1276	磨石	-	空瓶b	砂岩	6.2	5.7	2.2	137.36	
	1277	円石	-	空瓶b	安山岩	12.3	9.7	5.7	990.00	
	1278	投彈	-	空瓶b	砂岩	11.8	7.9	4.6	570.00	
	1279	磨石	-	空瓶b	砂岩	(7.5)	13.4	8.0	980.00	
第192図	1280	投彈	-	曲輪c	砂岩	8.3	2.3	6.5	16.79	
	1281	スクレイパー	-	曲輪c	砂岩	8.3	2.3	6.5	16.79	
第202 図	1287	磨石	H-21	大堀円形土坑2	砂岩	6.7	4.2	3.8	153.26	
	1288	磨石	H-21	大堀円形土坑2	砂岩	9.5	2.6	3.3	345.00	
	1289	磨石	H-21	大堀円形土坑2	安山岩	11.1	6.5	5.3	580.00	
第203 図	1300	磨石	H-21	大堀円形土坑2	砂岩	10.4	2.5	6.2	670.00	
	1301	磨石	H-21	大堀円形土坑2	砂岩	9.3	7.2	6.2	635.00	
	1302	磨石	H-21	大堀円形土坑2	砂岩	9.7	6.3	5.2	440.00	
	1303	磨製石斧	H-21	大堀円形土坑2	砂岩	12.1	5.4	3.1	340.11	
第209図	1352	磨製石斧	G-20	空瓶および土坑群	安山岩	13.3	6.1	4.0	399.10	
	1353	投彈	G-20	空瓶および土坑群	砂岩	8.6	8.6	7.2	680.00	
第210 図	1354	投彈	G-20	空瓶および土坑群	砂岩	9.4	6.8	5.0	465.00	
	1355	投彈	G-20	空瓶および土坑群	安山岩	8.5	6.3	5.2	400.00	
	1356	投彈	G-20	空瓶および土坑群	安山岩	9.1	8.7	4.1	470.00	
	1357	磨石	G-20	空瓶および土坑群	砂岩	10.2	6.8	3.9	400.00	
第211 図	1358	投彈	H-20	空瓶および土坑群	砂岩	10.1	7.0	3.7	350.00	
	1359	磨石	H-21	空瓶および土坑群	砂岩	10.5	6.5	5.0	498.00	
	1360	投彈	G-20	空瓶および土坑群	砂岩	11.2	9.1	6.4	915.00	
第212 図	1361	投彈	G-20	空瓶および土坑群	安山岩	10.3	8.7	5.5	800.00	
	1362	投彈	F-21	空瓶および土坑群	砂岩	12.4	10.1	9.1	1485.00	
	1363	投彈	H-20	空瓶および土坑群	安山岩	10.6	9.5	6.0	840.00	
	1364	投彈	G-20	空瓶および土坑群	砂岩	10.8	9.1	7.5	1020.00	
	1365	投彈	H-20	空瓶および土坑群	砂岩	11.2	7.2	4.9	595.00	
第213 図	1366	投彈	H-20	空瓶および土坑群	砂岩	10.8	9.0	4.8	695.00	
	1367	投彈	I-22	空瓶および土坑群	安山岩	10.8	8.6	4.6	620.00	
	1368	投彈	G-20	空瓶および土坑群	砂岩	8.8	7.8	5.7	590.00	
	1369	鐵石	G-20	空瓶および土坑群	安山岩	(6.9)	7.8	3.2	350.00	
第214 図	1370	投彈	G-20	空瓶および土坑群	砂岩	10.9	9.9	6.0	880.00	
	1371	投彈	G-20	空瓶および土坑群	安山岩	12.5	9.1	6.3	980.00	
	1372	投彈	F-21	空瓶および土坑群	砂岩	12.3	9.8	5.7	1040.00	
	1373	投彈	G-20	空瓶および土坑群	安山岩	10.5	8.3	6.4	810.00	
第215 図	1374	投彈	G-20	空瓶および土坑群	安山岩	17.5	12.4	8.1	2600.00	
	1375	磨石	F-21	空瓶および土坑群	安山岩	7.8	5.9	2.7	204.56	
第216 図	1376	投彈	I-22	空瓶および土坑群	砂岩	20.0	(8.3)	10.5	2600.00	
	1377	投彈	G-20	空瓶および土坑群	砂岩	(14.7)	(10.1)	9.9	2200.00	
	1378	圓石	F-21	空瓶および土坑群	砂岩	8.5	8.4	(4.1)	480.00	
	1379	圓石	-	空瓶1	砂岩	15.9	12.8	7.1	1785.00	
第222図	1383	投彈	H-10	曲輪3	安山岩	16.5	16.8	15.3	6000.00	
	1384	投彈	-	曲輪3	安山岩	13.5	11.4	9.6	2000.00	
第223図	1385	投彈	H-9	曲輪3	砂岩	15.0	13.4	11.0	3000.00	煤付着
	1386	投彈	H-9	曲輪3	砂岩	16.1	13.8	8.5	3000.00	煤付着
第224図	1387	投彈	H-9	曲輪3	安山岩	15.3	12.8	10.1	2800.00	
	1388	投彈	-	曲輪3	安山岩	17.4	13.0	7.5	2200.00	
第229図	1405	軽石加工品	I-26	土器47	霞丘石	-	-	0.9	42.39	
第230 図	1494	石網	G-10	皿a	霞丘石	-	-	1.0	108.58	口径21.0cm
	1495	石網	-	4号住居	霞丘石	-	-	1.3	87.80	
	1496	石網	G-19	皿	霞丘石	-	-	2.1	339.72	
	1497	石網	G-11	皿a	霞丘石	-	-	1.5	187.30	口径27.2cm

第43表 中世土坑觀察表

擲出番号	番号	区	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	遺物	備考
第230図	1	I-7	330.0	80.0	22.0	花鉢?火舍?	
第231図	2	I-7	170.0	120.0	16.0	-	
第232図	3	F-14	430.0	240.0	50.0	瓦質・土師質(擂鉢)	
第 234 図	4	I-16	106.0	86.0	36.0	-	
	5	I-16	190.0	80.0	130.0	-	
	6	I-16	84.0	74.0	12.0	-	
	7	I-16	130.0	32.0	60.0	-	
	8	I-16	64.0	56.0	20.0	-	
	9	I-16	130.0	90.0	56.0	土師器(坏)	
第 235 図	10	I-16	280.0	140.0	80.0	-	
	11	I-16	106.0	80.0	70.0	-	
	12	I-17	84.0	54.0	18.0	-	
	13	I-17	114.0	70.0	60.0	-	
	14	I-17	120.0	90.0	20.0	-	
	15	I-17	100.0	66.0	50.0	-	
	16	I-17	114.0	100.0	68.0	-	
	17	I-17	80.0	24.0	58.0	-	
第 236 図	18	I-17	68.0	24.0	30.0	-	
	19	I-17	106.0	50.0	96.0	-	
	20	J-17	96.0	36.0	20.0	-	
	21	H-18	90.0	80.0	30.0	-	
	22	H-18	64.0	34.0	50.0	-	
	23	H-18	84.0	24.0	60.0	-	
	24	H-18	106.0	30.0	74.0	土師器(坏)	
	25	H-18	82.0	70.0	30.0	-	
	26	I-18	120.0	50.0	56.0	-	
	27	I-18	68.0	54.0	50.0	-	
第 237 図	28	I-18	108.0	24.0	70.0	-	
	29	J-18	120.0	76.0	80.0	-	
	30	H-19	96.0	84.0	46.0	-	
	31	H-19	112.0	50.0	84.0	-	
	32	H-19	100.0	70.0	40.0	-	
	33	H-19	68.0	58.0	18.0	-	
	34	H-19	74.0	70.0	20.0	-	
	35	H-19	66.0	58.0	34.0	-	
	36	H-19	84.0	70.0	34.0	-	
	37	H-19	114.0	34.0	22.0	-	
第 238 図	38	I-19	184.0	94.0	50.0	-	
	39	I-21	106.0	44.0	80.0	-	
	40	I-21	144.0	90.0	70.0	-	
	41	H-25	100.0	84.0	30.0	-	
	42	I-25	180.0	118.0	120.0	-	
	43	I-25	110.0	90.0	26.0	-	
	44	H-26	140.0	90.0	66.0	-	
第 239 図	45	H-26	106.0	66.0	20.0	-	
	46	I-26	90.0	80.0	24.0	-	
	47	I-26	110.0	100.0	34.0	滑石加工品	
	48	I-26	106.0	50.0	30.0	土師質(擂鉢)	
	49	J-26	70.0	50.0	20.0	-	

第44表 古代・中世出土錢貨觀察表(1)

擇回番号	遺物番号	出土区	層位	錢貨名	時代	縫解年	径cm	重さg	備考
第167回	1113	J-25-26	土坑4	開元通寶	唐	621	2.30	1.45	or845年?
	1114	J-25-26	土坑4	天聖元寶	北宋	1023	2.50	3.39	
	1115	J-25-26	土坑4	天聖元寶	北宋	1023	2.40	3.29	
	1116	J-25-26	土坑4	嘉祐通寶	北宋	1034	2.50	2.79	
	1117	J-25-26	土坑4	景祐元寶	北宋	1034	2.40	2.70	
	1118	J-25-26	土坑4	嘉祐通寶	北宋	1056	2.30	3.66	
	1119	J-25-26	土坑4	元祐通寶	北宋	1078	2.30	2.70	
	1120	J-25-26	土坑4	元祐通寶	北宋	1093	2.50	3.67	
	1121	J-25-26	土坑4	不明	-	-	2.40	(1.33)	
	1122	J-25-26	土坑4	不明	-	-	2.30	2.68	
	第3558回	H-25	西漢	大泉五十	漢	1454	2.40	2.79	
	1325	F-11	1号墓	洪武通寶	明	1368	2.20	1.96	
	1390	F-11	1号墓	洪武通寶	明	1368	2.20	2.19	
	1391	F-11	1号墓	洪武通寶	明	1368	2.20	2.19	
	1392	H-19	4号墓	洪武通寶	明	1368	2.30	2.94	
	1393	H-19	4号墓	洪武通寶	明	1368	2.30	2.56	
	1394	H-19	4号墓	洪武通寶	明	1368	2.30	3.51	
	1395	H-19	4号墓	洪武通寶	明	1368	2.30	3.02	
	1396	H-19	4号墓	洪武通寶	明	1368	2.20	2.63	
	1397	H-19	4号墓	洪武通寶	明	1368	2.20	2.96	
	1398	H-19	4号墓	洪武通寶	明	1368	2.30	2.44	
	1628	H-27	不明遺構	景祐元寶	北宋	1034	2.50	2.40	
	1629	H-27	不明遺構	不明	-	-	2.30	1.92	
	1630	J-17	I	嘉祐元寶	北宋	1056	2.30	2.60	
	1631	J-17	I	慶元通寶?	南宋	1195	2.30	2.84	
	1632	J-17	I	不明	-	-	2.30	1.66	
	1633	G-14	I	洪武通寶	明	1368	2.30	2.74	背文字?
	1634	G-14	I	洪武通寶	明	1368	2.30	2.50	
	1635	G-14	I	洪武通寶	明	1368	2.30	1.88	
	1636	G-14	I	洪武通寶	明	1368	2.40	3.28	
	1637	G-14	I	洪武通寶	明	1368	2.30	2.34	
	1638	G-14	I	洪武通寶	明	1368	2.30	2.30	
	1639	G-14	I	洪武通寶	明	1368	2.30	2.00	
	1640	G-14	I	洪武通寶	明	1368	2.40	2.83	
	1641	G-14	I	洪武通寶	明	1368	2.30	2.12	
	1642	G-14	I	洪武通寶	明	1368	2.20	2.12	
	1643	G-14	I	洪武通寶	明	1368	2.30	3.34	
	1644	G-14	I	洪武通寶	明	1368	2.30	3.86	
	1645	G-14	I	洪武通寶	明	1368	2.30	3.11	
	1646	G-14	I	洪武通寶	明	1368	2.30	2.58	
	1647	G-14	I	永樂通寶	明	1408	2.50	2.13	
	1648	G-14	I	永樂通寶	明	1408	2.00	1.77	
	1649	G-14	I	永樂通寶	明	1408	-	0.99	
	1650	G-14	I	朝鮮通寶	朝鮮	1423	2.30	2.03	
	1651	G-14	I	朝鮮通寶	朝鮮	1423	2.40	3.95	
	1652	G-13	I	開元通寶	唐	621	2.40	2.32	or845年?
	1653	G-13	I	元祐通寶?	北宋	1098	2.40	3.70	
	1654	G-13	I	至大通寶	元	1310	2.30	3.74	
	1655	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.20	2.41	
	1656	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.20	2.21	
	1657	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.50	2.35	
	1658	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.40	3.37	背右文字?
	1659	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.30	3.23	
	1660	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.40	2.68	
	1661	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.40	0.98	
	1662	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.35	2.87	
	1663	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.20	2.76	

第45表 古代・中世出土錢貨觀察表(2)

擇回番号	遺物番号	出土区	層位	錢貨名	時代	縫解年	径cm	重さg	備考
第2回	1664	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.20	(2.23)	
	1665	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.20	2.45	
	1666	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.20	2.35	
	1667	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.20	2.07	
	1668	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.30	(2.36)	
	1669	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.30	1.96	
	1670	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.30	2.83	背右一錢
	1671	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.40	(1.87)	
	1672	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.30	2.31	
	1673	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.30	(2.16)	
	1674	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.30	2.61	
	1675	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.30	3.37	
	1676	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.10	2.29	
	1677	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.40	2.57	
	1678	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.30	(2.23)	
	1679	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.30	(2.03)	
第23回	1680	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.30	2.47	
	1681	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.10	2.77	
	1682	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.30	3.74	
	1683	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.20	3.20	
	1684	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.40	3.15	
	1685	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.30	2.19	
	1686	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.30	2.60	
	1687	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.30	2.49	背右文字?
	1688	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.40	3.48	背右上浙
	1689	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.40	2.80	背右上浙
	1690	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.30	3.39	
	1691	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.20	3.25	
	1692	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.30	3.85	
	1693	G-13	I	洪武通寶	明	1368	2.30	2.87	
	1694	G-13	I	永樂通寶	明	1408	2.10	(2.30)	
	1695	G-13	I	永樂通寶	明	1408	2.60	2.75	
	1696	G-13	I	永樂通寶	明	1408	2.40	(2.36)	
	1697	G-13	I	永樂通寶	明	1408	2.40	2.74	
	1698	G-13	I	永樂通寶	明	1408	2.40	3.38	
	1699	G-13	I	永樂通寶	明	1408	2.40	3.63	
第24回	1700	G-13	I	朝鮮通寶	朝鮮	1423	2.50	3.22	
	1701	G-13	I	朝鮮通寶	朝鮮	1423	2.30	2.70	
	1702	G-13	I	朝鮮通寶	朝鮮	1423	2.40	3.62	
	1703	G-13	I	宣德通寶	明	1433	2.50	3.28	
	1704	G-13	I	不明	-	-	2.20	2.23	
	1705	F-12	I	洪武通寶	明	1368	2.20	(1.80)	
	1706	D-12	I	洪武通寶	明	1368	2.30	2.54	
	1707	-	-	熙寧通寶	北宋	1068	2.40	2.37	
	1708	-	I	洪武通寶	明	1368	2.30	2.80	
	1709	-	I	洪武通寶	明	1368	2.40	2.59	
	F-11	1号墓	不明	-	-	-	(0.11)		
	F-11	1号墓	○武○○	不明	-	2.10	(0.66)		
	F-11	1号墓	洪武通寶	明	1368	2.10	1.32		
	F-11	1号墓	洪武通寶	明	1368	2.10	(0.64)		
	F-11	1号墓	不明	-	-	-	(0.39)		
	F-11	1号墓	不明	-	-	-	(0.81)		
	F-11	1号墓	洪武通寶	明	1368	2.20	1.62		
	I-19	2号墓	不明	-	-	-	(1.41)		
	I-19	2号墓	不明	-	-	-	(2.98)		
	H-18	近世建物	不明	-	-	-	(0.84)		

第46表 近世陶磁器觀察表(1)

擇図 番号	遺物 番号	種類	器 種	出土区	層位 遺構	胎土	釉 (薬)	露胎	焼 成	生産地	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考	
第280 回	1710	磁器	染付	碗	D-12	表	白色	透明釉	疊付	良	肥前	10.5	4.2	7.0	一網目文
	1711	磁器	染付	碗	D-13	表	白色	透明釉 (貫入)	-	良	肥前?	10.7	-	4.7	
	1712	磁器	染付	碗	D-12	表	白色	透明釉	疊付	良	肥前	10.6	3.8	6.6	丸文
	1713	磁器	染付	碗	F-17	表	白色	透明釉	疊付	良	肥前系 (波佐見)	11.2	3.9	5.8	丸文
	1714	磁器	染付	碗	E-12	表	白色	透明釉	疊付	良	肥前系 (波佐見)	8.6	4.1	6.1	柳文
	1715	磁器	染付	小环	D-13	表	白色	透明釉	疊付	良	肥前系	5.9	-	3.5	鳥文
	1716	磁器	染付	小环	D-13	表	白色	透明釉	疊付	良	肥前系	5.6	3.6	3.2	山水文
第281 回	1717	磁器	染付	蓋	D-13	表	白色	透明釉	疊付	良	-	9.2	3.1	2.9	
	1718	磁器	染付	皿	D-13	表	白色	透明釉	疊付	良	-	16.6	11.0	2.2	
	1719	磁器	染付	皿	D-13	表	白色	透明釉	疊付	良	肥前	14.0	8.6	2.7	丸文
第282 回	1720	磁器	染付	碗	D-13	表	白色	透明釉	-	良	肥前	11.5	-	3.8	内面牡丹唐草文 裏文唐草文
	1721	陶器		碗	D-12	表	暗灰色	透明釉	口唇部・側	良	苗代川系平窯	11.4	5.1	6.6	
	1722	陶器		碗	D-13	表	褐色	透明釉	高台疊付	良	堅野治水窯	10.6	4.4	-	
	1723	陶器		碗	D-13	表	白色	透明釉	疊付	良	蘿摩燒山元窯	-	4.8	3.5	
	1724	陶器		碗	C-13	表	灰白色	鉄釉 黒	豊原・高治作	良	龍門司燒	-	15.5	-	
	1725	陶質時期		皿	D-12	表	灰白色	透明釉	-	良	蘿摩燒山元窯	13.8	6.6	3.0	
	1726	陶器		皿	D-13	表	褐色	透明釉	口縁端部一部	良	堅野系?	10.6	4.0	3.9	乳頭の花文
	1727	陶器		皿	E-13 D-13 トレンチ	表	淡黄色	透明釉	腰部～ 高台内面	良	堅野系冷水窯	15.0	-	-	鉄絵
	1728	陶器		蓋	トレンチ1	表	褐色	無釉	-	良	苗代川系平窯	7.1	底径 9.3 径1.3	つまみ 上面にタキ目	
第283 回	1729	陶器		蓋	D-13	表	灰色	無釉	-	良	苗代川系平窯	上8.3	下8.7	-	
	1730	陶器		片口	D-13	表	灰褐色	灰釉 灰綠褐色	口唇部	良	苗代川系平窯	12.6	7.8	10.0	内面に同心円状のタキ目
	1731	陶器		片口	D-13	表	黃灰色	灰釉 浅黄色	口唇部	良	苗代川系平窯	14.2	9.8	9.8	内面に同心円状のタキ目
	1732	陶器		片口	D-13	表	橙色	灰釉 にぶい黄褐色	口唇部	良	苗代川系平窯	13.4	15.8	13.4	口唇部・外底面に貝目当面に 同心円状のタキ目
	1733	陶器		片口	D-13	表	黃灰色	鉄釉 黒	口唇部	良	苗代川系平窯	26.6	-	-	口唇部に貝目
	1734	陶器	懸利	D-13 ピット17	表	褐色	灰釉 灰オリーブ色	内面	良	苗代川系平窯	-	7.8	-		
	1735	陶器	懸利	D-13 ピット17	表	灰色	灰釉 灰黃色	内面	良	苗代川系平窯	-	-	-		
第284 回	1736	陶器	擂鉢	D-13	表	橙色	灰釉 灰オリーブ	口唇部	良	苗代川系平窯	32.8	11.4	15.8	口唇部・外底面に貝目	
	1737	陶器	擂鉢	D-12 トレンチ8	表	にぶい赤褐色	鉄釉 黄褐色	口唇部	良	苗代川系平窯	33.0	-	-	口唇部に貝目	
	1738	陶器	擂鉢	D-13	表	赤褐色	鉄釉 黄褐色	口唇部	良	苗代川系平窯	25.0	-	-		

第47表 近世陶磁器観察表(2)

擇団 番号	遺物 番号	種類	器 種	出土区	層位 遺構	胎土	釉 (業)	露胎	焼 成	生産地	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
第284 回	1739	陶器	罐鉢	D-13	表	にぶい赤褐色	鉄輪 黄褐色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	22.6	-	-	口唇部に貝目
	1740	陶器	壺	D-12	表	にぶい赤褐色	鉄輪 綠灰色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	28.8	-	-	口唇部に貝目
	1741	陶器	壺	D-13	表	にぶい褐色	鉄輪 にぶい赤褐色	良	苗代川系堂平窯	37.0	-	-	口唇部に貝目	
	1742	陶器	壺	D-12 トレンチ8	表	にぶい赤褐色	鉄輪 綠褐色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	31.6	-	-	口唇部に貝目
	1743	陶器	壺	D-13	表	にぶい赤褐色	鉄輪 綠褐色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	25.2	-	-	口唇部に貝目
	1744	陶器	壺	D-13	表	にぶい褐色	鉄輪 綠褐色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	24.2	上津 19.4	7.5	
第285 回	1745	陶器	壺	D-13	表	褐色	鉄輪 綠灰色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	24.2	-	-	翼目状の突き、口唇部に (イタヤガイ?)
	1746	陶器	壺	D-13	表	褐色	鉄輪 綠褐色	口唇部	長	苗代川系堂平窯	-	-	-	
	1747	陶器	壺	D-13	表	灰褐色	鉄輪 黃褐色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	-	-	-	肩部にボタン状の装飾
	1748	陶器	壺	D-12 トレンチ8	表	黃褐色	鉄輪 黃褐色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	17.8	-	-	口唇部に貝目
	1749	陶器	壺	D-13 また出	表	褐色	鉄輪 黒褐色	-	良	苗代川系堂平窯	-	21.0	-	外底面に貝目
	1750	陶器	壺	D-13 また出	表	灰褐色	鉄輪 綠褐色	-	良	苗代川系堂平窯	-	21.6	-	外底面に貝目
第286 回	1751	陶器	毛利	D-13	表	灰褐色	鉄輪 暗灰褐色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	31.6	16.5	17.5	口輪部・外底面に貝目、口端部 直にダクネ状の突出柱
	1752	陶器	瓶	D-13	表	灰褐色	鉄輪 黒褐色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	32.0	-	-	口唇部に貝目
	1753	陶器	瓶	D-13	表	灰褐色	鉄輪 黒褐色	-	良	苗代川系堂平窯	-	17.0	-	外底面に貝目
	1754	陶器	壺	D-12 トレンチ8	状	黃褐色	鉄輪 黃褐色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	14.8	-	-	口唇部に貝目
	1755	陶器	壺	D-13	表	灰褐色	鉄輪 綠黑色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	14.2	-	-	口唇部に貝目
第287回	1756	陶器	埴木鉢	D-13	II	黃褐色	無輪	-	良	苗代川系堂平窯	33.4	15.0	17.1	口輪部と口唇部に著食、腹部に 走るストライプ状の突起、直面に 平行の溝の手配
第288 回	1757	陶器	動物形 土器品	D-13	表	暗灰色	鉄輪 褐色	-	良	苗代川系堂平窯	幅5.6	-	高さ 3.8	犬形
	1758	陶器	碗	D-13	表	暗灰色	透明釉	-	良	肥前	11.8	-	5.2	
	1759	陶器	碗	D-12	表	黃白色	透明釉	豊付	良	肥前系	10.8	4.6	6.4	京焼風陶器 山水文
	1760	陶器	皿	-	表採	にぶい 黃褐色	鉄輪 黄褐色	腰部～ 高台内面	良	肥前	-	3.7	-	内面に直角面と臺形面が有り、 外側邊土目なし
	1761	陶器	大皿 (く)	D-13	表	灰色	透明釉	豊付	良	肥前	-	10.0	-	内面3ヶ所斜面あり、象嵌技法による 象眼目跡
	1762	陶器	楕円鉢	D-13	表	赤褐色	透明釉?	内面	良	備前	10.4	3.3	3.0	
第289 回	1763	陶器	高壺?	D-13	表	灰褐色	無輪	-	良	?	-	17.8	-	
	1764	瓦質土器	火鉢	D-13	表	にぶい褐色	-	無輪	良	?	31.0	-	-	
	1765	陶器	サヤ鉢	D-13	表	褐色	-	無輪	良	苗代川系堂平窯	-	15.9	-	内面に螺付着
	1766	陶器	壺?	E-13	表	にぶい褐色	鉄輪 黑色	口唇部	良	?	-	-	-	

## 第XI章 発掘調査のまとめ

### 1 旧石器時代

向椿城跡のⅦ層出土からは、旧石器時代ナイフ形石器文化・細石刃文化・縄文時代草創期の遺構・遺物が発見された。ナイフ形石器文化では、ナイフ形石器7点、台形石器7点、剥片尖頭器4点、尖頭器2点、三稜尖頭器1点、スクレイバー42点、二次加工剥片19点、楔形石器18点、石錐3点、剥片類8点。その他、細石刃文化の細石刃150点、細石刃核68点、プランク9点が出土した。また、細石刃文化から縄文時代草創期にかけての石鏃97点、凹石・敲石・磨石も多数出土した。

遺物はⅧ層から出土したが、これらの遺物には時間差があり共伴遺物として捉えるには問題がある。また、出土状況であるが、第9・10図のようにブロック状にみられたが境界ラインが不鮮明で、一括して取り上げた。ただ、細石刃・細石刃核で多く利用された凝灰岩のブロックはG-10・11区に集中していた。ナイフ形石器は片側縁にプランティングが施されたもので、頁岩を石材に用いたものが主であった。台形石器は小型のもので、剥片尖頭器とは時間差があるものと考える。宮田栄二氏が「小原野型尖頭器」と呼んでいる両側縁を腹面側からの急角度でプランティングを施し、打面付近に基部調整を施した尖頭器も出土した。

細石刃・細石刃核の石材については特徴があり、細石刃は黒曜石が多く、133点の石材割合をだすと黒曜石67%（針尾28%、上牛鼻19%、腰岳12%、三船8%）、凝灰岩20%、安山岩7%。細石刃核は68点中、凝灰岩66%、上牛鼻20%、三船12%を示し、石材の相違があることがこの遺跡の特徴である。

遺構については、集石2基と配石遺構が検出された。配石遺構は一部後世の遺構等により破壊されていたが、県内の縄文時代草創期に検出される舟形配石炉と考えられる。

草創期の遺物については、土器と石鏃の共伴関係がある。石鏃は石材に特徴があり、安山岩製が多く97点中70点(72%)、黒曜石19点(20%)、その他8%となっている。(文責：牛ノ瀬 修)

### 2 縄文時代

縄文時代は、中世から現代までの間の削平により、多量の遺物は出土したもの、包含層からの出土は少なかった。安定して出土したのは、Ⅶ層の草創期が主であった。特徴としては、調査区の南東端の部分のみからの出土であること、配石遺構が1基検出され、その形状は舟型配石炉に近いものであった。遺物は、石鏃が約80個程度と多量であったことである。また、土器は約350ほどの破片が出土した。その特徴は、風化は著しいが、隆帶上の刻目については2種に分けられる。刻目が細く深いものはヘラ状の施文具で、刻目が幅広く浅いものは貝殻の肋頂部の押圧痕を施すタイプであると言える。

他の縄文時代の時期では、早期、前期、中期、後期、晩期とほとんどの時期の遺物が出土している。量的には、南福寺式土器及び市来式土器が他の土器に比べて多いが、いずれも破片のみである。完形に図上で復元できたのは、縄文後期と思われる形式不明の無文土器が2点(736・737)のみであった。

遺構は、集石遺構数基と黒曜石原石の集積遺構1基（第48図）が検出された。これらの遺構は、中世で言う曲輪1と曲輪2の間の部分でほとんどが検出されたことから、たまたま削平をのがれ、残存し得たものであると言えよう。中世の遺構中から多量の石器が出土することからもこのことが伺える。また、前述の黒曜石の集積は、上牛鼻産の黒曜石で構成されており、遺構中から深浦式が1点出土し、その周辺からも深浦式の土器が出土したことから、この黒曜石原石集積遺構は、深浦式の時期に近いものと考えられる。（文責：木之下悦朗）

### 3 古墳時代

古墳時代は、11軒の住居跡が縄文時代草創期の遺物が出土した位置とほぼ同じ、調査区の南東部から検出された。これら11軒以外に表土からは、多量の成川式が出土したこと、住居跡も検出面から床面までが20cm前後であることを考えると、かなりの数の住居跡が存在していたことが考えられる。

住居跡のプランは、ほとんどが方形であり、切り合いはあるものの、検出された遺物の壺形土器で考えると、ほとんどがゆるやかな「く」の字状に外反するものばかりであり、成川式土器のなかでも、中津野式から東原式の時期にかけてのものと考えられる。

また、遺物として特徴的なものは、1号住居跡床着の破鏡（950）と10号住居跡を中心として出土したタタキのある土器である。破鏡は、表裏面とも非常に滑らかで深緑色の光沢があるものである。ただし、それ以上の特徴がないため、鑄造時期や出自については明らかにし得なかった。

タタキのある土器については、平行タタキがほとんどであり、作りは粗くいびつなものが多いが、内面のナデは丁寧であり、當て具が観察できるものはあまりない。器形については、1040のように成川式土器の壺形土器を意識したものと、1067や1068などの破片からすると、須恵器の壺のような大型のものも存在していたのではないかと考えられる。また、この土器は、現在までのところ旧東町の山門野遺跡、旧川内市の麦之浦貝塚及び現在整理中の旧金峰町の上水流遺跡などだけであり、それも東シナ海沿岸の遺跡のみだけである。今後の、資料の増加に期待したい。（文責：鶴田静彦）

### 4 古代

古代の遺構・遺物は旧石器時代、縄文時代草創期、古墳時代の遺物・遺構が検出された調査区南東部、いわゆる曲輪3が中心で曲輪1から土坑数基が検出されている。その間の曲輪2の部分からは、全く古代に関連する遺物・遺構はみられなかった。後世の削平については、他の時期と同様で著しく、表土からは多量の土師器が採集された。

古代においては、竪穴遺構1基、円形周溝遺構1基、土坑5基が検出された。曲輪3では、竪穴遺構1基、円形周溝遺構1基、土坑2基が検出された。竪穴遺構については、遺構内出土の土師器壺は、外面はナデやハケ目が、内面は底部からはケズリが上面に向かい、腹部は左斜め上に向かって施され、また口縁部にはハケ目が施されている。器面調整や器形から判断すると、大島遺跡では壺2類、高篠遺跡では、壺8類・時期はⅢ期に類似することから、9世紀～10世紀のものと考える。

円形周溝遺構については、南東側1/3部は削平により消滅していた。周溝の主体部南側から、土師器の皿2枚と壺2枚の計4枚の土師器を検出している。全て底部の処理はヘラ切り底であり、その後の成形等は若干の板ナデ状のものが観察される。調整や器形から判断すると、皿は大島遺跡の皿3類、高築遺跡では、法量が小型、形態はⅢ類、時期はⅢ期に、壺は大島遺跡の壺10類、高築遺跡では、壺6類、法量は大型、形態はⅢ型、時期はⅢ期に類似するものである。これらのことから、この円形周溝遺構も、遺物から9世紀～10世紀の遺構と言えよう。

また、特殊な遺構として、土坑1と土坑2がある。いずれも縄文時代の大型の石器を転用したものと思われ、これらの上面や周辺には、カーボンや土師器の小片が大量に散乱していた。何らかの特殊な土坑として、作られたものと思われる。

遺物としては、F-11区において1点ではあるが、越州窯系青磁の碗の底部（1142）が出土している。黄緑色を呈する蛇の目高台の青磁碗で10世紀頃のものであると思われる。

曲輪1では、3基の土坑が検出された。土坑4では、銅鏡10枚が出土している。銅鏡から11世紀～12世紀前半（P180の表参照）の遺構と考えられる。なお、この遺構の東側は、大規模なシラス採取がおこなわれたことから、東側にも遺構が存在していた可能性は、中世を含めてきわめて大きいものと言える。（文責：木之下悦朗）

## 5 中世

### （1）中世の東市来

現在の日置市東市来町は古代の律令制下では日置郡にあたる。やがて当地は市来院と呼ばれるようになり、郡司である市来氏が治めていた。市来氏は宝亀年間（770年～780年）に薩摩国に向した大蔵姓市来政房を祖とする。やがて大蔵姓市来氏は鎌倉時代前期、家房の時に嗣子がなく、薩摩郡の土豪である惟宗姓国分友成の子政家が継いで、以後惟宗姓となった。元寇の際、惟宗姓市来政家は島津久経に従って博多に出陣している。

南北朝時代になると、島津氏5代貞久は北朝側の足利尊氏から市来院地頭に任せられた。そのため南朝方の市来院郡市来氏と激しく対立し、市来（鶴丸）城（長里地区）を中心にしばしば合戦が行われた。特に建武4（1337）年～暦応3（1340）年には2代資家・3代時家が、南朝の三条泰季に属して、河上家久や伊集院忠国らと共に島津貞久勢と激しく戦った。その結果、興國2（1341）年に市来城は落城し、市来氏は降伏した。しかし、それ以後も市来城は市来氏によって領有された。争いは続き、文和2（1353）年、4代氏家が南朝方の伊作田兵部丞（伊作田城主）と共に挙兵し、貞久の居城木牟礼城（出水市高尾野）を攻めている。

15世紀に入り、島津家の内部抗争はあるものの、当地は市来氏による領有が続いた。やがて、7代久家は守護島津忠国と激しく対立した。そして、寛政3（1462）年に忠国の世子10代立久が市来城を落城させ、市来氏は滅亡した。久家は追放となり、替わって文明6（1474）年からは島津家重臣の高橋高幸と曾木某が配された。滅亡後の市来院は、薩州島津家による支配となる。

16世紀に入り、守護島津勝久、薩州家島津実久、相州家島津忠良・貴久父子の対立が激化するが、市来勢は薩州家出水島津家に与している。天文8（1539）年、実久は市来院地頭に新納忠苗を任せ、島津忠房と共に市来城を守らせていたが、貴久率いる薩州勢に攻められ落城した。それ

以後は、貴久の武将、新納康久が城番となった。その間当城には、天文19（1550）年にフランシスコ・ザビエル、永禄4（1561）年にはルイス・アルメイダが滞在し、布教を行っている。

藩政時代には旧市来町を含め市来郷と呼ばれ、藩の直轄領となった。市来城はその役目を終え、自然廃城となり、城山を中心として武士の居住する麓が形成された。地頭仮屋は初め当地に置かれていたが、やがていちき串木野市湊町に移った。現在、長里地区の麓には「カンヤドンイド（仮屋の井戸）」と呼ばれる古井戸が残っている。

最後に向椿城の所在する伊作田地区について述べる。向椿城の南側には広大な伊作田水田が開け、江口川を挟んで椿城、伊作田城が対峙している。伊作田城は南北朝時代に伊作田氏が築き居城していた。伊作田道材は市来氏と共に南朝に属していたが、伊作島津家に敗れ、当地で処刑された。当地には7基の宝塔・五輪塔があり、これらは伊作田道材と家臣の墓と伝えられている。また、無形民俗文化財に指定されている伊作田踊りはこの道材の慰靈が主になっている。向椿城の居城者が誰であったかは定かではないが、伊作田惣地頭であった伊作田氏の管理下にあった可能性は否定できない。藩政時代には、向椿城に隣接する弁財天岳（遠見番山）には、異国船の監視にあたる遠見番が置かれた。向椿城も海を臨み、展望のできる場所にあり、得仏城・市来城・平之城などの一連した城群の出城的な機能に適していると考えられる。向椿城からは、12世紀から17世紀前半に至るまでの遺物が出土していることから、17世紀の一国一城令が出される時期までは城館として機能していたことは明らかである。（文責：松元佑輔）

## （2）向椿城について

### ・遺構

#### 空堀・曲輪等

大きな意味で、防御として向椿城跡の遺構をとらえると、堂園平遺跡との間には、南九州特有のシラスの開析谷という自然地形を利用した空堀、そして空堀の中にも曲輪を作っている。また、その周辺には、小さな空堀を分岐させて作り、本体の曲輪の斜面には、いくつにも帶曲輪を廻らすなど空堀の機能を強化させている。

曲輪1の南西側から曲輪2の西側にかけては、「空堀及び土坑群」、「大型円形土坑」と便宜上呼称したが、堀や溝と土坑を巧みに組み合わせて西側からの寄せ手に備えているようと思える。また、路線外ではあるが、東側には、土壘と空堀状の谷が存在している。曲輪2の南側に立ち伊作田城及び東シナ海を眺めると何もさえぎるものはなく、「眺望」が大きな防衛施設であると言えよう。

#### 掘立柱建物跡

曲輪1のI・J-25・26区から3棟検出した。標高約50mに位置し、南側に曲輪2を臨むことができる。掘立柱建物跡2と掘立柱建物跡3は軸を同じくし、掘立柱建物跡1は掘立柱建物跡2と切り合っていることから、使用時期が2期に分かれる。遺物は出土していないが、同じく曲輪1の不明遺構（H-27区）からは中世の遺物が出土していることから、同時期の遺構であると考えられる。

#### 堅穴造構

曲輪2のI・J-17・18区で3基検出した。3基とも平面形は方形で、東西方向にやや長い軸

を持つ。なお、竪穴遺構3から採取された2点のサンプルは科学分析の結果、床面近くの木炭は鎌倉時代後期、埋土中の炭化材は室町時代前半期の値を示した。この結果は遺構の使用または廃棄の時期を考える上で重要な資料となった。埋土中からも当該期に近い時期の遺物が出土していることからも、時期設定は妥当なものであろうと考える。

堂込秀人氏は、中世山城における竪穴遺構について、掘立柱建物跡の周辺に位置し、鍛冶場などの鉄関連施設や皮革製品の加工工房としての機能を持つものとしている（堂込1999年）。県内の中世城館での検出例には、阿久根市中之城跡、薩摩川内市上野城跡などがある。

中之城では竪穴遺構と考えられる方形土坑が4基確認されているが、遺跡からは向椿城跡の炉跡に類似する焼土遺構も4基確認されている。上野城跡では方形竪穴遺構5基に伴って中世掘立柱建物跡が32棟確認された。本遺跡の曲輪2では竪穴遺構の北側にあたるI-20・21区から、9基の炉跡が検出されている。また、掘立柱建物跡は3棟とも曲輪1で検出されているため、明らかに曲輪ごとに遺構の機能を分けていた可能性がある。

本遺跡の炉跡が鉄関連の施設として使用されたかは定かではないが、竪穴遺構との何らかの関わりがあったことは確かである。

#### 炉跡

向椿城は3か所の曲輪からなる中世城館である。全19基の炉跡は曲輪1の第1地点と曲輪2の第2地点・第3地点において集中して検出された。県内の類似する遺構には、炉、炉状遺構、竈（カマド）、カマド状遺構、焼土を伴う土坑などが挙げられる。また、中では鉄関係の炉としての機能が注目され、カマド状遺構が鍛冶炉に転用されたという事例もある。本遺跡からはG-10区で轍の羽口が1点出土したもの、鉄滓や鍛造剥片といった鉄生産関係の遺物は出土しておらず、鍛冶炉としての断定は難しかった。しかし、遺物が出土していないだけで、鍛冶炉として使用された可能性も考えられる。そのため本報告書では炉跡とした。内部構造の詳細についてはすでに述べたが、これらの炉跡は形状からして大きく3種類に分けられることがわかった。以下、分類をもとに地点ごとに説明を行なう。遺構の位置については、第240図の炉跡位置図を参照していただきたい。

**I類：**平面形は楕円形（長楕円形）、あるいは瓢箪形を呈している。炉部・焚き口部・灰出し部にはっきりと区分できるもので、炉部は半円形又は馬蹄形のものがある。底部の床面は船底のように平坦である。全19基の炉跡の大半を占める。**1・2・3・4・5・8・10・15・16・17・18・19号炉跡**がそれにあたる。

**II類：**形態はI類に似ているが、灰出し部がI類ほど明確に区別できない。また、灰出し部の上面に粘土が厚く堆積している。この粘土は、炉壁とは明らかに色調を異にしており、白みを帯びている。I類に比べて炉壁の残存状態が良い。第2地点（曲輪2）で検出された。**9・11・12・13号炉跡**がそれにあたる。

**III類：**円形の炉部のみで、焚き口部と灰出し部は確認されない。3基のみであり、第2地点（曲輪2）で検出された。**6・7・14号炉跡**がそれにあたる。

第1地点（曲輪1）では1号炉跡から5号炉跡までの5基が検出されている。2号炉跡及び、4号炉跡は残存状態が悪いため類別が困難であったが、ここではI類とした。**1・3・5号炉**は

I類にあたる。使用時期の差を明らかにすることはできなかった。ただ、炉跡の集中しているF・G-12・13区からは中世後半期の青花が出土している。また曲輪1全体をみると、明代の古銭や中世墓といった中世の遺物や遺構が確認されていることからも、同時期の遺構であると考えられる。

第2地点（曲輪2）では6号炉跡から14号炉跡までの9基が検出された。6・7・8・11号炉跡からは炭化材が採取された。鎌倉時代後半から江戸時代初頭にかけて使用された炉跡群であることが判明した。I類・II類・III類は同時期に使用されていることから、これらは機能に違いがあったと考えられる。また、II類の灰出し部に堆積していた粘土は、色調も黄白色であり、炉壁とは明らかに異質なものと考えられた。しかし、色調の違いは被火の具合によるもので、単に炉壁の上部が崩れて堆積した可能性も考えられる。ここではI類とII類を区分したが、本来同類の遺構であるかもしれない。この第2地点は最も炉跡数が多く、遺構の南部には竪穴遺構が3基集中している。曲輪ごとに分業を行なっていた可能性が高い。

第3地点（曲輪2）からは、15号炉跡～19号炉跡までの5基が検出された。すべてI類であり、長軸も同一方向に設定されている。曲輪2は第3地点と第2地点との間に空堀及び土坑群が所在している。中世の陶磁器が多く出土していることから、中世の遺構と考えられる。

中世の炉跡について県内の事例をみてみると、出口浩氏は川上城跡において平面形からA（円形）とBの（長楕円形）の2タイプに分類している（鹿児島市教委1994年）。Aタイプは小ぶりな碟を半円形ないし馬蹄形に並べるものである。炉壁の高さや、灰出し部が明確に確認できないもので、臨時的又は短期的に利用された簡易的な炉とした。鹿児島市川上城跡の他に霧島市横川城、日置市一字治城、鹿児島市谷山弓場城等で出土している。鹿児島市油須木城跡でAタイプとされている炉跡は、碟ではなく粘土で炉壁が形成されていた。本遺跡の炉跡も、炉壁はすべて粘土で形成されており、碟を使用したものは確認されなかった。このタイプは本遺跡のIII類と類似している。

Bタイプは炉部・焚き口部・灰出し部などが区別できるもので、比較的精巧に作られるものである。炉壁等は凝灰岩碟を含む粘土でしっかりと焼き締められ、床面には焼土・灰の堆積が多くみられる。地域の拠点となる山城・城館や中心郭などにみられるもので、長期間に多くの人々が使用したものとされた。川上城、横川城、一字治城の他に、鹿児島市油須木城、大口市平泉城、さつま町松尾城及び宗功寺跡、加世田市上加世田遺跡-1第II地点等で出土している。中世の炉跡で最も検出例が多く、本遺跡のI類に類似している。また、大崎町金丸城跡で検出された炉跡は、焚き出し部で軽石がゲート状に並ぶものであった。こうしてみると、炉跡は主に2つに分類できるが、これらは一様に同じ遺構とは言えず、在地によって多様性があることがわかった。それらは遺跡の立地や環境、又は機能の違いによるものと考えられる。（文責：松元佑輔）

#### ・遺物その1

さて、この城の築城から廃城までの足取りは、その遺物などからある程度伺える。なかでも陶磁器の出土が多いため、これらを参考に本城の変遷について考えてみたい。

曲輪3で出土した青磁及び土師器の埋納一括資料は、龍泉系初期のものである。また、玉縁口縁の白磁碗も多数出土していることからも、この城の築城は12世紀末から13世紀に始まったと言

える。

次に多いのが蓮弁文系等の青磁碗である。日本の歴史の中に位置付けると、南北朝の動乱期にあたり、前述の「中世の東市來」とも符合する。空堀や土坑等からも当該期の遺物が多量に出土している。何回もの城の造成と幾多の攻防があり、築城当時からの城の形もこの時期に大きく変わったと考えられる。また、この時期が最も活発に城が機能していた時期と言えよう。

その後は、線描蓮弁文型や白磁皿などの出土の時期であり、戦国時代にあたると言えよう。これら以外に、目立つのが、漳州窯系の遺物である。この漳州窯は1585年から1615年ごろまでの間と言う短い間だけ機能していたと言われている窯である。この窯産と思われる遺物が非常に多く、図化したのは1593～1607だけであるが、その何倍以上もの量が出土している。この漳州窯系の青花が山城としては、中世最後の出土遺物と言える。

#### ・遺物その2

ここでは、特異な遺物について触れておく。1462は、最近本土でも最近散見するようになってきた徳島産のカムイヤキである。1608～1610は、福建広東窯系の褐釉壺でその時期は、13世紀代と思われる。1498は、見込みには如意頭文、外面には線象嵌を施す高麗青磁で高麗末から朝鮮王朝初期のものである。

1292・1293は、普通茶釜として用いられ、茶室で木炭で安定した温度に保っておくため、大きな火力は必要としない。ところが、本城出土のものは鍔から下はススで真っ黒なことから、大量の湯の必要性があったと考えられる。1310・1311は、朝鮮王朝白土粉青の青磁の丸皿で、忠清南道保寧「龍水里窯」産で、時期は14世紀末であろうと、「龍水里窯」を発掘された韓国の羅善華先生からご教示いただいた。1579は、粘土紐を貼り付けて高台とし、菊花文を型押ししたもので、志野白釉輪花小皿で、日常食器ではないものと思われ、その時期は、16世紀末～17世紀初頭である。1612は、熊本県の浜の館で、対で出土したことで知られる綠釉陰刻牡丹文水注である。時期は、浜の館では15世紀末としている。1621～1627は、天目碗で、1621はガラス質の厚い釉掛、胎土等から中国産と思われる。他は、美濃産である。

1580～1584・1586・1588～1592は、景德鎮系の青花である。特に、1589は、メンコとして用いたような加工の跡がある。また、1592の高台内は、景德鎮特有の鉄鉋の跡が明瞭に観察されるものである。

1349・1613～1617は、最近南九州でだんだん資料が増えつつある黒褐色を呈する陶器で、中国南部のものではなかろうかと言われているものである。(文責:鶴田静彦)

## 6 近世

近世の遺構は、H-18区いわゆる曲輪2の南端部とD-13区を中心とする曲輪3より一段低い部分の2か所から検出された。

#### ・掘立柱建物跡について

H-8区から検出された掘立柱建物跡は4軒×1軒でその桁行は東西である。柱穴の径も50cm前後で、柱痕跡が最大で40cmと言うような柱穴もある。ほとんどの柱穴が根石を持ち、柱の高さ調節用の土の上に根石を置き、その上に柱が建てられていたものと思われる。削平された部分を

考慮すると柱は、1m以上の埋設部分があったと想像される。291ページの柱穴間の計測値からもかなり大規模で特殊な建物であったことが考えられる。

次に向椿城におけるこの建物の立地条件をみてみると、尾根状の最も見晴しの良い場所（標高約50m）で、伊作田の水田地帯が一望に見渡され、そして、その先には、伊作田城、東シナ海が見渡せ、振り向くと鶴丸城が見えると言う位置である。また、長辺である桁行は8mあり、東シナ海に平行しているように建てられたかのように思える。

このように、この建物の規模及び立地条件を考慮すると、その性格は、物見櫓的なものと考えられる。時期については、根石を持つ建物であること、建物の柱穴から近世の遺物の小片が若干出土したのみであることなどから、未だ、中世の凄惨な攻防の匂いの残る時期、中世末から近世初期と思われる。（文責：鶴田靜彦）

#### ・近世の陶磁器について

D-13区を中心に、その周囲から陶磁器が出土した。これらの陶磁器は、同区で建物跡としては確認できなかったが柱穴が数多く検出されていることから、当時何らかの建物が存在し、それに伴う遺物であると考えられる。そこで出土した遺物から、この柱穴群の性格について若干の考察を述べておきたい。

出土した遺物は肥前系磁器・薩摩焼・肥前系陶器等であり、その中で目に付く特徴は次のようないることである。

肥前系磁器（1710～1720）について、1713・1714は18世紀後半～19世紀代と思われる染付で、波佐見焼のくらわんか碗であるが、その他は17世紀後半～18世紀代と思われる肥前の染付・白磁や1点であるが色絵の碗も見られ、上手の製品である。また、未掲載の陶片の中にも上手のものが多い。

薩摩焼（1721～1757）は出土した陶磁器の中でも多く、その中でも苗代川焼（1721・1728～1757）が大部分を占める。器種は碗・蓋・片口・徳利・擂鉢・壺用の蓋・壺・壺・把手付壺・瓶・植木鉢・動物形土製品等様々なものが出土している。胎土は緻密で灰褐色系の色調を呈し、光沢の弱い褐釉や灰緑色系の灰釉が薄くかかる。成形方法は粘土紐巻き上げ後、タキ成形を行っている。その他器形や器種の構成等から、これらの苗代川焼は堂平窯（日置市東市来町）のⅡ期（17世紀中頃～後半）の製品と考えられる。堂平窯の製品については近年の報告書刊行によりその様相が明らかにされたため、消費地での出土例は少ない。本遺跡は堂平窯と同じ日置市東市来町に所在するという地理的な条件もあり、堂平窯の製品が出土することは不思議ではないが、このような器種構成で大量に出土したことは、柱穴群の性格を考える上で興味深い資料である。中でも植木鉢は、藩の特注品として生産されていたものと思われ、その流通も限られた社会的身分のみであったと考えられる。その他の薩摩焼としては、豊野系の製品で「白薩摩」と呼ばれる白色陶胎の碗（1722）や皿（1726・1727）、山元窯（姶良郡加治木町）の碗（1723）や皿（1725）等、17世紀後半のものと思われる資料が出土している。特に豊野系白薩摩については、渡辺芳郎氏が、当時の社会的身分や階層と結びついて流通している可能性を指摘しており、柱穴群の性格を考える上で興味深い資料である。

肥前陶器は、18世紀前半頃と思われる京焼風陶器が出土しているほか、やや時代は遡るが16世

紀末～17世紀始め頃と思われる胎土目の皿、砂目で象嵌技法による三島手の大皿も出土している。その他、備前産の餌擂鉢が数個体出土している点も興味深い。

以上のことからD-13区を中心とした地域から出土した陶磁器は、17世紀後半頃と思われる資料が中心であり、その様相としては、上手の肥前系陶磁器や堂平窯産の植木鉢、豊野系の白薩摩、肥前産の餌擂鉢が出土していることなどから、当時の社会的身分や階層を有するものが使用していた可能性が考えられる。従って柱穴群の性格を考察すると、建物跡には復元できなかったものの、この場所に17世紀後半を中心とした時期に地方役人クラスの屋敷等の建物が存在した可能性が考えられよう。（文責：閑明恵）

## <参考文献>

- 【9日田遺跡】1993 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（2）  
『一清松山遺跡』1996 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（19）  
『千道跡』1997 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（22）  
『垂木・宮之城為津家屋敷跡』2003 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（48）  
『植元遺跡』2003 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（57）  
『上野城跡』2004 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（68）  
『上ノ平遺跡』2004 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（70）  
『高篠遺跡』2004 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（71）  
『桐木遺跡』2004 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（75）  
『大鳥遺跡』2005 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（80）  
『桐木耳取遺跡』2005 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（91）  
【中ノ原遺跡】2006 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（102）  
『堂岡平遺跡』2006 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（104）  
『市ノ原遺跡5地点』2006 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（105）  
『伊平窯跡』2006 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（106）  
『安茶ヶ原遺跡』2007 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（118）  
『中原遺跡』2003 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（54）  
『苦辛城跡』1983 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（27）  
『成岡遺跡・西ノ平遺跡・上ノ平遺跡』1983 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（28）  
『鹿児島県の中世城館跡－中世城館跡調査報告書－』1987 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（43）  
『櫻崎A遺跡』1992 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（63）  
『太宰府塙跡XV-陶磁器分類編』2000 太宰府市の文化財（49）  
『草野貝塚』1988 鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書（9）  
『谷山弓場城跡』1992 鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書（11）  
『川上城跡』1994 鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書（18）  
『油原城跡』2003 那珂郡埋蔵文化財発掘調査報告書（4）  
『平泉城跡』1982 大口市埋蔵文化財発掘調査報告書（1）
- 【山門道跡】1983 東町埋蔵文化財発掘調査報告書（1）  
『中之城跡』2003 阿久根市埋蔵文化財発掘調査報告書（4）  
『金丸城跡』2004 大隅町埋蔵文化財発掘調査報告書（4）  
『中原道跡』1985 志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（9）  
『一勝山道跡』1981 上屋久町埋蔵文化財発掘調査報告書  
『川上（市来）貝塚』1991 市来町埋蔵文化財発掘調査報告書（1）  
『川上（市来）貝塚』1993 市来町埋蔵文化財発掘調査報告書（2）  
『伊作田城跡』1995 来市来町埋蔵文化財発掘調査報告書（6）  
『松尾城及び宗寺跡』1997 宮之城町埋蔵文化財発掘調査報告書（7）  
『上之城跡』1980 加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書（2）  
『上賀茂遺跡-1（第Ⅲ地点）』1985 加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書（3）  
『妻之瀬貝塚』1987 川内市土地開発公社 本川地区造成事業に伴う文化財発掘調査報告書  
『柳井谷遺跡』1986 志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（6）  
『日輪城跡』2003 大隅町埋蔵文化財発掘調査報告書（28）  
『浜の船』阿蘇大宮司居館跡 1977 熊本県教育委員会熊本県文化財調査報告書（21）  
『歴史の道調査報告書 第1集「出水筋」』1993 鹿児島県教育委員会  
『鹿児島考古』第25号「市来貝塚特集」1991 鹿児島県考古学会  
『鹿児島考古』第28号「特集 鹿児島県の中世山城」1994 鹿児島県考古学会  
東洋陶磁学会編 2002 東洋陶史－その研究の現在－  
九州陶磁学会編 2000 九州陶磁の編年－九州近世陶磁学会10周年記念  
日本貿易陶磁研究会編 1998 貿易陶磁研究 No.1-No.5 六一書房  
中世土器研究会編 1995 『概説 中世の土器・陶器』 真喜社  
海闊美術館編 『海闊陶磁美術館 海闊美術館図録 第1冊』1990  
海闊美術館  
兵庫県埋蔵文化財調査会編 1996 日本出土鉄鉈 軍庫県埋蔵文化財調査会  
鹿児島県立埋蔵文化財センター編 2004 「研究紀要・年報」「縄文の森から2号」 波多江武士、「石清水型削器小考」  
渡辺芳郎 2000 「宋胡鏡と羅摩傳宋胡鏡－考古学資料の検討－」  
『メコン流域の文明化に関する考古学的研究』鹿児島大学法文学部  
渡辺芳郎 2001 「考古学から見た近世薩摩焼」『鹿児島のプロファイル2』鹿児島大学  
小郡 隆 2005 「中世城館の考古学的研究」 漢水社  
竹内 理三編 1983 「九州日本地名大辞典」46 鹿児島県 角川書店  
芳 五正・五・克夫編 1998 「日本歴史地名大系第47巻」 鹿児島県の地名 平凡社  
東市来町誌編さん委員会 2005 「東市来町郷土誌」

# 写 真 図 版





空堀遠景



調査中の故勇氏



発掘風景

土層断面図・調査中の故勇氏



剥片尖頭器出土狀況



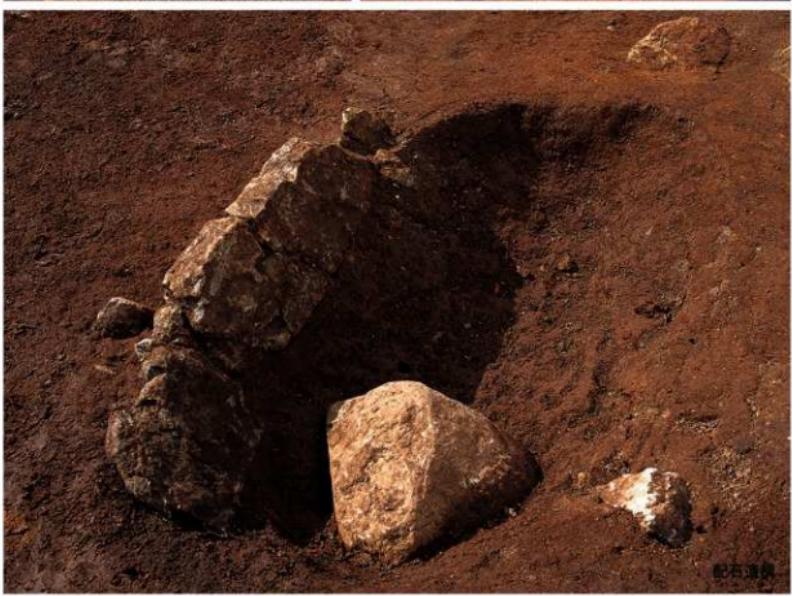
旧石器時代遺物出土狀況



縄文時代草創期遺物出土狀況



縄文時代草創期土器出土狀況



石垣

旧石器・縄文時代草創期遺構